

平成30年度 昼間・土曜スクーリング(前期)の手引

スクーリング受講手続日程			保健体育講義Ⅰ・体育実技のみ
① 受講手続説明会	4／5(木)	4／5(木)	
② 受講申込開始日 (ポータルサイト)	4／5(木)	6／28(木)	
③ 履修登録締切日 受講申込締切日	4／19(木)	7／11(水)	 <u>ポータルサイト【24:00まで】</u> <u>窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】</u> <u>郵送の場合【必着】</u>
④ 受講資格審査 通知予定期	5／11(金)	7／25(水)	 ※ポータルサイトに掲載します。
⑤ 振込用紙発送予定期	5／11(金)	7／25(水)	 発送予定期から5日経過しても通知が届かない場合は会計課に連絡してください。
⑥ 受講辞退手続締切日	5／18(金)	8／2(木)	 <u>窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】</u> <u>郵送の場合【必着】</u>
⑦ 受講料納入期限	5／25(金)	8／13(月)	 <u>銀行窓口にて【厳守】</u>
⑧ 結果通知予定期	9月上旬	10月上旬	 ポータルサイトに掲載します。

開講日程

昼間開講日程	4／10(火)～7／27(金)
土曜開講日程	【4月】14・28 【5月】26 【6月】2・9・23・30 【7月】7・14
補講予定期	7／14(土), 7／23(月)
体育実技開講日程	9／2(日)～9／4(火)
保健体育講義Ⅰ開講日程	9／5(水), 9／6(木)

開講日程

開講日程

年	月	日	月	火	水	木	金	土
平成 30 年	4月	1		2		3		4
		8		9		10	前期 曜1	11
		15		16		17	前期 曜2	18
		22		23		24	前期 曜3	25
		29	昭和の日	30		1		2
	5月	6		7		8	前期 曜4	9
		13		14		15	前期 曜5	16
		20		21		22	前期 曜6	23
		27		28		29	前期 曜7	30
	6月	3		4		5	前期 曜8	6
		10		11		12	前期 曜9	13
		17		18		19	前期 曜10	20
		24		25		26	前期 曜11	27
	7月	1		2		3	前期 曜12	4
		8		9		10	前期 曜13	11
		15		16	海の日	17	前期 曜14	18
		22		23	前期 補講日	24	前期 曜15	25
				30		31		1
夏 休 み								

	26			28		29		30		31	
9月	2	体育実技	3	体育実技	4	体育実技	5	保健体育講義I	6	保健体育講義I	7
	9		10		11		12		13		14
	16		17	敬老の日	18		19		20		21
	23	秋分の日	24		25		26		27		28
	30										

…授業日及び補講日
補講は7月14日(土), 7月23日(月)の2日間だけでなく, その他の曜日にも実施することがあります。補講が行われる場合, 指定された補講日に出席する必要があります。

また, 補講を行う时限は他講座の補講日程の関係上, 必ずしも通常と同じ时限で開講されるものとは限りません。以上のことと承知した上で申込みをしてください。

はじめに

直接授業（スクーリング）とは、教員による直接の講義・演習・実技を受講することをいいます。その目的は、教材による在宅学修では十分に学修効果を上げることが困難な科目の一面を補い、教育効果を高めることにあります。このような主旨・目的から、スクーリングは卒業のための必修となっています。

本学の通信教育部では、学生に多くの受講機会が得られるよう、多種多様なスクーリングを開講しています。この『手引』は、その実施要領などをとりまとめて掲載しています。

スクーリングを受講希望する場合には、手続きの前にこの『手引』をよく読み、その指示に従って受講してください。

昼間・土曜スクーリングの特色

昼間・土曜スクーリングが他のスクーリングと異なる点は、通学課程と同形態の授業を行うことにあります。また、前期・後期と連続して受講することで、より学修効果が高まります。

なお、大学では適正規模の授業を実施し、かつ多くの学生が等しく受講機会を得られるように一人（受講者）当たりの受講制限を設けていますが、このスクーリングもその例外ではありません。

さらにこのスクーリングでは、2年生以上の学生を対象に卒業論文指導講座を設け、その指導の強化充実を図り、より優れた卒業論文を期待しています。

【受講の調整について】

スクーリングには、十分な教育効果を得るために適正な受講者数の基準が設定されています。受講申込者数が、適正受講者数でない場合、大学側で受講の調整を行うことがあります。

調整にあたっては、「受講機会の均等」の観点から、各申込者の受講調整履歴、スクーリング受講状況、単位修得状況、在学年数等を総合的に判断し、対象者を確定しますので、あらかじめご了承ください。

なお、講座の適正人数は、おおよそ下表の人数を目安としますが、講座の特性、スクーリングの形態、スクーリング会場の試験時定員数、パソコン台数及び受講学生の履修要件等により、下表によらない場合もあります。

講 座	受講者数の上限	受講者数の下限
外国語科目講座	65名	5名
演 習 講 座	30名	5名
上記以外の講座	100名	10名

〔調整方法等〕

- 1 希望した講座が受講者数の上限を超えた場合、同じ曜日に開講されている同じ科目的講座に振り分けることがあります。
- 2 超過人数の状況により新たに講座を増設（分割）して開講する場合があります。
- 3 超過人数の状況により複数の講堂に「サテライト配信」を利用して授業を行う場合があります。（メインとなる授業講堂以外は、映像による配信となります。）
- 4 上記①・②・③の方法で対応できない場合、調整対象者は当該講座の受講ができません。
- 5 受講申込者数が下限に満たない場合、開講を取りやめることができます。
- 6 受講許可講座以外の講座の受講は、認められません。また、一度決定した受講許可講座の追加・変更はできません。

目 次

I 受講申込から受講料納入までの流れ	133
.....	2
II 講座の選定	
1 受講講座の選定.....	4
2 「教職に関する科目」における新・旧科目について.....	6
3 「英語」科目のレベル標記について	6
III 時間割	
1 時間割.....	8
2 卒業論文指導時間割.....	10
IV 開講講座表及び講座内容（シラバス）	
1 「開講講座表」の見方	12
2 開講講座表・シラバスと使用教材 【曜日・時限順】.....	13
V 受講及び試験	
1 講座受講時の注意点.....	120
2 スクーリング結果の確認.....	121
VI 受講手続	
1 履修登録をする.....	122
2 講座を申し込む.....	125
3 受講講座の変更・追加.....	129
VII 申込講座の許可と不許可	
1 受講許可を確認する.....	130
2 講座振り分け及び受講不許可について.....	131
3 許可講座を辞退する.....	132
VIII 受講料等の納入	
IX 受講準備	
1 使用教材の入手.....	134
2 通学定期券の購入手続.....	136
X 保健体育講義 I, 体育実技の受講について	138
XI オープン受講	144
XII 胸部X線検査	145
XIII 各種用紙	
履修届.....	149
昼間・土曜スクーリング（前期）受講届.....	151
昼間・土曜スクーリング（前期）保健体育講義 I・体育実技受講届.....	153
オープン受講届（在学生用）.....	155
オープン受講届（社会人等（卒業生用））.....	157
スクーリング受講講座変更届.....	159
受講申込辞退願.....	161
保健体育講義 I・体育実技受講申込辞退願	163
教材配本申請書.....	165
教材購入用紙（丸沼書店用）.....	167
教材購入願（通信教育教材用）.....	169
通学定期乗車券発行控.....	171
XIV 付録	173

I 受講申込から受講料納入までの流れ

①受講手続説明会

4月5日（木）

『昼間・土曜スクーリング（前期）の手引』を読み、受講手続方法から試験までの流れを確認。受講制限・時間割を確認し、受講講座を選択する。



②授業開始までの準備

授業期間は15週にわたります。シラバスや時間割をよく読み、受講講座を選択。特に下記の項目を事前に確認すること。

①開講日程及び時間割 ②使用教材（教科書）の有無

③準備学修 ④成績評価基準

【要確認】授業期間に出席可能であること。



③授業開始

第1週

4月10日（火）

～4月14日（土）

各授業の第1週目は、授業の方法、授業計画、準備学修、テキスト及び成績評価基準等についての説明を行った後、授業を行います。

※選択した講座を受講するか確認してください。

○受講講座決定の学生

履修届・受講届に必要事項を記入し、4月19日（木）までに教務課へ提出。

●受講講座再度検討の学生

別の講座を選択し、第2週から受講する。

※その際、第1週を受講していなかった旨を担当講師に伝えること。

※受講申込締切日の関係から、以下の曜日の講座を申し込む場合は注意が必要です。

・金・土曜日…2週目を受講してから申し込むことはできませんので、1週目の授業により、受講を検討してください。

受講希望者が多い講座や少ない講座は、大学側で受講の調整を行うことがあります（「受講の調整について」参照）。

特に「情報概論」（パソコン台数制限有）、外国語科目・演習科目（受講者数上限有）については、受講希望者多数の場合、受講調整を行います。あらかじめ了承の上検討してください。



④授業 第2週

4月17日（火）

～4月20日（金）

各授業の第2週目は、授業の方法等の説明は行わず、速やかに授業に入ります。

第1週の授業を受講したが、受講講座が未決定の学生はスクーリング第2週目を受講し、4月19日（木）までに履修届・受講届を提出。

※受講申込締切日の関係から、以下の曜日の講座を申し込む場合は注意が必要です。

・金・土曜日…2週目を受講してから申し込むことはできませんので、1週目の授業により、受講を検討してください。

**⑤履修登録・
受講申込締切**

申込締切：4月19日（木）
 （窓口提出）18時00分（事務取扱時間）まで
 （ポータルサイト）締切日24時00分まで

提出先：（郵送）提出締切日 必着
 （窓口）教務課窓口提出 事務取扱時間内厳守

- ※1 受講届で申し込んだ講座がわかるように必ず申込内容の控えを取り各自で保管してください。
- ※2 提出期限を過ぎてからの追加・変更はできません。4月19日(木)までに受講予定の全ての講座を決定した上で提出してください。



⑥受講許可の確認

ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて申し込んだ講座が「申請許可」になっているか確認。

※受講届提出者には、「スクーリング受講資格審査結果通知書」を送付しますので、そちらで確認してください。

必ず以下の内容を確認すること。

- ※1 申込講座・時間割の確認及び担当講師
- ※2 充当科目コード
 特に外国語科目、各種演習科目は注意（後掲12ページ参照）。



⑦受講料の振込用紙発送

受講許可者には、スクーリング受講料の振込用紙を郵送します。

発送予定日：5月11日（金）

発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は会計課へ連絡してください。



許可講座の辞退

受講を許可された講座を受講しない場合（全講座、一部の講座とも）、5月18日（金）までに辞退手続をする。

詳細は102ページ参照



⑧受講料の納入

ポータルサイト（又はスクーリング受講資格審査結果）及び「振込用紙」に記載された事項を確認の上、受講料を下記の納入期限までに納入してください。

受講料納入期限：5月25日（金）

銀行窓口のみ ※当日取扱時間まで

※受講料（1講座10,000円、情報概論は13,000円）



**⑨昼間・土曜スクーリング
(前期) の手続完了**

昼間・土曜スクーリング（前期）の手続は完了です。

領収書は、スクーリング受講中は必ず携行してください。

II 講座の選定

1 受講講座の選定

① 受講対象者及び受講条件

昼間・土曜スクーリング（前期）の受講者は、以下の受講条件を必ず守り、申込みをしてください。

1 受講申込対象者 (申込時点において右記の条件を満たすこと)	①年度授業料を納入していること、または所定の締切日までに納入することができること。 ②昼間・土曜スクーリング（前期）受講料を納入期日までに納入することができること。 ③昼間・土曜スクーリング（前期）の授業日程に出席できること。
------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 受講講座数	【申込講座の上限】 14 講座まで 火曜日から土曜日までの各時限から 1 謲座ずつ、最多で 14 講座まで申し込みすることができます。 ※履修登録がされている科目のみ申し込みできます。 ※保健体育講義 I ・ 体育実技は上限に含みません。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 受講制限	上記 1, 2 の条件を満たしていても、全ての講座を申し込むわけではありません。下記の制限により申し込めない講座がありますので、項目を確認し、受講講座を選定してください。
--------	---------------------------------------------------------------------------------------

② 受講制限について

すべての方がすべての講座を申し込めるのではありません。自分の学年・学科（専攻）、カリキュラム及びその他の理由により申し込むことができない講座があります。以下、それぞれの受講制限を掲載しますので、必ず確認の上、申込みをしてください。

（1）配当学年による受講制限

ア 1学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「1年」と記載されている講座のみ受講可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

イ 2学年生

各期の「開講講座表」の「配当学年」欄に「1年」又は「2年」と記載されている講座の受講が可能です。それ以外の講座は受講できません。

なお、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

ウ 3・4学年生

配当学年による受講の制限はありませんが、講座によっては特定の学科（専攻）のみ受講を許可する講座があるので、各期の「開講講座表」の「制限・注意」欄で確認してください。

(2) 科目履修生の受講制限

入学時の「履修申請書」で履修登録した科目に該当する講座のみ受講できます。

(3) シラバスによる受講制限

シラバスに、他のスクーリングと積み重ね不可の記載がある場合、受講できません。また、記載がなくても、以下に該当する場合は、受講できません。

過去に受講し、合格した科目（充当科目）と同一担当講師の科目（充当科目）で授業内容も同一である講座の受講

次のa～cのすべてに該当する講座は申込みできません。

- a 科目名（充当科目名）が同じである（「講座名」ではなく、「科目名（充当科目名）」です）。
- b 担当講師が同一である。
- c 講義内容が全く同一である。

※講義内容を参照し、授業計画等が全く同一の場合は申込みできません。

(4) その他の理由による受講制限

以下のいずれかに該当する場合、その講座は受講できません。

ア 既に所定単位を修得している科目及び単位修得方式が確定している科目を充当科目とする講座の受講

イ 履修登録をしていない科目を充当科目とする1講座の受講

ウ 受講の調整による受講制限

一部の講座については、申込希望者が講座の適正人員を超える場合があり、この場合、大学側で受講の調整を行います。

調整により、受講申込講座と異なる講座での受講を許可する場合や、受講不許可となる場合があります。

そのため、必ずポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて、許可された講座を受講してください（受講許可講座と異なる講座の受講は、認められません）。

※受講届提出者は、「受講資格審査結果通知」を確認してください。

③ 他のスクーリングとの日程重複や会場移動に伴う講座受講に関する注意点について

昼間・土曜スクーリング（前期）土曜日の授業と東京スクーリング（6月期）もしくは東京スクーリング（7月期）の授業を受講する場合、講座の受講に支障ができる場合がございますので、ご自身で確認の上、受講申込を行ってください。

2 「教職に関する科目」における新・旧科目について

平成 23 年度に下表の「教職に関する科目」4 科目については、科目名称が変更となり、平成 23 年度 1 学年入学者から学年進行により順次、新科目名での履修となります。

スクーリングの開講にあたっては、同一講座で新・旧両方の科目を充当科目として開講しますので、下表により適用となる充当科目を確認の上、受講申込みをしてください。

旧科目名	新科目名	
T10300 教育の思想	T10200	教育原論
T21400 道徳教育の研究	T21300	道徳教育の理論と方法
T21600 特別活動の研究	T21500	特別活動論
T30700 教育カウンセリング論	T30600	教育相談
旧科目名での履修対象者	新科目名での履修対象者	
右記以外の学生	入学年度	入学形態
	平成 23 年度	1 学年入学生
	平成 24 年度	1 学年入学生 2 学年編入・再入学生 科目履修生
	平成 25 年度	1 学年入学生 2 学年編入・再入学生 3 学年編入・再入学生 科目履修生
	平成 26 年度以降	全入学生

3 「英語」科目のレベル標記について

昼間・土曜スクーリングの「英語」では、受講講座選択の参考として、新たに授業内容のレベル（目安）を★で標記しています。受講講座の参考にしてください。

<レベル>★の数が増えるほど、難易度が上がります。

【★☆☆】 ⇄ 【★★☆】 ⇄ 【★★☆】 ⇄ 【★★★】

基礎 初級 中級 上級

※レベル標記はあくまで「目安」です。レベルの感じ方には、個人差があります。

また同一レベル標記でも講座により、難易度が多少異なる場合もあります。

必ずシラバス全体をよく読んだ上で、各自で判断してください。

※講座受講者の状況により、担当講師の判断で適宜調整を図りますので、あらかじめご了承ください。

MEMO

III 時間割

1 時間割

時限	火曜日		水曜日	
	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
1 時限 9:00 ~ 10:30	政治学	関根 二三夫	経済学	田村 和彦
	心理学 A	白川 真裕	英語基礎 A	小澤 賢司
	西洋史入門	高草木 邦人	考古学入門	浜田 晋介
	経営学	山田 敏之	簿記論 I	山元 俊一
2 時限 10:40 ~ 12:10	心理学 B	白川 真裕	英語 C	森 晴代
	ドイツ語 I・II	中島 伸	政治学特殊講義 I・II	秋山 和宏
	国文学基礎講義	野口 恵子	商法 I	南 健悟
	英米文学演習 I～III	猪野 恵也	英語学演習 I～III	真野 一雄
	日本史入門	鍋本 由徳		
	中国経済論	斎 中凌		
	商学総論	雨宮 史卓		
3 時限 13:00 ~ 14:30	英語 A	アレックス ブラウン	文学	木村 一
	史学概論	高綱 博文	法学 A	武田 茂樹
	金融論	谷川 孝美	英語 D	北原 安治
	マーケティング	雨宮 史卓	刑法 I	岡西 賢治
	卒業論文指導	近藤 健史	英語音声学	森 晴代
4 時限 14:40 ~ 16:10	哲学 A	江川 晃	歴史学 A	渡邊 浩史
	国文学特殊講義 I・II	近藤 健史	憲法	名雪 健二
	スピーチコミュニケーション I	アレックス ブラウン	国語学概論	保科 恵
	日本史特講 I	八馬 朱代	国文学講義V(近代)	山崎 真紀子
	卒業論文指導	高綱 博文	日本思想史 I	島田 健太郎
	卒業論文指導	雨宮 史卓	東洋史入門	綿貫 哲郎
			アメリカ経済論	羽田 翔
5 時限 16:20 ~ 17:50	英語 B	M. ギルロイ	歴史学 B	堀井 弘一郎
	TOEIC A	町田 純子	文化史	渡邊 浩史
	中国語 I・II	稻葉 明子	英語 E	石川 勝
	東洋史演習 I・II	高綱 博文	国文学基礎演習	木村 一
	科学哲学	江川 晃	情報概論 A	戸塚 英臣
	広告論	雨宮 史卓		

開講日程

前期	4/10 ~ 7/27	補講予定日	7/14, 7/23
----	-------------	-------	------------

木曜日		金曜日		土曜日	
講座名	担当講師名	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
英語 F	鈴木 ふさ子	英語 K	大庭 香江	総合科目 I ~ VI	古賀 徹
民法 I	根本 晋一	東洋思想史 I	本間 直人		
行政学	関根 二三夫	日本史概説 / 日本史概論	鍋本 由徳		
情報概論 B	中村 典裕				
法学 B	根本 晋一	英語 L	大庭 香江	土曜スクーリング日程	
英語 G	岡田 善明	フランス語 I・II	大庭 克夫	授業時間 9:00 ~ 12:10 【前期】 4月 14・28日 5月 26日 6月 2・9・23・30日 7月 7・14日	
国文学演習 I ~ VI	近藤 健史	イギリス文学史 II	猪野 恵也		
英米文学概説	鈴木 ふさ子	西洋思想史 I	関谷 雄磨		
東洋史特講 I	高綱 博文				
経済学概論	前野 高章				
社会科・地理歴史科教育法 I	古賀 徹				
卒業論文指導	関根 二三夫				
卒業論文指導	真野 一雄				
卒業論文指導	中澤 瞳				
英語 H	中村 則子	政治学原論	吉野 篤	保健体育講義 I・体育実技	
民法IV	根本 晋一	英作文 II	大庭 香江	講座名	教員名
英語史	真野 一雄	哲学基礎講読	石井 友人	体育実技	高橋正則
日本史演習 I・II	鍋本 由徳	市場調査論	最上 健児	保健体育講義 I	高橋正則
経済原論 / 経済学原論	前野 高章			体育実技 【日程】9月 2日~4日 【授業時間】9:00 ~ 17:30	
現代教職論	古賀 徹				
卒業論文指導	小澤 賢司				
哲学 B	中澤 瞳	国文学概論	山崎 泉	保健体育講義 I 【日程】9月 5日・6日 【授業時間】10:00 ~ 16:30	
英語基礎 B	中村 則子	宗教学概論	合田 秀行		
TOEIC B	八木 茂那子	商業史	竹内 真人		
東洋史概説 / 東洋史概論	高綱 博文				
西洋史特講 I	青山 由美子				
経済史総論	飯島 正義				
英語科教育法 I	小澤 賢司				
卒業論文指導	根本 晋一				
卒業論文指導	鍋本 由徳				
卒業論文指導	猪野 恵也				
卒業論文指導	前野 高章				
英語 J	八木 茂那子	社会学	服部 慶亘		
哲学演習 I・II	中澤 瞳	日本政治史	石川 徳幸		
西洋史演習 I・II	藤井 信行				
国際経済論	前野 高章				
商業政策	新島 裕基				
教育原論 / 教育の思想	古賀 徹				

2 卒業論文指導時間割

- ① 昼間・土曜スクリーリング（前期）開講期間中、下表の時間帯で開講されます。
なお、補講日及び試験期間中は開講しませんので注意してください。
- ② 実施場所等は、通信教育部1号館1階掲示板にてお知らせします。
- ③ 事前予約等は不要です。指導開始時間になりましたら、実施場所にて待機してください。
※開始時間に希望学生がいない場合には、指導を取止める場合がありますので、ご了承ください。
- ④ 以下の担当教員の「個別」、「専門」指導は、当該担当教員の指導分野に限っての指導となります。

時限	火曜日			水曜日	木曜日			金曜日	土曜日																																																												
1時限目 9:00 ～ 10:30																																																																					
2時限目 10:40 ～ 12:10				<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">講師</td> <td style="width: 45%;">関根 二三夫 〔政治経済学〕</td> <td style="width: 5%;">講師</td> <td style="width: 45%;">真野 一雄 〔文学専攻（英文学）〕</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>政治学 行政学</td> <td>個別</td> <td>英語学</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td></td> <td>専門</td> <td></td> </tr> </table>			講師	関根 二三夫 〔政治経済学〕	講師	真野 一雄 〔文学専攻（英文学）〕	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別	政治学 行政学	個別	英語学	専門		専門																																														
講師	関根 二三夫 〔政治経済学〕	講師	真野 一雄 〔文学専攻（英文学）〕																																																																		
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項																																																																
	個別	政治学 行政学		個別	英語学																																																																
	専門			専門																																																																	
3時限目 13:00 ～ 14:30	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">講師</td> <td style="width: 45%;">近藤 健史 〔文学専攻（国文学）〕</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>日本古典文学</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td>上代文学</td> </tr> </table>		講師	近藤 健史 〔文学専攻（国文学）〕	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別	日本古典文学	専門	上代文学	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">講師</td> <td style="width: 45%;">中澤 瞳 〔哲学専攻〕</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>哲学</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td></td> </tr> </table>			講師	中澤 瞳 〔哲学専攻〕	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別	哲学	専門																																															
講師	近藤 健史 〔文学専攻（国文学）〕																																																																				
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項																																																																			
	個別	日本古典文学																																																																			
	専門	上代文学																																																																			
講師	中澤 瞳 〔哲学専攻〕																																																																				
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項																																																																			
	個別	哲学																																																																			
	専門																																																																				
4時限目 14:40 ～ 16:10	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">講師</td> <td style="width: 45%;">高綱 博文 〔史学専攻〕</td> <td style="width: 5%;">講師</td> <td style="width: 45%;">雨宮 史卓 〔商業学科〕</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td>外国史</td> <td>個別</td> <td>マーケティング戦略、広告戦略、消費者講堂など</td> <td>個別</td> <td>日本史 日本考古</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td>アジア近現代史</td> <td>専門</td> <td>上代文学</td> <td>専門</td> <td>指導担当学生のみ</td> </tr> </table>		講師	高綱 博文 〔史学専攻〕	講師	雨宮 史卓 〔商業学科〕	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別	外国史	個別	マーケティング戦略、広告戦略、消費者講堂など	個別	日本史 日本考古	専門	アジア近現代史	専門	上代文学	専門	指導担当学生のみ	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">講師</td> <td style="width: 45%;">根本 晋一 〔法律学科〕</td> <td style="width: 5%;">講師</td> <td style="width: 45%;">鍋本 由徳 〔史学専攻〕</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td></td> <td>個別</td> <td>民法</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td></td> <td>専門</td> <td></td> </tr> </table>			講師	根本 晋一 〔法律学科〕	講師	鍋本 由徳 〔史学専攻〕	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別		個別	民法	専門		専門		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">講師</td> <td style="width: 45%;">猪野 恵也 〔文学専攻（英文学）〕</td> <td style="width: 5%;">講師</td> <td style="width: 45%;">前野 高章 〔経済学科〕</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; text-align: center;">指導区分</td> <td>一般</td> <td>卒論作成に関する一般事項</td> </tr> <tr> <td>個別</td> <td></td> <td>個別</td> <td>国際経済論 経済開発論</td> </tr> <tr> <td>専門</td> <td>イギリス文学</td> <td>専門</td> <td></td> </tr> </table>			講師	猪野 恵也 〔文学専攻（英文学）〕	講師	前野 高章 〔経済学科〕	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	個別		個別	国際経済論 経済開発論	専門	イギリス文学	専門	
講師	高綱 博文 〔史学専攻〕	講師	雨宮 史卓 〔商業学科〕																																																																		
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分		一般	卒論作成に関する一般事項																																																												
	個別	外国史		個別	マーケティング戦略、広告戦略、消費者講堂など		個別	日本史 日本考古																																																													
	専門	アジア近現代史		専門	上代文学		専門	指導担当学生のみ																																																													
講師	根本 晋一 〔法律学科〕	講師	鍋本 由徳 〔史学専攻〕																																																																		
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項																																																																
	個別			個別	民法																																																																
	専門			専門																																																																	
講師	猪野 恵也 〔文学専攻（英文学）〕	講師	前野 高章 〔経済学科〕																																																																		
指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項	指導区分	一般	卒論作成に関する一般事項																																																																
	個別			個別	国際経済論 経済開発論																																																																
	専門	イギリス文学		専門																																																																	
5時限目 16:20 ～ 17:50																																																																					

MEMO

IV 開講講座表及び講座内容（シラバス）

1 「開講講座表」の見方

「開講講座表」の見方

1	講座コード	スクーリング開講講座を識別するために講座ごとに付された固有のコード番号です。 「受講届」の「講座コード」欄（4桁）には、この講座コードを記入してください。	
2	開講講座名	講座の名称です。原則、科目名と同一ですが、「英語」等のように複数開講される講座については、講座名の後ろにアルファベット等の記号を付して各講座を識別します。	
3	担当講師名	当該講座を担当する教員の氏名です。	
4	開講単位数	受講講座の合格により修得できる単位数です。	
5	充当科目（科目コード、科目名）	受講講座の合格により成績評価の対象となる科目コードと科目名です。 スクーリングの開講単位は「講座」であり、その「講座」に対してどの「科目（科目コード）」で受講するか（充当させるのか）を申告します。 多くの講座の充当科目は1講座につき1科目ですが、「英語」や「演習科目」のように受講者の単位修得状況により充当科目の選択が必要な講座もあるので、充当科目の選定は慎重に行ってください。 「受講届」の「充当科目コード」欄（6桁）には、この科目コードを記入してください。	
6	併用	「スクーリング併用試験方式」による受講の対象講座か否を記載しています。「スクーリング併用試験方式」による受講ができない講座には、「 <u>×印</u> 」が記載されています。 昼間・土曜スクーリングは「スクーリング併用試験方式」による受講ができないため、全て「×印」が記載されています。	
7	制限・注意	配 当 学 年	ここに記載されている学年に達していない場合は受講できません。 学部・学科（専攻）により受講可能な学年が異なる場合は、「受講条件」欄に記載されています。
		受 講 条 件	その他の受講制限及び諸注意等がある場合に記載されています。
8	オープン受講	オープン受講ができない講座には「 <u>×印</u> 」が記載されています。 記載がない講座はオープン受講申込可です。	

2 開講講座表・シラバス・使用教材【曜日・時限順】

[火曜日]

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 一 ブ 講
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件	
1 時限	AB11	政 治 学	関根 二三夫	2	B11700	政 治 学	×	1年		
	AB12	心 理 学 A	白川 真裕	2	B12100	心 理 学	×	1年		
	AB13	西 洋 史 入 門	高草木 邦人	2	Q20300	西 洋 史 入 門	×	※	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AB14	経 営 学	山田 敏之	2	S20200	経 営 学	×	※	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
2 時限	AB21	心 理 学 B	白川 真裕	2	B12100	心 理 学	×	1年		
	AB22	ドイツ語 I・II	中島 伸	1	D10100	ド イ ツ 語 I	×	1年	・I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					D10200	ド イ ツ 語 II				
	AB23	国文学基礎講義	野口 恵子	2	M20100	国文学基礎講義	×	※	・国文学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AB24	英米文学演習I~III	猪野 恵也	1	N404S0	英米文学演習I	×	3年	・英文学専攻のみ申込可。 ・I~IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	×
	AB25	日本史入門	鍋本 由徳	2	Q20100	日本史入門	×	※	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AB26	中国経済論	斎 中凌	2	R313S0	中国経済論	×	2年		
3 時限	AB27	商 学 総 論	雨宮 史卓	2	S20100	商 学 総 論	×	※	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AB31	英 語 A	アレックス ブラウン	1	C10100	英 語 I	×	1年	・I~IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II				
					C10300	英 語 III				
					C10400	英 語 IV		2年		
4 時限	AB32	史 学 概 論	高綱 博文	2	Q30100	史 学 概 論	×	2年		
	AB33	金 融 論	谷川 孝美	2	R31800	金 融 論	×	2年		
	AB34	マーケティング	雨宮 史卓	2	S30500	マーケティング	×	2年		
4 時限	AB41	哲 学 A	江川 晃	2	B10700	哲 学	×	1年		
	AB42	国文学特殊講義I・II	近藤 健史	2	M311S0	国文学特殊講義I	×	2年	・I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					M312S0	国文学特殊講義II				
	AB43	スピーチコミュニケーションI	アレックス ブラウン	1	N30900	スピーチコミュニケーションI	×	2年		
4 時限	AB44	日本史特講 I	八馬 朱代	2	Q30800	日本史特講 I	×	2年		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
 その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

【火曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 ー ブ 講ン		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配当 学 年	受 講 条 件			
5 時 限	AB51	英 語 B	M. ギルロイ	1	C10100	英 語 I	×	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させる のか充當科目コードを必ず記 入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III	×	2 年				
					C10400	英 語 IV						
	AB52	TOEIC A	町田 純子	1	C108S0	TOEIC	×	1 年				
	AB53	中国語 I・II	稲葉 明子	1	F10100	中 国 語 I	×	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させ るのか充當科目コードを必 ず記入してください。			
					F10200	中 国 語 II						
	AB54	東洋史演習 I・II	高綱 博文	1	Q403S0	東洋史演習 I	×	3 年	・ 史学専攻のみ申込可。 ・ I・II のどちらに該当させ るのか充當科目コードを必 ず記入してください。			
	AB55	科学哲学	江川 晃	2	P31300	科 学 哲 学	×	2 年				
	AB56	広 告 論	雨宮 史卓	2	S30900	広 告 論	×	2 年				

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科
目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

◆ 講座内容（シラバス）

◆ 政治制度を基礎から学びましょう

〔政治学〕

火曜日 1 時限

担当者：関根 二三夫

◆ 学修到達目標 基礎教育としての講義を行います。議会や大統領若しくは内閣の動きを見ますと、政治が難しい現象のように思われます。しかし、法律や予算の制定や執行は、国家や社会及び個人の発展に寄与するために役立ちます。この講義においては、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、我々にとって身近な現象であることを学びます。

◆ 授業方法 講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆ 準備学修 政治学は社会科学のカテゴリーに入り、人間社会を対象にする学問です。社会における問題点を把握し、あるべき社会を考える必要があります。学修の準備として、メディアの情報に关心を持ち、テキストを熟読するなど、それぞれの単元につき2時間程度の予習をし、また同様に2時間程度の復習が必要です。

◆ 授業計画（各 90 分）

1回目	講義全体の概要説明 ※講義の内容について、項目ごとに説明します。	9回目	国家機関 ※国家と国家機関との関係を説明します。
2回目	政治学の変遷 ※古代、中世、近世、近代等について説明します。	10回目	議会政治 ※議会政治の原理を説明します。
3回目	政治の概念 ※現実の政治について説明します。	11回目	議会の構成 ※一院制や二院制を説明します。
4回目	政治の本質 ※あるべき政治について説明します。	12回目	立法部と行政部 ※議院内閣制を説明します。
5回目	政治権力 ※政治権力の概念や構造について説明します。	13回目	立法部と行政部 ※大統領制を説明します。
6回目	政治権力 ※支配の手段について説明します。	14回目	大統領拒否権 ※意義や内容を説明します。
7回目	国家 ※国家成立の要素について説明します。	15回目	議会拒否権 ※意義や内容を説明します。
8回目	国家 ※国家を一定の基準により分類します。		

◆ 教科書 通材 『政治学 B11700』 通信教育教材（教材コード 000279）2,100 円（送料込）

※政治学の変遷、政治の概念、統治機構、政治過程などの解説に重点が置かれています。

◆ 参考書 丸沼 『教養政治学』 岩井奉信・黒川貢三郎・関根二三夫他 南窓社 3,132 円（税込）（送料 350 円）

※政治学の変遷、政治の概念、統治機構、政治過程などの解説に重点が置かれています。

◆ 成績評価基準 試験 70%、平常点 30% ※試験同様、質問や理解度テストへの解答等平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆心の働きを科学する

〔心理学 A〕

火曜日 1 時限

担当者：白川 真裕

◆学修到達目標 本講義では、心をどのようにとらえ、さらに日常生活の上での問題解決に役立てるかといった、心理学の基礎から応用までの主要領域について学んでほしいと思います。そして、それぞれの日常生活の中で、心理学やそれに関連した学問の理論や知見について、考えを巡らせる機会をもってもらうことを重視したいと考えています。

◆授業方法 授業は主として講義形式で行います。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、ノートをとりながら積極的に参加をするようつとめてください。出席は毎回確認します。電車遅延など特別な理由以外で 30 分以上遅刻をした場合は欠席扱いとなるので注意してください。

◆準備学修 特に事前学習の必要はありませんが、自分のとったノートを見返して復習ができるように心がけてください。また、授業の内容を日常場面での応用と結びつけて学習をすることを意識をして授業に臨んでください。

◆履修条件 平成30年度昼間・土曜スクーリング（前期）「心理学 B」との積み重ね不可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	記憶2 記憶の種類と特徴
2回目	心理学とは	10回目	学習1 学習の理論とメカニズム
3回目	感覚・知覚1 さまざまな感覚	11回目	学習2 効率的な学習方法
4回目	感覚・知覚2 知覚の適応性と錯視	12回目	思考・言語1 思考の発達と言語
5回目	感覚・知覚3 かたちの知覚と奥行き知覚	13回目	思考・言語2 人間の思考の特徴
6回目	高次知覚と初期認知	14回目	振り返りとまとめ
7回目	注意の理論とメカニズム	15回目	理解度の確認（試験）
8回目	記憶1 記憶の理論とメカニズム		

◆教科書 **当日資料配布** 必要に応じて資料を配布します。

◆参考書 **通材** 『心理 B12100』通信教育教材（教材コード 000483）3,150 円（送料込）

〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一他著（福村出版）と同一です。〉

◆成績評価基準 成績は試験結果を重視し、これに平常点（リアクションペーパーなど）を鑑みて総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 「西洋の歴史学」に触れてみよう！

[西洋史入門]

火曜日 1 時限

担当者：高草木 邦人

◆学修到達目標 本講義は、西洋史を学ぶ上で必要とされる知識と技術の基礎を学習します。本講義の学習により、受講生は自立的に西洋史を研究するためのスタート地点に立つことができます。前期においては、近代西洋において発展してきた「歴史学」の特質とこの学問への接近方法について学習します。なお、前期と後期は内容が異なりますので、半期のみの受講も可能ですが、学習効果をあげるためにには、前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆授業方法 本講義は、基本的に講義形式をとりますが、演習的な要素も盛り込んでいきます。具体的には、研究文献や史料の講読、授業内のレポート作成、学習した知識・技術の実践などを予定しています。なお、受講者の人数とその理解度に応じて、下記の授業計画を若干修正することがあります。

◆準備学修 準備学習として、指定したテキストの授業に関連した箇所を熟読しておいてください。熟読すべき箇所については、授業中に適時指示します。なお、本講義は古代史から近現代までを扱う通史ではないので、高等学校の世界史Aの教科書などを事前に読んで、世界史の大まかな流れを把握しておいて下さい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	歴史学における事実と解釈
2回目	ヘロドトスと歴史の語り	10回目	歴史的事実を確定する実践【実践編】
3回目	歴史学と歴史小説との違い	11回目	大塚史学と戦後日本
4回目	歴史を叙述する実践【実践編】	12回目	日本における西洋史学の発展
5回目	ランケと実証史学	13回目	西洋史の近年の研究動向
6回目	歴史学における史料の意義	14回目	研究テーマに関する実践【実践編】
7回目	実証史学に関する実践【実践編】	15回目	前学期のまとめと試験
8回目	E. H. カーと歴史的事実		

◆教科書 **当日資料配布** 講義では、プリントを配布します。

丸沼 『歴史学「外」論——いかに考え、どう書くか』 下田淳 青木書店 2005年
1,944円(税込)(送料300円) ※本テキストは準備学習用のテキストです。

◆参考書 『歴史学ってなんだ?』 小田中直樹 PHP研究所 2004年
<上記の本は品切れのため、図書館等を利用して下さい。>

丸沼 『歴史を冒険するために』 中谷功治 関西学院大学出版会 2008年 2,160円(税込)(送料300円)
丸沼 『新しい史学概論』(新版) 望月幸男・芝井敬司・末川清 昭和堂 2002年 2,376円(税込)(送料300円)

◆成績評価基準 成績の評価基準は、試験(50%)、平常点(50%)です。平常点は、授業中に配布するリアクション・ペーパー、授業中におこなうレポート、そして授業態度などを参考に評価します。なお、毎回出席していることを前提として評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆経営学の基本を理論と事例で学ぶ

〔経営学〕

火曜日 1 時限

担当者：山田 敏之

◆学修到達目標 本講義では、現代企業の本質を明らかにしつつ、経営学の基礎について理解を深めることを目標とします。現実の企業行動を経営学の理論によって説明できることが到達点です。前期はまず企業の本質、経営学の歴史的変遷等を扱い、その後、モチベーション、リーダーシップ、集団・チームといった組織行動論のテーマを取り上げます。前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法 概ね指定したテキストに従い、黒板での板書を基本とした講義形式の授業を行います。具体的な企業経営のケース（事例）やグラフ等の関連資料については配布資料、パワーポイントを使用します。理論の説明とケース（事例）を組み合わせることで、より実践性の高い内容にしていきたいと思います。なお、講義の終了前に、その日の講義の内容あるいは企業経営に関する時事的な問題に関する小テストを毎回実施します。

◆準備学修 毎回の授業の課題に沿って指定したテキストの該当部分をあらかじめ読んでおいてください。授業計画で示された経営学の諸概念について、分からぬ言葉や用語等があれば事前に経営学辞典、経済学辞典あるいは参考書を用いて調べてください。経営学はきわめて現実性の高い学問領域ですので、日本経済新聞、日経産業新聞等の新聞や日経ビジネス、東洋経済、エコノミストといった経済雑誌にも絶えず目を通すようにしておいてください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	イントロダクション： 経営学で何を学ぶのか	9回目	モチベーションのプロセス理論
2回目	企業の誕生と形態（タイプ）	10回目	集団活動の基礎概念： 定義、コミュニケーション、チームのタイプ
3回目	企業の本質的活動と社会的責任	11回目	集団の意思決定とダイナミクス
4回目	現代企業を取り巻く環境	12回目	リーダーシップの基礎的概念と資質理論
5回目	企業の仕組みと運営機関： コーポレート・ガバナンス	13回目	リーダーシップの行動理論
6回目	経営者の仕事と役割	14回目	リーダーシップのコンティンジェンシー理論
7回目	経営学理論の歴史的変遷	15回目	まとめと試験
8回目	モチベーションの基礎的概念とコンテンツ理論		

◆教科書 丸沼 『経営学入門 [上] <第2版>』 榊原清則 日本経済新聞出版社 928円（税込）（送料215円）

◆参考書 丸沼 『経営学イノベーション1 経営学入門 第2版』十川廣國 中央経済社 2,592円(税込) (送料300円)

丸沼 『人と組織を活かす経営管理論』青木幹喜編著 八千代出版 3,024円（税込）（送料300円）

丸沼 『経営学イノベーション3 経営組織論 第2版』十川廣國編著 中央経済社
2,592円（税込）（送料300円）

◆成績評価基準 平常点（毎回の小テスト）(20%)、試験(80%)。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆心の働きを科学する

〔心理学 B〕

火曜日 2 時限

担当者：白川 真裕

◆学修到達目標 本講義では、心をどのようにとらえ、さらに日常生活の上での問題解決に役立てるかといった、心理学の基礎から応用までの主要領域について学んでほしいと思います。そして、それぞれの日常生活の中で、心理学やそれに関連した学問の理論や知見について、考えを巡らせる機会をもってもらうことを重視したいと考えています。

◆授業方法 授業は主として講義形式で行います。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、ノートをとりながら積極的に参加をするようつとめてください。出席は毎回確認します。電車遅延など特別な理由以外で 30 分以上遅刻をした場合は欠席扱いとなるので注意してください。

◆準備学修 特に事前学習の必要はありませんが、自分のとったノートを見返して復習ができるように心がけてください。また、授業の内容を日常場面での応用と結びつけて学習をすることを意識して授業に臨んでください。

◆履修条件 平成30年度昼間・土曜スクーリング（前期）「心理学 A」との積み重ね不可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	記憶 2 記憶の種類と特徴
2回目	心理学とは	10回目	学習 1 学習の理論とメカニズム
3回目	感覚・知覚 1 さまざまな感覚	11回目	学習 2 効率的な学習方法
4回目	感覚・知覚 2 知覚の適応性と錯視	12回目	思考・言語 1 思考の発達と言語
5回目	感覚・知覚 3 かたちの知覚と奥行き知覚	13回目	思考・言語 2 人間の思考の特徴
6回目	高次知覚と初期認知	14回目	振り返りとまとめ
7回目	注意の理論とメカニズム	15回目	理解度の確認（試験）
8回目	記憶 1 記憶の理論とメカニズム		

◆教科書 **当日資料配布** 必要に応じて資料を配布します。

◆参考書 **通材** 『心理学 B12100』通信教育教材（教材コード 000483）3,150 円（送料込）

〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一他著（福村出版）と同一です。〉

◆成績評価基準 成績は試験結果を重視し、これに平常点（リアクションペーパーなど）を鑑みて総合的に評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆初級レベルのドイツ語文法を学びましょう

[ドイツ語 I・II]

火曜日 2時限

担当者：中島 伸

◆学修到達目標 ドイツ語の文章を書くために必要な初級レベルのドイツ語文法と語順の習得を目標とします。ドイツ語は英語と比べると馴染みの薄い言語ですが、ドイツ語文の語順は日本語とよく似ているため、皆様にとってドイツ語は英語よりも学びやすい言語です。英語を6年以上学んで身に付かなかった方は、これを機に是非ドイツ語に転換しましょう。前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法 以下の授業計画で挙げられている文法事項の説明後、練習問題（文法中心）で定着させていきます。更に、スクーリング時に2回小テストを行い、間違った箇所と確認のために個別に解説を添えて答案を返却します。

◆準備学修 回を追う毎に説明する文法事項は既に習った文法事項の知識が無いと理解できませんので、既習の文法事項の復習をして下さい。特に、動詞の現在人称変化と名詞の性、そして冠詞の格変化はほぼ全ての文法事項で必要な知識となります。冠詞の格変化を紙に書いて覚える等の自己学習を日頃から行うようにして下さい。反復学習こそが言語習得への近道です。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	発音 ※アルファベットの読み方と特殊な読み方をする母音・子音について学びます。	9回目	命令形 ※命令形の人称変化と命令形を定動詞とする命令文の用法について学びます。
2回目	動詞の現在人称変化（1） ※主語になる人称の種類、不定詞の形式、そして主語に応じて変わる語尾について学びます。	10回目	定冠詞類と所有冠詞 ※両者の用法と格変化について学びます。
3回目	動詞の現在人称変化（2） ※口調上注意が必要な現在人称変化をする動詞について学びます。	11回目	否定表現 ※ドイツ語における2つの否定表現の種類と違いについて学びます。
4回目	文の種類※ 平叙文と2つの疑問文の特徴について学びます。	12回目	人称代名詞 ※人称代名詞の形式と用法について学びます。
5回目	名詞の性と格 ※ドイツ語名詞の性とその見分け方、そして格の種類について学びます。	13回目	前置詞（1） ※2格支配・3格支配・4格支配の前置詞について学びます。
6回目	定冠詞と不定冠詞 ※両者の用法と格変化について学びます。	14回目	前置詞（2） ※3・4格支配の前置詞について学びます。
7回目	名詞の複数形 ※複数形の種類について学びます。	15回目	まとめ・試験 ※前期に学んだ項目の復習を行います。
8回目	動詞の現在人称変化（3） ※不規則な現在人称変化をする動詞について学びます。		

◆教科書 丸沼『初級ドイツ語 フランクフルト四重奏』川嶋正幸・中村憲治・Klaus Schlichtmann 朝日出版社
2,700円（税込）（送料300円）

◆参考書 独和辞典が必要となります。推奨独和辞典は初回スクーリング時に紹介します。

◆成績評価基準 平常点（20%）・小テスト（30%）・試験（50%）。毎回出席することを前提として評価します。
なお、独和辞典は必ず持参のこと（辞書の忘れは欠席扱いとします）。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆文学表現の多様性を学ぼう

〔国文学基礎講義〕

火曜日 2時限

担当者：野口 恵子

◆学修到達目標 文学作品の表現には、どのような特性があるのかを学ぶ。そのために、本講義では一つ一つの言葉の意味をつなぎ合わせるような読みはしない。作品全体における表現の効用を考える。このような営みを通して、文学作品における読み方の基礎を身につける。

◆授業方法 講義形式で行う。板書はメモ程度しかないので、学生は自分に必要な情報をノートに書き、いわゆる「自分のノート」を作成すること。

◆準備学修 前回の講義で作成した「自分のノート」を整理した上で、復習をしておくこと。また、講義中は作品の口語訳はしない。必要に応じて参考書で確認しておくこと。

◆履修条件 なし。但し、学修効果を向上させるためには、前期後期連続受講が望ましい。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	『万葉集』について学ぶ。	9回目	大伴坂上郎女の宴席歌を読みながら、禁酒令と宴席との関わりを学ぶ。
2回目	田辺福麻呂の宴席歌を読みながら、地名表現の特性を学ぶ。	10回目	藤原仲麻呂の宴席歌を読みながら、社交の具としての歌の効用を学ぶ。
3回目	田辺福麻呂の宴席歌を読みながら、宴席歌の特性を学ぶ。	11回目	藤原仲麻呂の宴席歌を読みながら、常套的表現のあり方を学ぶ。
4回目	大伴家持の宴席歌を読みながら、宴席の花「黄葉」の役割を学ぶ。	12回目	藤原仲麻呂の宴席歌を読みながら、君臣の秩序について学ぶ。
5回目	大伴家持の宴席歌を読みながら、宴席における歌の展開を学ぶ。	13回目	天皇臨席の宴席の実態を学ぶ。
6回目	大伴坂上郎女の宴席歌を読みながら、女歌の特性を学ぶ。	14回目	宴席で歌を披露した渡来系氏族による宴席の実態を学ぶ。
7回目	大伴坂上郎女の宴席歌を読みながら、女歌の役割を学ぶ。	15回目	宴席で歌を披露しなかった渡来系氏族による宴席の実態を学ぶ。
8回目	大伴坂上郎女における宴席歌を読みながら、氏族の宴席の実態を学ぶ。		

◆教科書 丸沼 『訳文 万葉集』 森淳司編 笠間書院 1,944 円（税込）（送料 450 円）

当日資料配布 あり。

◆参考書 『新編日本古典文学全集』 萬葉集①～④ 小島憲之他校注・訳者 小学館
※品切れのため図書館等を利用してください。

『萬葉集全歌講義①～⑩』 阿蘇瑞枝 笠間書院

※購入する必要はありません。図書館等を利用してください。

『万葉集全解 1～7』 多田一臣 筑摩書房

※品切れのため図書館等を利用してください。

◆成績評価基準 復習テストの評価と受講態度を含む平常点（30%）+レポート試験（70%）。

※毎回出席する事を前提としており、遅刻は認めません。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ Sons and Lovers に挑戦

〔英米文学演習 I ~ III〕

火曜日 2 時限

オーブン受講：不可 担当者：猪野 恵也

◆学修到達目標 D.H.Lawrence による Sons and Lovers を読む。和訳中心だが、英文の構造や単語の使われ方などになるべく気をつけて読んでゆく。

◆授業方法 学生の英文音読と和訳が中心。その他作品について気がついたことがあれば発表してください。

◆準備学修 発表の時でなくともしっかり予習して授業に臨んで欲しい。毎回 6 ページほど進めたいと思う。

◆履修条件 前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	イントロダクション 発表割り当てなど	9回目	原書講読 p.51-p.56.
2回目	原書講読 p.9-p.14.	10回目	原書講読 p.57-p.62.
3回目	原書講読 p.15-p.20.	11回目	原書講読 p.63-p.68.
4回目	原書講読 p.21-p.26.	12回目	原書講読 p.69-p.74,
5回目	原書講読 p.27-p.32	13回目	原書講読 p.75-p.80.
6回目	原書講読 p.33-p.38.	14回目	原書講読 p.81-p.86,
7回目	原書講読 p.39-p.44.	15回目	試験
8回目	原書講読 p.45-p.50.		

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 丸沼 D.H. ロレンス 『息子と恋人』 小野寺健 / 武藤浩史 訳 ちくま文庫 1,944 円(税込)(送料 300 円)

◆成績評価基準 試験 (50%) 発表 (20%) 最終リポート (20%) 平常点 (10%) 皆出席を前提とする。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本史を理解するさまざまなテーマ

【日本史入門】

担当者：鍋本 由徳

火曜日2限

◆学修到達目標 本科目では、①日本史学修の意義、②原始・古代～現代へのアプローチ、③資料による学修・研究方法を通じて、日本史の学修方法・研究方法の基礎を学びます。テーマ学修から幅広いジャンルへ展開する能力の向上を目指します。また教壇に立つ者として必要な姿勢について理解することを目標とします。

◆授業方法 原則として教科書を使います。教科書の配列を時代順に再編し、記述とは異なる事例も使います。プリント・スクリーンを併用しながら教科書の内容を説明します。

◆準備学修 事前配付の学修シートを用い、教科書内容の概要を把握していることを前提に進めます。教科書を読み、内容把握につとめておくこと。シートへの記述は自分の理解できるレベルでかまいません（提出不要）

◆履修条件 平成29年度昼間・土曜スクーリング（前期）・東京スクーリング（6月）「日本史入門」との積み重ね不可。

◆授業計画（各90分）

1回目	日本史を学ぶための基礎道具	9回目	浅草・新宿・新京極（幕末維新）
2回目	村と租税（古代・中世・近世）	10回目	都市開発と鉄道（近代）
3回目	期間限定の売買（古代・中世・近世）	11回目	俗曲と世相（近世・近代）
4回目	文学にみられる感性（中世）	12回目	歴史映画による刷込（近代）
5回目	災害と「ユーモア」（中世・近世）	13回目	生活空間にみる日本史（中世～近代）
6回目	「伝統」の根拠（中世・近世）	14回目	ゆりかごから墓場まで（民俗）
7回目	近世にみる祭と外国人（近世）	15回目	日本史の学修と研究視点
8回目	勧善懲悪と明治維新（幕末維新）		

◆教科書 **【当日資料配布】** 当日参考プリントを1～2枚配布。

通材 『日本史入門 Q20100』 通信教育教材（教材コード 000484）3,800円（送料込）

◆参考書 『史料 教養の日本史』 竹内誠他編 東京大学出版会

※購入義務はありません。

〈上記の本は品切れのため、図書館等を利用して下さい。〉

丸沼 『最新版 角川新版日本史辞典』 角川書店 3,672円（税込）（送料450円）

配付プリントにて適宜紹介する。

◆成績評価基準 授業内提出レポート（70%）、授業内小テスト（30%）の総合評価

※15回全出席を前提とした評価です。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中国経済の実態を学びましょう

[中国経済論]

火曜日 2 時限

担当者：斎 中凌

◆**学修到達目標** 日本と中国の経済関係はこの 30 年間で大きく拡大したが、一方で近年は政治的な緊張関係も強まっている。我々は、中国という国の仕組みや経済建設の経緯が日本と大きく異なることを認識した上で、現在起きている事象の本質を理解し、直面する事態と向き合っていかなければならない。この講義では、中国経済の各部門の特徴について基礎となる知識を習得し、中国経済に対する理解を深めることを目指す。

◆**授業方法** 講義は、配布資料とパワーポイントに沿って進める。授業時間内に、出欠を兼ねて、筆記課題やクイズへの回答を提出してもらうこともある。中国を身近に感じられるように、可能な限り写真や映像なども取り入れて講義を進めたいと考えている。また、足下の中国の経済・社会動向や世界経済・国際金融情勢との関係など時事問題についても、講義の中で解説を加える。

◆**準備学修** テキストの第 2 部と第 3 部を事前に予習していただきたい。なお、中国は変化のペースが非常に速いため、参考資料などは授業中に適宜紹介する。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	講義内容の概観	9回目	人民元の為替相場、金利と資本取引（1）
2回目	GDP 大国における人々の生活（1）	10回目	人民元の為替相場、金利と資本取引（2）
3回目	GDP 大国における人々の生活（2）	11回目	人口政策と労働力市場の変容
4回目	中国の GDP の構成と特徴（1）	12回目	経済発展とともに強くなる財政力
5回目	中国の GDP の構成と特徴（2）	13回目	中国の土地政策と不動産市場
6回目	経済を支える対外貿易（1）	14回目	国有企業の存在感が高い中国企業
7回目	経済を支える対外貿易（2）	15回目	後期のまとめ
8回目	中国の銀行システムと金融政策の概要		

◆**教科書** 丸沼 『現代中国経済論』 加藤弘之・上原一慶 ミネルヴァ書房 2011 年 4 月 3,456 円(税込)(送料 350 円)

◆**参考書** 特になし。

◆**成績評価基準** 授業中の質疑応答、出席、期末テストの成績を総合して評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆商業学の基本構造の理解

[商学総論]

火曜日2時限

担当者：雨宮 史卓

◆学修到達目標 商学は、ビジネスと社会経済との融合領域の学問であるため、ビジネス活動が集約する「市場」について多面的な観点から総合的に学ぶ。全体的には、なるべく取りつきやすく、理解しやすいように具体的なケースを交えて解説し、商業の役割・機能といった幅広い知識の習得を目指す。

◆授業方法 ターム前半はテキストに沿ながら、商業とは何か、商業の多様な概念、商業学説について学ぶ。ターム後半はマーケティングを中心とした広範な知識習得を目指す。必要に応じて資料を配布する。また、その日の授業の後半で、主要なテーマについてのリアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆準備学修 前もって指定のテキストを熟読してくることが望ましい。ノートを必ず持参すること。

◆履修条件 後期との継続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス 授業の進め方 商学を学ぶことの意義 商業とは何か	9回目	価格設定とその戦略
2回目	商業の起源と発展	10回目	販売促進
3回目	商業における市場	11回目	商流と物流
4回目	日本型商業・流通構造の特質	12回目	現代の流通特性、流通の変革
5回目	マーケティングの誕生と4P	13回目	時間の概念と商業
6回目	無形財と有形財 商品調達	14回目	授業の総復習
7回目	製品戦略	15回目	テストと解説
8回目	流通戦略		

◆教科書 通材 『商学総論 S20100』通信教育教材（教材コード 000356）3,550 円（送料込）

当日資料配布 必要に応じて資料を配布する。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ English Communication Skills

★★☆ [英語 A]

火曜日3時限

担当者：アレックス ブラウン

◆学修到達目標 In this course we will study, comprehend and use natural English dialogue from scenes of a popular movie, Notting Hill, starring Julia Roberts and Hugh Grant.

◆授業方法 We will use the scenes from the movie for listening comprehension, vocabulary usage and expansion with further practice of idioms and expressions used in the dialogue of the movie.

◆準備学修 Prepare to discuss comprehension questions provided by the teacher in a group format.

◆授業計画（各 90 分）

1回目	Introduction, Movie viewing Scene 1 vocabulary study
2回目	Scenes 1&2 comprehension questions and role play
3回目	Scenes 3&4 vocabulary study
4回目	Scenes 3&4 comprehension questions and role play
5回目	Movie viewing Scenes 5&6 vocabulary study
6回目	Comprehension questions and role play
7回目	Vocabulary quiz
8回目	Scenes 7&8 vocab, comprehension questions and role play
9回目	7&8 Continued
10回目	Scenes 9&10 vocab, comprehension questions and role play
11回目	9&10 Continued
12回目	9&10 Continued
13回目	Vocabulary quiz #2
14回目	Review for Final
15回目	Final Test

◆教科書 No text will be required. Students will be provided with handouts.

◆参考書 None.

◆成績評価基準 Grades will be based on attendance, a final exam and a speaking test. Students will be graded on their efforts given during their time in the course.

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆歴史学の論文を書くために

[史学概論]

火曜日 3時限

担当者：高綱 博文

◆学修到達目標 歴史学という学問の性格及び目的を明らかにし、また歴史学を学んでいく上で必要不可欠な基礎的・技術的な知識を学習する。さらに激動する現代世界に対応するために現在進行しつつある歴史学の革新について学び、「新しい歴史学」のあり方について考える。

◆授業方法 歴史学の目的・成立及び展開について論述し、授業中に配布した資料を解説しながら行う。

◆準備学修 下記の参考文献を予め学習しておくことが望ましい。

◆履修条件 通年で履修することが望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	歴史学の目的・効用・意義
2回目	歴史とは何か	10回目	歴史的事実とは何か
3回目	歴史学特性	11回目	記憶と歴史の関連
4回目	歴史学の目的と意義	12回目	史料と歴史認識
5回目	尚古的歴史学について	13回目	歴史認識の限界性
6回目	反省的歴史学について	14回目	歴史学の社会的責任
7回目	発展的歴史学について	15回目	まとめ、試験
8回目	歴史学の現在をめぐって		

◆教科書 指定しない。

◆参考書 『歴史学ってなんだ?』 小田中直樹 PHP 新書
〈上記の本は品切れのため、図書館等を利用して下さい。〉

丸沼 『史学概論』 遅塚忠躬 東京大学出版会 7,344 円(税込)(送料 450 円)

◆成績評価基準 試験 (50%) , リポート (50%)。毎回出席することを前提として評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆金融の基礎を学びましょう

〔金融論〕

火曜日3時限

担当者：谷川 孝美

◆**学修到達目標** 金融とは、資金を必要としている経済主体がその資金を調達し、資金に余裕がある経済主体がその資金を運用することです。また、金融取引が行われる場を金融市場といいます。この講義では、金融取引、金融市場など、金融に関する基本的な知識、理論を学び、さらには、金融市場で主要な役割を果たす銀行などの金融機関や日本の金融制度を理解することを通じて、現在の経済問題を考える基礎を養うことを目的とします。

◆**授業方法** 授業計画にそって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では、基本的な事柄を中心に、全体的かつ平易な解説をする予定です。講義の進行状況によって授業計画が前後することもあります。なお、この講義では中央銀行、金融政策の詳細は取り扱いません。

◆**準備学修** 指定したテキストを事前に熟読しておくこと。また、金融理論を理解するためには、経済学の基礎が重要になります。受講前準備として、マクロ経済学、ミクロ経済学の基本的な事柄を確認しておくこと。また、理解をより深めるために、授業計画にあるトピックスや専門用語などを参考書等で事前に調べること。

◆**履修条件** 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス、金融、金融市場とは何か	9回目	情報の非対称性
2回目	貨幣の歴史	10回目	金融機関と情報の非対称性
3回目	貨幣の定義	11回目	日本の金融市場
4回目	金利とは何か	12回目	資金循環と金融制度
5回目	名目金利と実質金利	13回目	日本の金融システムの歴史（1）、競争制限的規制
6回目	短期金利と長期金利、割引現在価値	14回目	日本の金融システムの歴史（2）、日本版ビッグバン
7回目	リスクのない金融資産	15回目	まとめ、試験
8回目	リスクのある金融資産		

◆**教科書** 通材 『金融論 R31800』通信教育教材（教材コード 000540）1,950円（送料込）

◆**参考書** 丸沼 『ベーシックプラス 金融論』家森信善 中央経済社 2,376円（税込）（送料 300円）

丸沼 『現代の金融入門【新版】』池尾和人 築摩書房 928円（税込）（送料 215円）

丸沼 『日本の金融制度 第3版』鹿野嘉昭 東洋経済新報社 4,536円（税込）（送料 450円）

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、最終試験を中心に平常点などにより総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆マーケティング戦略の基礎を学ぶ

火曜日3時限

[マーケティング]

担当者：雨宮 史卓

◆学修到達目標 製品にまつわる競争優位の源泉は、時代とともに大きく変化している。それによって、マーケティング戦略の進め方も大きく変化してきた。近年、強まっていた消費者の低価格志向による価格競争は、広告費の減少やメディア戦略の見直しを迫っているのが現状である。このような状況下で、本講義はマーケティングを深く理解するための前提となる、基礎的な知識を体系的に解説する事を目的とする。

◆授業方法 ターム前半はテキストに沿いながら、日本市場におけるマーケティングの歴史と発展、変化を中心に解説する。ターム後半は具体的なケースを織り込みつつ、幅広い知識習得を目指す。必要に応じて資料を配布する。また、その日の授業の後半で、主要なテーマについてのアクションペーパー（小論文）の提出を求める。

◆準備学修 前もって指定のテキストを熟読してくることが望ましい。ノートを必ず持参すること。

◆履修条件 後期との継続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス 授業の進め方 マーケティングを学ぶことの意義	9回目	ブランド概念とそのマネジメント
2回目	マーケティングの基本理念とその概念	10回目	消費者行動
3回目	製品戦略	11回目	日本のマーケティング
4回目	製品とサービスの関係	12回目	欧米と日本のマーケティングの比較
5回目	価格戦略	13回目	マーケティングの社会的責任
6回目	流通戦略	14回目	授業の総復習
7回目	プロモーション戦略	15回目	テストと解説
8回目	プロモーション・ミックス		

◆教科書 通材 『マーケティング S30500』通信教育教材（教材コード 000182）2,550 円（送料込）

【当日資料配布】必要に応じて資料を配布する。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 テスト（40%）、小論文（40%）、平常点（20%） 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 「理性とは何か」を考えてみよう。

〔哲学 A〕

火曜日 4 時限

担当者：江川 晃

◆学修到達目標 A.I.（人工知能）が、私たちの生活に入ってきていている。A.I.は、様々な分野で用いられ、一部、人間を凌駕しつつある。A.I.を使いこなすためには何が必要か。物事の意味を理解し、思考し、表現できる力が必要であろう。世界では、論理的でなく、断片的、感情的な情報で世論が形成される。哲学は理性の劣化を止めることができる。

◆授業方法 講義形式で、教科書と配布プリントを中心に、パワーポイント、DVD や板書にて行う。授業終りに感想、質問等を書いていただき、次回はコメントし、対話・討論しましょう。

◆準備学修 授業終わりに次回の予習課題を出します。考えてきてください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス：哲学とは	9回目	心身問題
2回目	ギリシャの自然哲学	10回目	ベーコンの理性
3回目	ソクラテスの理性	11回目	ロックの理性
4回目	プラトンの理性	12回目	カントの理性
5回目	アリストテレスの理性	13回目	ヘーゲルの理性
6回目	中世哲学（信仰と理性）	14回目	プラグマティズムと理性
7回目	科学革命	15回目	試験
8回目	デカルトの理性		

◆教科書 通材 『哲学 B10700』通信教育教材（教材コード 000404）3,650 円（送料込）※学修指導書付き。
〈この教材は市販の『思想の要諦周覧』嘉吉純夫 斎藤隆編著 北樹出版と同一です。〉

【当日資料配布】パワポ資料

◆参考書 授業にて提示します。

◆成績評価基準 授業態度（20%）、試験（80%）、毎回出席を前提として総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆宮沢賢治と教育

〔国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日4時限

担当者：近藤 健史

◆学修到達目標 教師としての宮沢賢治、作品における教育的な要素を考えることにより、作品を読み解く上で必要な知識や方法を学修し、問題を分析、解明、発表する能力を身につけることを目標とする。そのことを卒業論文の作成などにつなげる。

◆授業方法 「教師としての賢治」を学んだ後に、受講生をグループに分け、グループワークをする。具体的には「賢治作品における教育的要素」に関するテーマを設定、調査・研究した成果を口頭発表する方法である。全体討論の質疑応答より理解を深める形式をとる。

◆準備学修 宮沢賢治の生涯について学んでおくこと。

◆授業計画（各90分）

1回目	授業の進め方、グループ分け	9回目	発表資料作成
2回目	宮沢賢治の人と作品を学ぶ	10回目	各グループの発表、討論
3回目	年譜により教師としての賢治を学ぶ	11回目	各グループの発表、討論
4回目	証言により教師としての賢治を学ぶ	12回目	各グループの発表、討論
5回目	作品における教師・教育的な要素の実例を学ぶ	13回目	各グループの発表、討論
6回目	各グループで作品における教育的な要素の調査・研究をする	14回目	各グループの発表、討論
7回目	各グループにおける調査結果に基づく議論をしてテーマを選定する	15回目	総まとめ、リポート提出
8回目	各グループの中間報告、テーマの決定をする		

◆教科書 丸沼『教師 宮沢賢治のしごと』 畑山博 小学館文庫 1988年 615円（税込）（送料215円）

◆参考書 『年表 作家読本 宮沢賢治』 山内修 河出書房新社 1996年
(上記の本は品切れのため、図書館等を利用して下さい。)

丸沼『証言 宮沢賢治先生』 佐藤成 農山漁村文化協会 1992年 6,291円（税込）（送料350円）

◆成績評価基準 口頭発表60%，リポート40%。

注意 E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ Speech Communication I

【スピーチコミュニケーションⅠ】

火曜日4時限

担当者：アレックス ブラウン

◆学修到達目標 This course is aimed at improving communication skills with a focus on speaking and listening. Efforts will be directed at using English in a natural context and to develop fluency. Grades will be based on attendance and written and speaking tests for each term.

◆授業方法 This course will be based on a topic-based syllabus where students will learn vocabulary. Language structures and functions commonly used related to the topics. Students will then perform activities which incorporate the language covered in the section such as group tasks or role plays. This course is open to all students; however, the language and activities are set for pre-intermediate to intermediate level language ability.

◆準備学修 Students are expected to bring a notebook, dictionary and a folder for notes.

◆授業計画（各 90 分）

1回目	Introductions and Classroom Language.	9回目	Group presentations.
2回目	Orientation, Introductions/Icebreakers.	10回目	Topic Review. Introduce Topic 5
3回目	Topic 1: relevant vocabulary: language structures: tasks and role-plays.	11回目	Topic 5: work through the assigned activities.
4回目	Topic 1 and 2 vocab. structures, activities.	12回目	Topic 6: language structures and task orientated activities
5回目	Topic 2: group activities: tasks and role-plays.	13回目	Complete Topic activities: tasks and role-plays.
6回目	Topic 3: language structures group activities:	14回目	Preparation for tests
7回目	Topic 3 and 4 vocab. structures and grammar	15回目	Written and oral tests (group format)
8回目	Prepare content for a group presentation.		

◆教科書 No text will be required. Students will be provided with handouts.

◆参考書 None.

◆成績評価基準 Grades will be based on attendance, a final exam and a speaking test.

Students will be graded on their efforts given during their time in the course.

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本古代の氏族と宗教

[日本史特講 I]

担当者：八馬 朱代

火曜日 4時限

◆学修到達目標 古代において神祇や仏教、陰陽道などが朝廷の年中行事や貴族の生活に深く関わりをもち、様々な儀式や祭祀がおこなわれていました。貴族たちは氏神・氏寺で祭祀や法会をおこない、有力氏族の崇敬する神は朝廷の儀式に加えられるようになります。本講義では藤原氏や橘氏などの有力氏族と神祇との関係について説明します。平安時代の人々と宗教との関わりについて説明できることを目標とします。

◆授業方法 配布したプリントを使用して講義をおこないます。適宜、授業で史料を読むので、史料の読み方を学んでもらいたい。また、授業で参考文献や史料を紹介するので、各自、図書館で手にとってみるように心がけてください。

◆準備学修 『日本の歴史』や『日本の時代史』などの日本史の概説書を事前に読んで、平安時代の政治、社会情勢について理解を深めておくようにしてください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	神仏習合について	9回目	平安時代の法会について
2回目	古代の神祇制度について	10回目	神社の祭祀と使者（1）
3回目	奈良時代の氏族と宗教	11回目	神社の祭祀と使者（2）
4回目	奈良時代の仏教信仰について	12回目	石清水八幡宮について
5回目	藤原氏と春日社	13回目	源氏と八幡神（1）
6回目	藤原氏と朝廷の祭祀について	14回目	源氏と八幡神（2）
7回目	橘氏の氏神について	15回目	まとめ・最終試験
8回目	氏爵について		

◆教科書 **当日資料配布** 当日、プリントを配布します。

◆参考書 授業中に適宜紹介します。

◆成績評価基準 最終試験 70% 平常点・小テスト 30% ※毎回出席することを前提として、総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ English Communication

★★★〔英語 B〕

火曜日 5 時限

担当者 : Michael Jason Gilroy

◆**学修到達目標** To enhance students' reading, Listening comprehension, writing skills, enlarge vocabulary and boost general knowledge and selfconfidence.

Classroom activities are based on high-interest topics to keep students on task and motivated throughout.

◆**授業方法** Students will work individually in groups and in pairs to complete in-class exercises Activities include reading, writing, listening, role play, discussions.

◆**準備学修** Bring to Class 1.Text 2.Notebook 3.Dictionary 4.Homework (5.Enthusiasm).

◆**授業計画 (各 90 分)**

1回目	Introductions. getting to know each other.
2回目	Meeting New People. – Personal curiosity-Practical questions.
3回目	New People. – Other classmates Class directory
4回目	Speaking of Friends – Traits discussing friendship
5回目	Friends – understanding+giving advice
6回目	All in the Family – Family traits. (Tree)
7回目	Family – human characteristics.
8回目	What a great concert – musical interests giving opinions.
9回目	Concert – discussing music calling for concert info.
10回目	Where's the Party – party interests extending invitations.
11回目	Party – basic party conversation making party plans.
12回目	Tired of walking – Travel interests giving + receiving directions.
13回目	Adventufes in Eating – restaurant food preferences + ordoring. discussing food.
14回目	(Review)Exam
15回目	Term Review. – Summer

◆**教科書** 当日資料配布 Supplementary Handouts.

丸沼 "Everybody's Talking" by Dale Fuller + Clyde W. grimm Macmillan Language House.

1,944 円 (税込) (送料 300 円)

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** Grades will be allocated based on attendance, participation, completed assignments and a final exam.

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ 550点レベルを目指してTOEICにチャレンジしましょう。(TOEIC A)

火曜日5限時

担当者：町田 純子

◆学修到達目標 2016年5月から変更の新TOEICの出題問題の傾向を探り慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力(Communicative Competence)を習得します。又同時に最低限の基礎文法知識の確認と定着や、語彙力増強、頻会会話表現を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をプラスアップできます。

◆授業方法 前期後期の連続受験が望ましいです。リスニング(Part1～Part4)及びリーディング(Part5～Part7)の練習問題形式のテキストに沿い、段階的に基礎文法、速読力、読解力、語彙力強化を図ります。又、音声の基礎知識を整理し、特有の話し言葉に慣れれます。毎回中学校基礎英単語からTOEIC頻出範囲までの単語熟語確認テストを行います。ガイダンス時に実力診断テストを行います。(受講人数で変更有り)

◆準備学修 ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上、授業に臨み、授業計画を確認の上、予習、復習をしてください。13回実施予定の英単熟語確認テストの準備として、初回講義前に購入してテストに備えてください。

◆授業計画(各90分)

1回目	レベルチェックテスト 解説	9回目	リーディング攻略 語彙テスト8
2回目	Unit 1 TOEIC を知る 語彙テスト1	10回目	Unit 5 解答根拠の登場順 語彙テスト9
3回目	リスニング攻略 語彙テスト2	11回目	リーディング攻略 語彙テスト10
4回目	Unit2 基本戦略 1 語彙テスト3	12回目	Unit6 正解の言いかえパターン 語彙テスト11
5回目	リスニング攻略 語彙テスト4	13回目	リーディング攻略 語彙テスト12
6回目	Unit 3 基本戦略 2 語彙テスト5	14回目	Unit7 機能疑問文を聞き取る
7回目	リスニング攻略 語彙テスト6	15回目	期末テスト(達成度チェックテスト)
8回目	Unit4 英文の基本構造を見抜く 語彙テスト7		

◆教科書 **丸沼**『LEVEL-UP TRAINER for THE TOEIC TEST』(改訂版)
Ayako Yokogawa 他 センゲージラーニング 2,160円(税込)(送料300円)

丸沼『Word Builder』南雲堂 1,188円(税込)(送料300円)

◆参考書 指定しません。

◆成績評価基準 全出席を前提に、総合的にだします。

単語小テスト12回(36%)と期末試験(54%)課題点(10%)を含みます。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆漢字に頼らないリスニング力

〔中国語Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日5限

担当者：稻葉 明子

◆学修到達目標 漢字の意味がわかることは大きな強みでもあります。初期の関門を越えるためには足枷になります。対面式授業の利点を發揮して中国語の発音を完全に理解し、漢字に頼らない中国語吸収の素地を作ります。

◆授業方法 冒頭4回で発音体系を機械的に把握し、教科書本文に入ってからは新出単語を用いて大量の発音練習することによって、漢字を見ても日本語の音読み訓読みではなく中国語の音がでてくるまでもっていきます。発音体系と、中国語音声による発想は必須ですので、先入観をもたず、柔軟な姿勢で臨んでください。各課本文と文法体系の把握も、毎回学習者自らの耳で探る展開で行い、自立的な言語習得に繋げます。

◆準備学修 ある程度の基礎ができるまでは、敢えて予習はせず、指示通りの復習を必ず行ってください。教科書本文に入ってからは、毎回教科書本文についてディクテーション小テストを行います。この対策を毎回こなすことで、着実に実力がついていきます。教材音声に手軽に親しめる工夫をしてください。(付属CDをプレーヤーに取り込む、HPをお気に入り登録する、など。)

◆授業計画（各90分）

1回目	ガイダンス・発音1（声調）	9回目	第3課－2
2回目	発音2（单母音）	10回目	第5課－1介詞「在」と動詞「在」
3回目	発音3（子音1）	11回目	第5課－2動詞「是」
4回目	発音4（子音2・総合）	12回目	第6課－1動詞「有」職業を聞く
5回目	プレ第1課：発音総合	13回目	第6課－2
6回目	第1課ピンイン総合・あいさつ	14回目	第4課・連動文
7回目	第2課形容詞述語文	15回目	教場試験
8回目	第3課－1動詞述語文		

◆教科書 通材 『中国語Ⅰ F10100』通信教育教材（教材コード 000456）3,150円（送料込）

〈この教材は市販の『中国語@キャンパス[会話編]改訂版』関中研 朝日出版社と同一です。〉

◆参考書 WEB上に様々なトレーニング用コンテンツをUPします。音声を用いた復習が必要になります。
発音記号学習時に、鉛筆と同じ太さに書ける赤・青・黄のペンがあると便利です。

◆成績評価基準 授業への取り組み、小テストなどにより総合的に評価します。試験は、リスニングを中心となります。受講前に予想できる内容ではなく、柔軟な発想が必要ですが、指示通りに取り組めば、難しいものではありません。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆新聞で読む 1930 年代の上海

〔東洋史演習 I・II〕

火曜日 5 時限

担当者：高綱 博文

◆学修到達目標 『上海日日新聞』は、1930 年代の上海の政治、経済、戦況、時事、さらには文化・社会事情を知るための貴重な史料である。同新聞を講読しながら史料批判などの歴史研究のための基礎力を養成します。

◆授業方法 テキスト『上海日日新聞』を講読しながら、受講生による研究発表と討論を中心としたゼミナール形式で行います。

◆準備学修 『上海日日新聞』を読み、研究発表のために参考文献や史料を調べて準備する。

◆履修条件 通年で履修することが望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	テキスト講読・報告・討論
2回目	『上海日日新聞』について（講義）	10回目	テキスト講読・報告・討論
3回目	『上海日日新聞』の利用方法	11回目	テキスト講読・報告・討論
4回目	国会図書館見学	12回目	テキスト講読・報告・討論
5回目	テキスト講読・報告・討論	13回目	テキスト講読・報告・討論
6回目	テキスト講読・報告・討論	14回目	テキスト講読・報告・討論
7回目	テキスト講読・報告・討論	15回目	まとめ
8回目	テキスト講読・報告・討論		

◆教科書 テキスト『上海日日新聞』の DVD を利用。

◆参考書 授業中に適時指示する。

◆成績評価基準 講読・発表 (60%)、平常点 (20%)、リポート (20%)。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆科学と哲学の歴史を考えよう

〔科学哲学〕

火曜日 5時限

担当者：江川 晃

◆学修到達目標 「科学とは何か」という問いに答えるには、歴史的・哲学的・社会的観点からのアプローチが必要である。科学の成立は、近代ヨーロッパに生じた「科学革命」と呼ばれる歴史的出来事である。そこで、前期は、科学の誕生・発展を明らかにするために、科学革命のプロセスをたどる「科学史」の知見を得ることを目標とする。

◆授業方法 講義、小レポート、発表、討論しながら、ダイナミックに行こう。

◆準備学修 教科書の第1部を熟読すること。

◆授業計画（各90分）

1回目	ガイダンス「科学哲学とは何か」	9回目	天と地の統一 ニュートン
2回目	1章 「科学」という言葉	10回目	5章 科学革命3 デカルト
3回目	2章 アリストテレス的自然観	11回目	心身問題と「心の哲学」
4回目	古代ギリシャのセントラル・ドグマ	12回目	討論
5回目	討論	13回目	6章 科学の制度化 科学と大学
6回目	3章 科学革命1 コペルニクス	14回目	第二次科学革命
7回目	円の魔力 ケプラー	15回目	討論とレポート提出
8回目	4章 科学革命2 ガリレオ		

◆教科書 丸沼 『科学哲学への招待』野家啓一著(ちくま学芸文庫), 筑摩書房, 2015年 1,188円(税込)(送料215円)

◆参考書 指定しない。

◆成績評価基準 平常点・課題(50%) レポート(50%), 毎回出席を前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆広告の基本的機能と役割を理解する

(広告論)

火曜日 5時限

担当者：雨宮 史卓

◆学修到達目標 広告及び宣伝、PR、プロモーション等の意義を理解し、マーケティング戦略の中でいかにこれらが機能しているかを学ぶ。また、広告戦略についても考察し、広告が様々な企業組織や生活者の間に存在するコミュニケーション活動であることを理解する。

◆授業方法 ターム前半はテキストに沿いながら広告の基本機能を解説し、後半は必要に応じて資料を配布して企業の広告戦略を解説する。また、各授業の後半で、その日の主要なテーマに関するアクション・ペーパー（小論文）の提出を求める。

◆準備学修 指定したテキスト及び配布資料をよく読んでること。ノートを必ず持参すること。

◆履修条件 後期との継続受講が望ましい。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	授業の進め方 広告の定義と種類	9回目	広告会社の役割
2回目	マーケティング戦略の一要素としての広告	10回目	消費者行動と広告
3回目	マーケティング計画と広告	11回目	日常品の広告戦略
4回目	プロモーションにおける広告	12回目	高価格製品の広告戦略
5回目	広告の基本的機能と領域	13回目	広告の文化・社会的因素
6回目	製品・サービスと広告	14回目	前期の総復習
7回目	広告戦略の立案と計画	15回目	テストとその解説
8回目	広告効果の測定		

◆教科書 通材 『広告論 S30900』通信教育教材（教材コード 000538）2,450 円（送料込）※学修指導書付き。
〈この教材は市販の『ブランド・コミュニケーションと広告』雨宮史卓著 八千代出版社と同一です。〉

【当日資料配布】 必要に応じて当日、資料を配布する。

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 テスト (40%)、小論文 (40%)、平常点 (20%) 授業の取り組み、小論文、テストにより総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

【水曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 ー ブ 講ン
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配 当 学 年	受 講 条 件	
1 時 限	AC11	経済学	田村 和彦	2	B11800	経済学	×	1年		×
	AC12	英語基礎A	小澤 賢司	1	C10600	英語基礎	×	1年	・英文学専攻は申込不可。	
	AC13	考古学入門	浜田 晋介	2	Q20400	考古学入門	×	※	・史学専攻は1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AC14	簿記論I	山元 俊一	2	S20300	簿記論I	×	※	・商学部は1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
2 時 限	AC21	英語C	森 晴代	1	C10100	英語I	×	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英語II				
					C10300	英語III				
					C10400	英語IV				
	AC22	政治学特殊講義I・II	秋山 和宏	2	L311S0	政治学特殊講義I	×	2年	・I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					L312S0	政治学特殊講義II				
	AC23	商法I	南 健悟	2	K30500	商法I	×	2年		
	AC24	英語学演習I～III	真野 一雄	1	N401S0	英語学演習I	×	3年	・英文学専攻のみ申込可。 ・I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					N402S0	英語学演習II				
					N403S0	英語学演習III				
3 時 限	AC31	文学	木村 一	2	B11300	文学	×	1年		
	AC32	法学A	武田 茂樹	2	B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)	×	1年		
	AC33	英語D	北原 安治	1	C10100	英語I	×	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英語II				
					C10300	英語III				
					C10400	英語IV				
	AC34	刑法I	岡西 賢治	2	K20300	刑法I	×	※	・法律学科のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AC35	英語音声学	森 晴代	2	N30600	英語音声学	×	2年		
4 時 限	AC41	歴史学A	渡邊 浩史	2	B11100	歴史学	×	1年		
	AC42	憲法	名雪 健二	2	K20100	憲法	×	※	・法学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AC43	国語学概論	保科 恵	2	M20300	国語学概論	×	※	・国文学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AC44	国文学講義V(近代)	山崎眞紀子	2	M30900	国文学講義V(近代)	×	2年		
	AC45	日本思想史I	島田健太郎	2	P30800	日本思想史I	×	2年		
	AC46	東洋史入門	綿貫 哲郎	2	Q202S0	東洋史入門	×	2年		
	AC47	アメリカ経済論	羽田 翔	2	R312S0	アメリカ経済論	×	2年		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

【水曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 ー ブ 講 ン
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配当 学 年	受 講 条 件	
5 時 限	AC51	歴 史 学 B	堀井弘一郎	2	B11100	歴 史 学	×	1 年		
	AC52	文 化 史	渡邊 浩史	2	B11200	文 化 史	×	1 年		
	AC53	英 語 E	石川 勝	1	C10100	英 語 I	×	1 年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II		2 年		
					C10300	英 語 III				
					C10400	英 語 IV				
	AC54	国文学基礎演習	木村 一	1	M317S0	国文学基礎演習	×	2 年	・国文学専攻のみ申込可。	×
	AC55	情 報 概 論 A	戸塚 英臣	2	R32300	情 報 概 論	×	2 年		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

◆ 講座内容（シラバス）

◆ 少子高齢化時代の経済活動—少子高齢化と経済のサービス化—【経済学】

水曜日 1 時限

オープン受講：不可 担当者：田村 和彦

◆ 学修到達目標 経済問題についての理解力と思考力を向上させるため。

◆ 授業方法 講義方式。

◆ 準備学修 教科書を読んで十分に予習をすること。マスメディアを通じて経済事象に関心を持つこと。

◆ 授業計画（各 90 分）

1回目	経済学の定義	9回目	無差別曲線
2回目	希少性の法則と経済行為	10回目	消費性向・貯蓄性向・可処分所得（生活の経済）
3回目	経済学の研究手続き	11回目	生産の3要素 生産函数
4回目	資本主義経済 大きな政府、小さな政府	12回目	生産費 平均費用と限界費用
5回目	社会主義経済	13回目	生産要素の最適結合
6回目	現代資本主義	14回目	企業の最大利潤の追求と個別供給曲線
7回目	消費者の経済行動 財の効用	15回目	まとめ（経済のあり方について）
8回目	限界効用と総効用 限界効用遞減の法則		

◆ 教科書 通材 『経済学 B11800』 通信教育教材（教材コード 000450）2,250 円（送料込）

丸沼 『経済学』 濑川浩・田村和彦編著 桜門書房 3,024 円（税込）（送料 300 円）

テキストは、上記2冊を必ず持参のこと。

◆ 参考書 なし。

◆ 成績評価基準 最終筆記試験。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語の基礎を徹底的に学ぶ－品詞編－

★★★【英語基礎 A】

水曜日 1 時限

担当者：小澤 賢司

◆学修到達目標 本授業では、今後の英語学修の土台となる「基礎・基本」をしっかりと学ぶことを目標としています。いかなる学修においても「基礎・基本」はとても重要です。これを疎かにするとその後の「伸び」はありません。本授業で扱う内容は中学卒業程度の文法事項、及び英文ですが、それらは決して「楽」や「易」とイコールではありません。この点には十分留意して学修に臨んでください。前期に当たる本授業では、英語の「品詞」を中心に学修していきます。【本授業は昼間（後期）開講予定の「英語基礎－英語の基礎を徹底的に学ぶ－文法編－」と併せて受講することが望ましい】

◆授業方法 授業計画にある品詞を 1 つ 1 つ丁寧に解説し、それらが用いられた英文とともに学修することで適切な理解向上を図ります。なお、受講者の様子（理解度）を見ながら授業を進めていきますので、以下の授業計画はあくまで「目安」とお考えください。

◆準備学修 基本的に「予習」の必要はありません。その代わり、「復習」を「徹底して」行ってきてください。また、毎授業始めには復習テストを行います。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス 「品詞」と「文法」 ※ 1回目より内容に入ります(欠席しないように)	9回目	辞書に関するあの話この話
2回目	4 大品詞の確認「動名詞」	10回目	「接続詞」
3回目	「前置詞」	11回目	「関係代名詞」 その1
4回目	「不定詞」（名詞的用法） 「不定詞」 vs. 「動名詞」	12回目	「関係代名詞」 その2
5回目	「不定詞」（形容詞的用法） 「不定詞」（副詞的用法）	13回目	「助動詞」
6回目	「分詞」	14回目	これまでの復習（予備日）
7回目	「分詞」 vs. 「動名詞」	15回目	テスト及びまとめ
8回目	「不定詞」の応用		

◆教科書 **当日資料配布** 適宜、プリントを配布します。

◆参考書 **丸沼** 『一億人の英文法』 大西泰斗・ポール・マクベイ著 東進ブックス 1,944 円（税込）（送料 450 円）

丸沼 『英文法ビフォーアフター（普及版）』 豊永彰著 南雲堂 1,512 円（税込）（送料 450 円）

丸沼 『ジーニアス総合英語』 中邑光男・山岡憲史・柏野健次 大修館 1,620 円（税込）（送料 450 円）

◆成績評価基準 授業への取り組み、及びテストにより総合的に評価します。

※毎授業始めに復習テストを行いますので、遅刻をしないよう注意してください。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆考古学とはどのような学問か

〔考古学入門〕

水曜日 1 時限

担当者：浜田 晋介

◆学修到達目標 考古学の学問内容と、どのような方法で現在の考古学的成果が提出されているのかを、理解することができる。

◆授業方法 授業で配布するプリントと、授業ごとに映写する画像を用いて、講義形式ですすめていく。

◆準備学修 考古学とはどのような学問なのか、を事前に調べておくこと。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	「考古学入門」を学ぶために — 前期の授業の進め方 —	9回目	資料の年代：編年論 — 型式と様式 —
2回目	考古学とは何か — 文献史学と考古学 —	10回目	資料の用途論 — 何をするために作ったか —
3回目	研究資料の収集法 — 発掘調査の方法 —	11回目	資料の広がり：分布論 — 分布は何を意味しているのか —
4回目	考古学研究のながれ — 発掘から報告書まで —	12回目	資料の出土状況：解釈論 — 出土状況から何がわかるか —
5回目	考古学資料の特性 — 遺物：残るモノと残らないモノ —	13回目	日本の時代・時期区分論 — 年代区分の基準は何か —
6回目	考古学資料の特性 — 遺構・遺跡：残ったモノの意味 —	14回目	授業の理解度の把握と解説
7回目	資料の年代：層位論 — 相対年代の決定 —	15回目	考古学入門まとめ — 前期のまとめ —
8回目	資料の年代：共伴遺物と交差年代論 — 絶対年代の決定 —		

◆教科書 **当日資料配布** 当日プリント配布

◆参考書 **丸沼**『弥生文化読本』 浜田晋介 六一書房 2018年2月刊行 3,240円（税込）（送料350円）

◆成績評価基準 評価方法：数回に一度行う小テストと理解度をはかるテストを評価の基準とします。

評価割合：小テスト 50%，理解度をはかるテスト 50%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆初学者のための簿記入門コース

〔簿記論Ⅰ〕

水曜日 1 時限

担当者：山元 俊一

◆学修到達目標 初めて簿記を勉強する方を対象に、簿記一巡の流れを理解してもらい、最終的には、貸借対照表・損益計算書を作成できるようになることが目標です。そのためには、簿記の仕組みや帳簿記入・決算などの内容を理解することが重要です。前期のみの受講あるいは後期のみの受講も可能です。ただし、簿記検定3級程度の内容を概ね理解されたい方は通年の受講が望ましいと思われます。

◆授業方法 テキストの内容に沿って、内容を解説していきたいと思います。簿記は「習うより慣れろ」と言われています。そこで、講義ばかりでなく、実際に問題を解いてもらい、実践力を見につけてもらいたいと思います。

◆準備学修 簿記の場合は「ローマは1日にしてならず」という言葉がピッタリとあてはまります。継続的に練習を積み重ねていくことによって、身についていくものです。ですので、毎回の復習は欠かさずに行ってください。電卓は必ず持参してください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	簿記の意義と仕組み ①	9回目	現金と預金 ①
2回目	簿記の意義と仕組み ②	10回目	現金と預金 ②
3回目	仕訳と転記 ①	11回目	繰越商品・仕入・売上 ①
4回目	仕訳と転記 ②	12回目	繰越商品・仕入・売上 ②
5回目	仕訳帳と元帳 ①	13回目	売掛金と買掛金
6回目	仕訳帳と元帳 ②	14回目	その他の債権と債務
7回目	決算 ①	15回目	前期のまとめ
8回目	決算 ②		

◆教科書 **丸沼** 『検定簿記講義 3級商業簿記 平成30年度版』渡部裕亘・片山 善・北村敬子 中央経済社
756円(税込)(送料300円)

丸沼 『検定簿記ワークブック 3級商業簿記 第4版』渡部裕亘・片山 善・北村敬子 中央経済社
756円(税込)(送料300円)

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 原則として、授業の出席と試験の結果により総合評価を行います。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆理解言語「読む、聞く」をしっかり勉強しよう

★★☆ [英語 C]

水曜日2時限

担当者：森 晴代

◆学修到達目標 英語の4技能のうち、理解言語である「読む、聞く」を繰り返し練習することにより、英語そのものに慣れ、直聴直解を目指します。表現言語である「話せる、書ける」は、理解言語を相当有していることが前提となります。具体的にはネイティヴスピーカーが日常使用する500語を身につける、1分間に150語の音読及び内容把握を目標とします。また、前期のみの受講、後期のみの受講も可能ですが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆授業方法 2回の授業で1unit進めます。本文のリスニング、和訳、内容のディスカッション、質疑応答、音読（オーバーラッピング、シャドーイング）をグループワークを取り入れて行います。グループはクラスの人数により変更しますが4~6名で1グループを予定しています。辞典は必ず毎回持参してください。小テストは各unit終了時にそのunitの書き取り、もしくはパッセージの要約のいずれかを行います。

◆準備学修 必ず予習してきてください。自分がどの部分でつまづいているのかを把握してから授業に臨むと理解しやすくなります。1日に少しの時間でよいので音読練習、リスニング練習行ってください。難しいスペルの単語は練習しておきましょう。

◆授業計画（各90分）

1回目	リスニングと音読の関係性の説明 Unit1: Why Do English Keyboards Have QWERTY? 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	9回目	Unit 4 の補足 小テスト Unit5: Japan's Maglev Train 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
2回目	Unit 1 : Why Do English Keyboards Have QWERTY? リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング	10回目	Unit5: Japan's Maglev Train リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
3回目	Unit 1 の補足 小テスト Unit 2 : How to Avoid Fake News 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	11回目	Unit 5 の補足 小テスト Unit 6 : Monitoring Shoppers 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
4回目	Unit 2 : How to Avoid Fake News リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング	12回目	Unit 6 : Monitoring Shoppers リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
5回目	Unit 2 の補足 小テスト Unit 3: Cooking for the Community 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	13回目	Unit 6 の補足 小テスト Unit 7: A Teenager Fights Cyberbullying 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習
6回目	nit 3: Cooking for the Community リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング	14回目	Unit 7: ATeenager Fights Cyberbullying リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
7回目	Unit 3 の補足 小テスト Unit 4 : The First Shinkansen 内容に関するディスカッション 単語の意味及び発音練習	15回目	Unit 7 の補足 小テスト 前期授業のまとめ
8回目	Unit 4 : The First Shinkansen リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング		

◆教科書 丸沼『CNN 10 – Student News – vol. 1』 関戸冬彦他 4名著 朝日出版社
1,944円(税込)(送料300円)

◆参考書 授業中に紹介します。

◆成績評価基準 平常点(20%) 小テスト(20%) 音読発表(10%) 試験(50%)
毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本政治の今、これから（1）

〔政治学特殊講義Ⅰ・Ⅱ〕

水曜日2時限

担当者：秋山 和宏

◆学修到達目標 激動する世界に直面してわが国、わが国民も早急な対応を迫られている。こうした問題意識を明らかにするため日本政治の歴史・実態・問題点を理解し、あるべき姿を早急に考える力を身につけることを目指す。本講においては第二次世界大戦後の政治社会の歴史について学ぶ。

◆授業方法 主に講義形式で進めるが質疑応答を交えたものにしたい。

◆準備学修 ・高等学校の「日本史」「世界史」の教科書で近現代史の流れや基本事項を押さえておく。
・メディアの提供する近現代史に関する番組を視聴する。

◆授業計画（各90分）

1回目	ガイダンス	9回目	高度成長期（3）高度成長の終焉
2回目	第二次世界大戦後の政治社会（概観）	10回目	55年体制（1）成立
3回目	戦後復興と改革期（1）復興と民主的改革	11回目	55年体制（2）実態
4回目	戦後復興と改革期（2）日本国憲法の制定	12回目	55年体制（3）崩壊
5回目	東西冷戦の進展（1）米ソ対立の激化	13回目	55年体制後の政治（1）
6回目	東西冷戦の進展（2）日米安保体制の成立	14回目	55年体制後の政治（2）
7回目	高度成長期（1）高度成長の要因	15回目	日本政治の現状と展望
8回目	高度成長期（2）高度成長と政治		

◆教科書 丸沼『新編 現代政治過程』秋山和宏・照屋寛之編著 三和書籍 2,700円（税込）（送料300円）

◆参考書 適宜紹介する。

◆成績評価基準 試験（70%）とレポート（30%）で評価。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆商取引法の基礎を学ぼう

〔商法 I〕

水曜日 2 時限

担当者：南 健悟

◆学修到達目標 この講義では、商法という法律分野のうち、商取引法に関する「商法総則」及び「商行為法」と呼ばれる分野について扱います。この講義において受講生は、第一に、商取引の主体である「商人」とはどのような者であるかを、第二に、商取引の類型とその特徴について学修し、ビジネスパーソンとして、最低限の商取引に関する法律について理解し、そこで生じる法的問題について考える能力を備えることが目標となります。

◆授業方法 この科目では、原則として配付資料及び通信教材に基づいて講義を行う。通信教材で不足している部分については配付資料を適宜参照して頂きます。講義形式ではあるものの、講義中適宜、質問等を行うため、積極的に参加することが望されます。

◆準備学修 商法という法律は、抽象的な内容が多く、講義だけでは身近に感じにくいものと思われる。例えば、準備学修においては、通信教材を読むだけではなく、新聞やニュース等を参考しながら、具体的なビジネス取引を想起したり、自身の取引経験を想起したりしながら講義に臨むことが必要です。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	オリエンテーション—商法を学ぶ前に	9回目	商人情報の公示②—商業登記の効力
2回目	商法総論①—商法とはどんな法律？	10回目	商人情報の公示③—商業帳簿
3回目	商法総論②—約款とは何か？	11回目	商人の補助者①—商業使用人とは？
4回目	商取引の主体①—商人とは？	12回目	商人の補助者②—表見支配人・代理商とは？
5回目	商取引の主体②—商人資格	13回目	商行為法総論①—各種商取引の紹介
6回目	商号①—商号とは何か？	14回目	商行為法総論②—商取引の特徴
7回目	商号②—名板貸し責任とは？	15回目	まとめ
8回目	商人情報の公示①—商業登記概説		

◆教科書 通材 『商法 I K30500』通信教育教材（教材コード 000551）3,850 円（送料込）※学修指導書付き。
〈この教材は市販の『現代商取引法』藤田勝利ほか編 弘文堂 2011年と同一です。〉

◆参考書 丸沼 『商法 I—総則・商行為（第 5 版）』落合誠一ほか 有斐閣 2013 年 2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準 講義への積極的な参加、各回の小テスト、最終試験等により総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆「ことば」の世界旅行

水曜日2時限

[英語学演習 I ~ III]

担当者：真野 一雄

◆学修到達目標 「ことば」について、すなわち英語学・言語学（・日本語学）の基礎的知識を修得し、言語について自ら考察できるようにする。

◆授業方法 テキスト本文の解説、補足説明を行います。必要に応じて担当講師が用意する練習問題を行います。

◆準備学修 毎回、テキストを読み、理解できるところ、できないところを自覚しておいてください。演習問題の解答も用意しておくように。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	序章	9回目	第4章 ことばと文法(2) 日本語の節構造
2回目	第1章 世界のことば(1) 分類と特徴	10回目	第5章 ことばと意味(1) 語の意味
3回目	第1章 世界のことば(2) 日本語と英語の比較	11回目	第5章 ことばと意味(2) 文の意味
4回目	第2章 ことばと音声(1) 英語の音と日本語の音	12回目	第6章 ことばの変化(1) 音韻変化
5回目	第2章 ことばと音声(2) リズム、連結、同化	13回目	第6章 ことばの変化(2) 語形変化、統語変化
6回目	第3章 ことばと語(1) 複合	14回目	第7章 ことばと社会 様々な英語、ことばの性差
7回目	第3章 ことばと語(2) 派生	5回目	試験+その解説
8回目	第4章 ことばと文法(1) 統語構造		

◆教科書 **丸沼** 『[入門] ことばの世界』 大修館書店 1,944 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 **通材** 『英語学概説 N30700』 通信教育教材（教材コード 000400）3,400 円（税込）
<この教材は市販の『英語学入門』安藤貞雄・澤田浩美編著（開拓社）と同一です。>

丸沼 『日英対照 英語学の基礎』 くろしお出版 1,944 円（税込）（送料 300 円）
(※自学用で、授業中に参照することはありません。)

◆成績評価基準 試験を中心に受講状況その他を加味して評価の予定。6回以上の欠席者は受験資格を失います。
(試験は途中退出なしです)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆古典作品から人々を読む

〔文学〕

水曜日 3 時限

担当者：木村 一

◆学修到達目標 本講座はいわゆる「国語」ではありません。文学です。本講座では平安時代の文学作品を対象にして、実際にその作品を読んでいくことで、当時の人々がどのようなことを考え、思っていたかということを読み解いていきます。実際に対象とするのは和歌集の「序文」と初期の物語作品です。そこに表現されている人間模様やものの考え方を知ることにより、次の文学研究への基礎を形成するきっかけとなります。

◆授業方法 講義形式での授業を行います。指定テキストの解説とあわせて、実際に文学作品を読んでいきます。ただし、ただ文学作品の内容を捉えることが目的なのではありません。受講生諸君に積極的に思考を促し、表現してもらうために授業時間内に複数回、小課題を課します。課題のタイミングを逃さないこと。のために積極的にノートを執ること。

◆準備学修 指定されたテキストの内容とその流れとを事前に把握しておくこと。授業範囲の専門用語を事前に把握しておくこと。毎回の授業後、各市のノートとテキストを基とし、整理復習をしっかりとこなし、次の授業につなげる努力をすること。次回の予告を聞き逃さず、展開に即したテキスト（あるいはプリント）の内容把握と作品内容の読み込みを行うこと。

◆履修条件 前期のみの受講・後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	導入・どうすすめるか・諸注意	9回目	『竹取物語』の展開
2回目	和歌とは	10回目	かぐや姫と結婚拒否
3回目	『古今和歌集』ということ	11回目	『伊勢物語』入門
4回目	国風暗黒時代と二つの序文	12回目	虚構と実相
5回目	撰者の意識とその周辺	13回目	連続と非連続と
6回目	和歌から物語へ	14回目	『伊勢物語』の伊勢とは
7回目	物語とは	15回目	試験
8回目	『竹取物語』から始めよう		

◆教科書 **当日資料配布** 当日プリント配布。

通材 『国文学基礎講義 M20100』通信教育教材（教材コード 000519）3,350 円（送料込）
※学習指導書付き。

〈この教材は市販の『Next 教科書シリーズ日本古典文学』近藤健史編 弘文堂と同一です。〉

◆参考書 電子辞書があると便利（電子端末＝スマホ・タブレット不可）。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提とし、講義への取り組み・小課題の成果により総合的に評価する。
受講状況（10%）・小課題（10%）・試験（80%）

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆法の歴史の全体像を学ぼう【1】古代法・中世法と近代法の形成【前期】〔法学 A〕

水曜日3時限

担当者：武田 茂樹

◆学修到達目標 激動する現代社会において、歴史の全体像を学ぶことは非常に大切なことです。とくに、法学を社会科学の視点から考えるとき、法がどのように成立し、いかなる成長・発展をとげ、今日に至ったのか、そして法の未来をどのように展望するのかという歴史軸の全体を通して理解することが必要です。法学の前期は、古代法と中世法の歴史を学び、そして近代法の形成について考察します。その理解のなかで、現代の法システムの根源である立憲主義の歴史を十分に学び、最高法規としての憲法の大切さを理解することが目標です。

◆授業方法 基本的に講義を中心に授業を進めますが、学生諸君の疑問点になるべく答えるよう質疑応答の機会をとりたいと思います。法学の講義は、前期・後期という一年間を通して、法の理解を深めていくことが目標です。前期・後期の連続的な受講をお願いします。この講義は、教養科目に該当し、法の専門家の必要とする内容ではありません。総合的な知性と文化認識を楽しみながら受講してください。

◆準備学修 前期は、立憲主義の理解を軸に、法の歴史の全体像を学びます。その前提として、世界史の勉強をしておくことが講義を理解する上で有意義だと思います。なお、立憲主義の形成がテーマなので、憲法の本を読むことが良いと思います。芦部著『憲法』(岩波書店)をゆっくりとあせらずに講義と並行して読むことを薦めます。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	法学をどのように学ぶべきか。激動の現代世界において総合的な知性の形成が必要不可欠です。ジャンルの閉鎖性を超えた学問の探求の重要性について話します。	9回目	近代社会・近代法システムの根底にある資本主義経済について考えます。資本主義経済の成立によって、中世封建社会は終焉し、新たな近代社会に移行するのです。
2回目	法をどのような学問的視点から学ぶべきか。とくに、歴史的・文化的視点で考察していくことの大切さについて話します。	10回目	資本主義経済と近代法の関係の関係を考察します。近代資本主義経済の成立によって近代法システムの社会基盤が成立するのです。
3回目	法の歴史的資料の出発点ともいえるハムラビ法典について。ハムラビ法典とは、どのような歴史的・文化的な性格を持っているのか。	11回目	近代法システムの資本主義法としての性格を学びます。近代法は商品交換法体系であり、資本主義経済の円滑化をめざしています。
4回目	古代ローマ法こそ今日の源流であるといわれます。その構造と成立理由を考えることによって、古代法の社会的役割について考察します。	12回目	近代法システムの体系を理解します。近代法システムは、私法と公法の二元的体系からなる。近代「六法」の体系として成立します。
5回目	古代ローマ法とキリスト教の関係について。キリスト教は、人間の精神史に重大な影響を与えた宗教であり、法の成立に根本的な役割を果たしています。	13回目	近代世界の光と影について考えます。それは、近代世界のヨーロッパ中心主義とアジア・アフリカ・中南米地域に対する植民地支配という二元的構造の問題です。
6回目	法と社会構造の関係について。古代法や中世法は、封建社会という社会構造に深く立脚し、この封建社会の構造変化が、近代社会と近代法を生み出します。	14回目	近代法から現代法への展開を検討します。第二次世界大戦後の国際社会の形成と現代法世界の発展が中心的課題です。
7回目	近代市民革命と近代社会の成立について考察します。近代市民革命は、封建的な社会構造を崩壊させ、近代社会とそれに立脚する近代法の成立を促します。	15回目	前期講義のまとめ・試験
8回目	近代社会の構造について。近代社会は、古代法や中世法の封建的な人的支配の構造と異なり、近代立憲主義に立脚した「法の支配」による政治社会を形成して行きます。		

◆教科書 なし。

◆参考書 授業中に提示する。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提として、試験(80%)、平常点(20%)で評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英文の基本構造を理解する

★★☆〔英語 D〕

水曜日3時限

担当者：北原 安治

◆学修到達目標 五文型に基づき、英文の構造を把握して初学者でも正しい訳ができるようになることを目標とする。前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業方法 本文のみやり練習問題はやらない。ノート検査は抜き打ちで行うのでかならずノートは書いておく。および板書事項を正確にすべて写していないノートは不可とし単位を与えない。

◆準備学修 予習段階で英文を8行ほどの間隔でノートに写す。板書のときは英文の下に訳を書くが、ノートの見開きの左のページに英文を写し、右のページに訳をつけても良い。単語を調べてくること。毎回和訳小テストをするので辞書を持ってくること。教科書を毎回持ってくること。15回目の試験は辞書やノートの持ち込み不可。

◆授業計画（各90分）

1回目	第5章（米1）の英文構造と和訳	9回目	第5章（米1）の英文構造と和訳
2回目	第5章（米1）の英文構造と和訳	10回目	第5章（米1）の英文構造と和訳
3回目	第5章（米1）の英文構造と和訳	11回目	第5章（米1）の英文構造と和訳
4回目	第5章（米1）の英文構造と和訳	12回目	第5章（米1）の英文構造と和訳
5回目	第5章（米1）の英文構造と和訳	13回目	第5章（米1）の英文構造と和訳
6回目	第5章（米1）の英文構造と和訳	14回目	第5章（米1）の英文構造と和訳
7回目	第5章（米1）の英文構造と和訳	15回目	まとめと試験（持ち込みなし）
8回目	第5章（米1）の英文構造と和訳		

- ◆教科書 丸沼 『Major Countries in the World～世界の主要国～』
小泉和弘編、鳳書房 (Tel/Fax (03) 3483-3723) 1,944円（税込）（送料300円）
- ◆参考書 丸沼 『ロイヤル英文法』1（旺文社）この本は講義では使わない。1,944円（税込）（送料450円）
辞書は毎回持ってくること。辞書を持って来ているか検査をする。
- ◆成績評価基準 試験、実力テストなどの総合評価。
皆出席を望む。欠席1回で何点か引く。出席点とノート点は加点しない。
出席してノートを取るのは当然のことだからである。
抜き打ちの実力テストも行う。板書事項を全部書いているかを調べる。
ノート検査をして不備の者は不合格。テキストを買っていないものも不可とする。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆犯罪と刑罰の基礎を理解する

【刑法 I】

水曜日3限時

担当者：岡西 賢治

◆学修到達目標 犯罪と刑罰に関する基礎的知識を習得し、人を処罰することについて自らの考えを持ち、具体的な事件や現象を理解し検討・批判する能力を修得する。学習にあたっては、専門用語や概念を覚えるだけではなく、それらを使って現実の問題に取り組めるような能動的姿勢が身につくようにする。

◆授業方法 講義形式を中心とするが、必要に応じて個々の意見を求めることが、特定のテーマを設定して全体で議論することもある。

◆準備学修 基本となる専門用語や概念については、授業ごとにおおまかに理解しておく。また、できれば関連する判例などについても調べておく。

◆履修条件 前期・後期を通じた積み重ね式の講義のため、連続履修を条件とする。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	刑法とは何か：刑法の意義と目的	9回目	刑法の場所的・時間的・人的適用
2回目	なぜ人を処罰するのか：学派の争い	10回目	犯罪論の概要：犯罪の成立要件
3回目	刑罰の種類	11回目	構成要件とは何か：機能と性質
4回目	刑の適用：法定刑、処断刑、宣告刑	12回目	不作為犯と身分犯
5回目	死刑制度の是非について	13回目	因果関係とは何か
6回目	罪刑法定主義とは何か：法定の意義、遡及処罰の禁止、	14回目	罪数：単純一罪、科刑上一罪、併合罪
7回目	類推解釈の禁止	15回目	試験
8回目	明確性の原則、刑罰の適正		

◆教科書 1回目の講義において指定する。

◆参考書 丸沼 『ホーンブック新刑法総論 改訂2版』 船山泰範 北樹出版 2,808円（税込）（送料350円）

丸沼 『最新重要判例250 刑法』 前田雅英 弘文堂 2,700円（税込）（送料350円）

◆成績評価基準 試験（60%）平常点（20%）小テストまたはレポート（20%）

平常点は質問に対する答えや討論などの発言によって評価する。また、講義中のどこかで小テストまたはレポートを計2回実施する（10ポイント×2）。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語の音声現象の基礎理解

〔英語音声学〕

水曜日3限

担当者：森 晴代

- ◆学修到達目標 1. 日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解する。
2. 英語のプロソディの学びを通して、英語らしい発音を追及する。

◆授業方法 英語音声学の観点から前期は母音、強勢、リズムの説明を行います。毎週小テストを課して習得状況を確認します。練習問題を適宜配布し問題を解きながら難しい箇所を補足説明します。8名から10名のグループを作り、発音練習への取り組みやプリント作成を行います。全員参加型の授業を目指します。

◆準備学修 プリントには専門用語が数多くでてきますので、前もって読んでおきましょう。発声器官の名称は、子音の勉強につながります。理解しておきましょう。また、辞典を引く際発音記号を意識する習慣がついていると良いと思います。授業には必ず辞典を持参してください。

◆授業計画（各90分）

1回目	音声学とは？発声器官の名称説明	9回目	音節、語強勢、句強勢の説明、演習
2回目	発音記号に慣れよう！ (練習問題配布) 及び解答、発音記号の見方	10回目	文強勢の説明、演習
3回目	基本母音の説明	11回目	英語のリズムと日本語のリズムの説明、演習
4回目	英語の母音の分類、前舌母音の説明及び発音練習	12回目	文（短文）の発音練習及び練習問題1
5回目	後舌母音の説明及び発音練習	13回目	文（短文）の発音練習及び練習問題2
6回目	中舌母音の説明及び発音練習	14回目	発音テスト
7回目	二重母音の説明及び発音練習	15回目	中間筆記テスト
8回目	母音、二重母音の演習問題配布及び解答		

◆教科書 **当日資料配布** プリント使用

◆参考書 **丸沼**『英語の音声を科学する』大修館書店 新装版 CD付 川越いつえ著 2,592円(税込)(送料300円)
*授業では使用しません。

◆成績評価基準 平常点(20%)、小テスト(20%)、発音テスト(10%)、試験(50%)

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆近藤ようこの歴史学

【歴史学 A】

水曜日4時限

担当者：渡邊 浩史

◆学修到達目標 漫画家近藤ようこは『水鏡奇譚』をはじめとして歴史学・民俗学・神話学・国文学など幅広い学問分野の成果を反映させた作品を発表している。彼女の歴史に関わる一連の作品を通して、歴史学という学問はどのような学問であるかを理解できるようになる。

◆授業方法 講義形式で行う。適宜プリントやDVDなどを使用し、受講生の理解の一助とする。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆準備学修 近藤ようこの歴史に関わる作品は最低限読んでおく必要がある。特に『水鏡奇譚』や『妖靈星』、『説経 小栗判官』は必須である。扱う材料は漫画なので平易に見えるが、内容はかなり難しいと思って受講してほしい。かなり広範な知識を必要とする内容だと覚悟して受講してもらいたい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	はじめに	9回目	『説経 小栗判官』
2回目	『水鏡奇譚』	10回目	『説経 小栗判官』
3回目	『水鏡奇譚』	11回目	『説経 小栗判官』
4回目	『水鏡奇譚』	12回目	その他の近藤作品
5回目	『水鏡奇譚』	13回目	その他の近藤作品
6回目	『妖靈星』	14回目	その他の近藤作品
7回目	『妖靈星』	15回目	おわりに
8回目	『妖靈星』		

◆教科書 使用しない。

【当日資料配布】 適宜授業中に資料プリントを配布する。

◆参考書 丸沼 『水鏡奇譚』ちくま文庫 1,296 円（税込）（送料 300 円）

丸沼 『説経 小栗判官』KADOKAWA ビームコミックス 842 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準 平常点 20%, 試験 80%

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆憲法を考える

〔憲法〕

水曜日 4 時限

担当者：名雪 健二

◆学修到達目標 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、憲法を知ることは、われわれが国家生活をしていく上で極めて重要である。

憲法を学ぶことで、憲法とは何かを知ることができ、また、憲法の規範論理的構造を理解することで、現代の複雑な憲法現象を統一的に、かつ、原理的にとらえることができる。

◆授業方法 憲法の解釈論が中心となる。また、生きた憲法を理解するために、判例を取り上げる。そのための資料として、授業に関連する判例を配布する。

◆準備学修 授業計画が 1 回から 15 回まで記載されているので、授業を理解する前提として、教科書をよく読んでおくこと。授業の範囲内における専門用語については、法学（法律学）辞典を引き、その意味を正確に理解しておくこと。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス、憲法の概念、憲法の分類	9回目	信教の自由
2回目	日本国憲法制定の法理、日本国憲法の構造	10回目	学問の自由
3回目	憲法の基本原理、天皇	11回目	表現の自由
4回目	天皇、人権総論	12回目	表現の自由、経済的自由
5回目	人権総論	13回目	経済的自由、人身の自由
6回目	人権総論	14回目	社会権
7回目	法の下の平等	15回目	国務請求権、参政権、前期の総括
8回目	法の下の平等、思想および良心の自由		

◆教科書 丸沼 『日本国憲法』 名雪健二 有信堂 3,780 円（税込）（送料 350 円）

◆参考書 丸沼 『憲法第 6 版』芦部信喜・高橋和之補訂 岩波書店 3,348 円（税込）（送料 450 円）

◆成績評価基準 授業態度・小テスト（2 回）・スクーリングの最終試験により総合的に判断する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆国語学がどういう学問かを知る

〔国語学概論〕

水曜日 4時限

担当者：保科 恵

◆学修到達目標 ひと口に「国語学」と言っても、様々な対象・方法があります。国語学がどういう学問なのかをひと通り見渡すことによって、国語学に対する知識を身につけることを目標とします。

◆授業方法 講義を中心として授業を進めますが、適宜指名してテキストを読んでもらったり、各項目についての小テストを行なったりします。

◆準備学修 特別なことは必要ありませんが、いろいろな国語の現象に対する興味を持っていることが前提です。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス（その1）	9回目	音韻（その5）
2回目	ガイダンス（その2）	10回目	文字（その1）
3回目	序説（その1）	11回目	文字（その2）
4回目	序説（その2）	12回目	文字（その3）
5回目	音韻（その1）	13回目	文字（その4）
6回目	音韻（その2）	14回目	文字（その5）
7回目	音韻（その3）	15回目	まとめ
8回目	音韻（その4）		

◆教科書 丸沼 『国語学要論』 福島邦道 笠間書院 1,512 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験 70%。平常点 30%。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆近代小説を中心とする文体の変遷

〔国文学講義V(近代)〕

担当者：山崎 真紀子

水曜日 4時限

◆学修到達目標 明治期の文体の変遷を、主に小説を中心に、ときに評論、詩歌などの韻文も含みつつ1868年～1909年までの文章を時系列に従って見ていく文学史の授業であるので、日本近代文学の流れを理解できるようになることが目標である。日本の近代化はどのような文章によって進められていったのか、特に大きな変革期である言文一致体への移行を作品を読むことで理解し、何が表現の上で可能になったのかポイントをつかむこと。

◆授業方法 教科書を用いて朗読し、解説とポイントを説明する。その後、受講生も朗読を行い、文章のリズムをつかんでもらう。そのうえで「表現」、表記や語り口などを考察し、文章の全体像が把握できるように講義式で行う。

◆準備学修 講義日に行う予定の部分を事前に目を通して、朗読の際にスムーズに読めるように予習を欠かさないこと。

◆履修条件 教科書を必ず持参すること。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	ガイダンス、および明治の文体・第一期（1868～1884年）「学問のすゝめ」迄	9回目	第二期「小公子」「五重塔」他
2回目	第一期 「新体詩抄」他	10回目	第二期「たけくらべ」「十三夜」他
3回目	第一期 「怪談牡丹灯籠」他	11回目	第三期「金色夜叉」「高野聖」他
4回目	第二期「小説神髄」他	12回目	第三期「病床六尺」「春の鳥」他
5回目	第二期「女子参政 豊中楼」他	13回目	第三期「蒲団」「春昼」他
6回目	第二期「浮雲」「武蔵野」他	14回目	第三期「それから」「冷笑」他
7回目	第二期「あひびき」「初恋」他	15回目	第一期～第三期、全体の流れ
8回目	第二期「風流物」「舞姫」他		

◆教科書 **丸沼**『作品で綴る近代文学史』(鼎書房) Amazon では購入が難しい。出版社の HP で購入方法を確かめること。入手できない際は開講時に相談。 2,160 円 (税込) (送料 300 円)

◆参考書 指定したい文庫本があるが、品切れ、絶版が多いので、適宜指示する。

◆成績評価基準 受講時の朗読および考察ペーパー (40%)、レポートの内容 (60%)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆室町時代の思想

水曜日 4 時限

[日本思想史 I]

担当者：島田 健太郎

◆学修到達目標 本年度は室町時代の思想について概観します。前期では政道論と人間觀を中心に取り上げます（後期は芸道論と宗教です）。室町時代の知識人達が、何を「理想」とし、どのようなことを「良きこと」と考えたのか、これらの検討を通して、中世の人々のものの考え方を理解するとともに、日本の精神文化を考える視野を広げることを目標とします。

◆授業方法 プリントとして配布する原典や史料を中心に、講義形式で行います。授業中の質問は大歓迎です。

◆準備学修 室町時代の歴史（特に政治史）についてある程度確認しておくと授業が聞きやすくなります。また、旧国名（河内とか武藏など）の位置などの理解があるとよいでしょう。さらに授業後、授業内容を復習しながら、用語のチェックや疑問点・問題点をまとめておくとよいと思います。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	イントロダクション	9回目	新しい武士像（2）
2回目	時代背景の概観（1）	10回目	『徒然草』の人間觀（1）
3回目	時代背景の概観（2）	11回目	『徒然草』の人間觀（2）
4回目	政道思想（1）：『神皇正統記』	12回目	『お伽草子』の人間觀
5回目	政道思想（2）：『神皇正統記』	13回目	王朝憧憬の思想
6回目	政道思想（3）：『太平記』	14回目	故実の尊重
7回目	政道思想（4）：『梅松論』他	15回目	まとめ
8回目	新しい武士像（1）		

◆教科書 **当日資料配布** 教科書は使用しません。当日プリントを配布します。

◆参考書 **通材** 『日本思想史 I P30800』（教材コード 000137）3,150 円（送料込）第二章第一節（P.70～P.97）
〈この教材は市販の『日本思想論争史』今井淳・小澤富夫（ペリカン社）と同一です。〉

丸沼 『室町幕府と地方の社会 シリーズ日本中世史③』榎原雅治著 岩波新書 907 円（税込）（送料 215 円）
その他適宜紹介します。

◆成績評価基準 試験の成績を基準に、授業への取り組みなどを勘案して総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆東洋史研究のインプットとアウトプットの基礎

〔東洋史入門〕

水曜日 4 時限

担当者：綿貫 哲郎

◆学修到達目標 「外国史（東洋史）」の地理的特徴を明らかにし、研究史を整理することを通じて、学修の意義や現代までの史実や解釈へのさまざまなアプローチが身につくようになります。また東洋史の卒業論文・レポートなどのアウトプット、教材研究の資料集めの基礎的な技術が身につくようになります。なお、前期のみの受講も可能ですが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆授業方法 以下の授業計画（学生の理解度により変更あり）に沿って、講義及び実習形式でおこないます。講義の理解を深めるため、視覚教材を適宜併用します。授業時間内外でレポートを課する予定です。

◆準備学修 予習よりむしろ復習に重点をおいてください。翌週の授業は前週の内容理解なしには達成が難しいからです。また授業で工具書、ネット検索の方法、文献目録の作成例などを紹介しますが、これはごく一部にすぎず全てではありません。授業を通じ受講生自身で自らのパターンを確立してください。

◆履修条件 平成 27～29 年度 昼間・土曜スクーリング（前期）「東洋史入門」との積み重ね不可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス、導入 - 近代史以前の理解	9回目	「東洋史」関連の工具書・概説書
2回目	「東洋史」とは何か	10回目	「東洋史」研究とインターネット利用
3回目	近代日本のナショナリズムと「東洋」	11回目	「私語り」からの脱却
4回目	近代歴史学と「東洋史」	12回目	文献目録の表記（1）- 書籍
5回目	内藤湖南と白鳥庫吉 - 研究と史料	13回目	文献目録の表記（2）- 論文
6回目	那珂通世と「モンゴル史」研究	14回目	文献目録の表記（3）- 書籍と論文
7回目	「レポート」と「卒業論文」の違い	15回目	まとめ、試験
8回目	卒業論文執筆の流れ・図書館の有効利用		

◆教科書 **当日資料配布** 当日プリントを配布します。

◆参考書 **丸沼**『わかる・身につく歴史学の学び方：歴史学がわかると世界が見える』大学の歴史教育を考える会 [編]
大月書店、2016 年 2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準 試験（60%）・平常点（40%）。毎回出席することを前提として総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本経済・世界経済と深く関わるアメリカ経済の学修1 [アメリカ経済論]

水曜日 4時限

担当者：羽田 翔

◆学修到達目標 本講義では、アメリカ経済の発展構造とその特徴を長期的な観点から学修し、現在のアメリカ経済が日本経済および世界経済に与えている影響を理解することを目標とする。具体的には、アメリカ経済に関する記事やニュースなどの内容や問題点を理解し、世界経済との関連性を考え、解決策等を提示できる能力を養うことを目指した科目である。

◆授業方法 本科目は、主にスライド資料およびレジュメを使用し、必要な場合は参考書を使用して講義を進める。その中で、受講生に対して質問や意見を求めたり、グループディスカッションを行ってもらったりするため、お互いのコミュニケーションが求められる。講義の最後に確認テストを行う場合もあるため、毎回集中して講義に参加すること。

◆準備学修 受講生は毎回配布される資料や参考書を講義中および予習・復習（各1時間程度）に利用して学習すること。本科目は予習も重視するが、講義後の復習における論点や重要事項の整理をより重視する。また、毎回の講義には出席のみではなく「参加」する意識を持ってほしいため、日頃からアメリカ経済に関心を持ち、本講義に関連した新聞記事等を確認すること。

◆授業計画（各90分）

1回目	アメリカ経済論とは？：授業概要、成績評価等	9回目	戦間期④：ニューディール政策の限界
2回目	歴史的から考えるアメリカ経済の特徴	10回目	パックス・アメリカーの形成①：パックス・アメリカーとは？
3回目	第一次世界大戦前の経済発展①：植民地期、独立革命、南北戦争	11回目	パックス・アメリカーの形成②：第二次世界大戦における経済システムの特徴
4回目	第一次世界大戦前の経済発展②：南北戦争までの経済発展の特徴	12回目	パックス・アメリカーの形成③：戦時経済における制度およびシステムの転換
5回目	第一次世界大戦前の経済発展③：南北戦争後の経済発展と「ビックビジネス」	13回目	パックス・アメリカーの形成④：戦後パックス・アメリカーと「持続的成長」
6回目	戦間期①：戦間期前半における経済発展	14回目	パックス・アメリカーの形成⑤：パックス・アメリカーと世界政治経済体制
7回目	戦間期②：株式ブームの発展と崩壊	15回目	本講義のまとめ：パックス・アメリカー形成を理解する
8回目	戦間期③：世界大恐慌とニューディール政策		

◆教科書 **当日資料配布** 配布資料を使用する。

◆参考書 **丸沼**『現代アメリカ経済』 河村哲二著 2009年 有斐閣アルマ 2,484円(税込)(送料300円)

丸沼『現代アメリカ経済分析』 中本悟・宮崎礼二編著 2014年 日本評論社 2,808円(税込)(送料350円)

◆成績評価基準 期末試験(60%), 小テストおよびレポート(30%), 授業への積極的参加(質問や意見)(10%)により、総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆近現代の日中関係史を学ぼう

(歴史学 B)

水曜日 5 時限

担当者：堀井 弘一郎

◆学修到達目標 幕末から今日に到るまで近代日本は隣国中国と時に厳しく対峙し、時に友好を深めつつ、複雑な二国間関係を形成してきた。本講座ではそうした歴史的過程と、同時代と共に生きた日中両国民の足跡をたどりながら、確かな歴史的教養もって日中関係を考え語れるようになることを目標とする（前期はアヘン戦争～満州事変前）。

◆授業方法 毎回レジュメや資料プリントを用意し、それに沿って講義形式で授業をすすめる。その際、受講者からの質疑や希望者による研究発表等を取り入れていく。また、視聴覚教材を活用したり、史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味・関心を深める。資料収集の方法、卒業論文等の作成方法についても解説する。

◆準備学修 「歴史とは現代と過去との対話である」(E・H・カー)。戦後 70 年を経た今日だが、日中関係は必ずしも良好な関係とはいえない状態にある。そんな今日こそ、日頃から日本・中国の近現代史、日中関係史に関する書物に親しんだり、時事的問題に関する新聞・雑誌記事を読んで必要に応じて保存したりすることを心がけてほしい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス（日中関係は今…）	9回目	中国人留学生と日本
2回目	中国の近現代史を眺める	10回目	台湾統治 50 年と現代
3回目	「西洋の衝撃」と日本	11回目	第 1 次世界大戦と日中両国
4回目	琉球処分と現代	12回目	辛亥革命から「南京の 10 年」へ
5回目	「からゆきさん」と近代の移民	13回目	受講生（希望者）による研究発表
6回目	大日本帝国憲法とアジア	14回目	「魔都上海」に暮らす日本人
7回目	日清戦争と朝鮮	15回目	「まとめ」と「試験」を行う
8回目	日露戦争と中国		

◆教科書 指定しない。

◆参考書 **丸沼**『シリーズ中国近現代史② 近代国家への模索』川島真 岩波新書 928 円（税込）（送料 215 円）
丸沼『シリーズ中国近現代史③ 革命とナショナリズム』石川貞浩 岩波新書 885 円(税込) (送料 215 円)
丸沼『新しい東アジアの近現代史（上・下）』日中韓 3 国共同歴史編纂委員会編 日本評論社
(上) 2,700 円 (税込), (下) 2,700 円 (税込) (上) + (下) (送料 450 円)

◆成績評価基準 前期・後期ごとに、平常点 20%、試験 80% で評価する。毎回出席することを前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆マンガもアニメも日本の伝統文化だ！

[文化史]

水曜日5時限

担当者：渡邊 浩史

◆学修到達目標 現在の日本においてサブカルチャーといわれているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察することによって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているのかを理解できるようにする。

◆授業方法 講義形式で行う。適宜プリントやDVDなどを使用し、受講生の理解の一助とする。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆準備学修 授業を受ける前に、最低限高校日本史教科書レヴェルの知識はつけておいてほしい。扱う題材は平易に見えるが、内容はかなり難しいと思って受講してほしい。かなり広範な知識を必要とする内容だと覚悟して受講してもらいたい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	はじめに　近代文化とアニメ	9回目	仏教文化
2回目	古代の文化	10回目	怪異
3回目	古代の文化	11回目	怪異
4回目	縄文・弥生文化	12回目	かぐや姫
5回目	古墳文化	13回目	かぐや姫
6回目	古墳文化	14回目	かぐや姫
7回目	仏教文化	15回目	おわりに
8回目	仏教文化		

◆教科書 使用しない。

当日資料配布 適宜授業中に資料プリントを配布する。

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 平常点 20%、試験 80%。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆基本的な英語力の底上げ

★★☆ [英語 E]

水曜日 5 時限

担当者：石川 勝

◆学修到達目標 基本的な文法を理解した上で、易しい英文を読み進めていく。テキストは大学生がヨーロッパで経験した話なので身近に感じられると思われる。

◆授業方法 最初に文法の説明をし、その後でテキストを訳していく。アトランダムに指名し訳してもらうので、必ず指示された個所を全訳しておくこと。2回予習していない場合単位を認めない。

◆準備学修 前の週に指示されたところを全訳しておく。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	仮定法
2回目	五文型	10回目	That 設
3回目	五文型続き	11回目	文法の復習
4回目	TO 不定詞	12回目	文法の復習
5回目	完了形	13回目	文法の復習
6回目	現在分詞	14回目	小テスト
7回目	過去分詞	15回目	まとめ
8回目	小テスト		

◆教科書 丸沼『ジローのヨーロッパ旅行』 金星堂 1,944 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 授業中に指示する。

◆成績評価基準 2回行う小テストの結果で決める。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆古典文学の可能性のためにやるべきこと

〔国文学基礎演習〕

水曜日5限時

オープン受講：不可 担当者：木村 一

◆学修到達目標 本講座では広く古典文学というくくりで作品を捉えていく。受講者がいかにその作品を捉えているかが問われることになる。その作品世界に貫通する時代感覚を体感すること、文学作品に描かれていることを通じて、その時代に生きた人々のものの見方や捉え方をすること、これが本講義の主眼である。本講座は「演習」である。次の〈本〉演習へのステップとすべく、読み方・調査・方法・捉え方ができるようになることを目標とする。

◆授業方法 本講座は「演習」であるため、受講者諸君が主体となり、調査・研究を経て実際に口頭発表を行う。具体的には、講義指定テキストを分担し発表担当を決め、それを読み込み、その展開と結論へのプロセスを把握する。その理論展開を把握することで、研究の基礎を体感することを主眼とする。口頭発表と質疑応答という討論形式での展開となる。

◆準備学修 受講生各自、口頭発表をするのだという目的意識をしっかりと持つこと。講義指定テキストに対して、自身の担当箇所をしっかりと読み込み、その内容を確実に把握しておく必要がある。さらに、執筆者の主張は何か、問題点はどのようなことか、ということを洗い出しておくこと。口頭発表であるから、レジュメを用意すること。聴衆者も同様に、テキストの読み込みと理解が必要で、その上の質問事項の準備をしておくこと。

◆履修条件 平成29年度昼間スクーリング（前期）「国文学基礎演習」との積み重ね不可。

前期のみの受講・後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各90分）

1回目	導入、どのように進めていくか・諸注意・担当者の割り当て	9回目	受講生による口頭発表 第4章 中古（二）一～三
2回目	デモンストレーション	10回目	受講生による口頭発表 第4章 中古（二）四～六
3回目	受講生による口頭発表 第1章 古代（一）一～三	11回目	受講生による口頭発表 第5章 中世（一）一～二
4回目	受講生による口頭発表 第1章 古代（一）四～七	12回目	受講生による口頭発表 第5章 中世（一）三～四
5回目	受講生による口頭発表 第2章 古代（二）一～二	13回目	受講生による口頭発表 第6章 中世（二）一～四
6回目	受講生による口頭発表 第2章 古代（二）三～四	14回目	受講生による口頭発表 第6章 中世（二）五～八
7回目	受講生による口頭発表 第3章 中古（一）一～二	15回目	前期まとめ・総評
8回目	受講生による口頭発表 第3章 中古（一）三～四		

◆教科書 通材 『国文学基礎講義 M20100』通信教育教材（教材コード 000519）3,350円（送料込）

※学修指導書付き。

〈この教材は市販の『Next 教科書シリーズ日本古典文学』近藤健史編 弘文堂と同一です。〉

【当日資料配布】発表レジュメは当日配布。

◆参考書 電子辞書があると便利。

◆成績評価基準 毎回出席することを前提とし、発表内容70%・質疑応答10%・レポート20%で総合的に評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆データ処理と分析

〔情報概論 A〕

水曜日 5 時限

担当者：戸塚 英臣

◆学修到達目標 統計学をテーマに表計算ソフトの基本的な使い方やデータ処理の方法について習得します。

◆授業方法 基本的にはコンピュータを用いて実習しますが、基本的知識については必要に応じて講義形式で学習します。

◆準備学修 コンピュータの初歩から始めるので、普段コンピュータを使っていなくて興味があればぜひ受講してください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	表計算ソフトの基本操作	9回目	統計処理：確率分布
2回目	表計算ソフトによるグラフの作成方法	10回目	統計処理：中心極限定理
3回目	表計算ソフトとワープロによるレポート作成	11回目	統計処理：信頼区間
4回目	統計処理：散布図と相関係数	12回目	統計処理：仮説検定
5回目	統計処理：単回帰分析	13回目	統計処理：仮説検定
6回目	統計処理：度数分布表とヒストグラム	14回目	要点のまとめ
7回目	統計処理：標準偏差と分散	15回目	授業時間内に試験
8回目	統計処理：母集団と標本、大数の法則		

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 インターネットにある情報がコンピュータに関しては最新の場合が多いです。従って、そちらを参考にしてください。ただし、インターネット上の情報は必ずしも正しいとは限りません。ご自身で真偽を判断し活用するようにして下さい。

◆成績評価基準 実習課題（40%）、提出課題（40%）、授業内試験（20%）により総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

MEMO

【木曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 ーブ 講ン		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併用	配当 学 年	受 講 条 件			
1 時 限	AD11	英 語 F	鈴木ふさ子	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III		2年				
					C10400	英 語 IV						
	AD12	民 法 I	根本 晋一	2	K20200	民 法 I	×	※	・法律学科のみ 1 学年以上申込可。 ・上記以外は 2 学年以上申込可。			
	AD13	行 政 学	関根二三夫	2	L30100	行 政 学	×	2年				
	AD14	情報概論 B	中村 典裕	2	R32300	情 報 概 論	×	2年				
2 時 限	AD21	法 学 B	根本 晋一	2	B11500	法学(日本国憲法 2 単位を含む)	×	1年				
	AD22	英 語 G	岡田 善明	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III						
					C10400	英 語 IV						
	AD23	国文学演習 I ~ VI	近藤 健史	1	M404S0	国文学演習 I	×	3年	・国文学専攻のみ申込可。 ・I ~ VI いずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					M405S0	国文学演習 II						
					M406S0	国文学演習 III						
					M407S0	国文学演習 IV						
					M408S0	国文学演習 V						
					M409S0	国文学演習 VI						
	AD24	英米文学概説	鈴木ふさ子	2	N20300	英米文学概説	×	※	・英文学専攻のみ 1 学年以上申込可。 ・上記以外は 2 学年以上申込可。			
	AD25	東洋史特講 I	高綱 博文	2	Q31000	東洋史特講 I	×	2年				
	AD26	経済学概論	前野 高章	2	R20300	経済学概論	×	※	・経済学部のみ 1 学年以上申込可。 ・上記以外は 2 学年以上申込可。			
	AD27	社会科・地理歴史科教育法 I	古賀 徹	2	T20500	社会科・地理歴史科教育法 I	×	2年	・法学部、哲学専攻、史学専攻・経済学部・商学部のみ申込可。 ・スクーリング 1 回の合格で単位完成する科目です。			
3 時 限	AD31	英 語 H	中村 則子	1	C10100	英 語 I	×	1年	・ I ~ IV のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III						
					C10400	英 語 IV						

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

【木曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開 位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受オーブン 講		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配当 学 年	受 講 条 件			
3 時限	AD32	民 法 IV	根本 晋一	2	K30300	民 法 IV	×	2年				
	AD33	英 語 史	真野 一雄	2	N30300	英 語 史	×	2年				
	AD34	日本史演習 I・II	鍋本 由徳	1	Q401S0	日本史演習 I	×	3年	・史学専攻のみ申込可。 ・I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					Q402S0	日本史演習 II						
	AD35	経済原論 / 経済学原論	前野 高章	2	R20100	経済原論	×	※	・経済学部は1学年以上申込可。 ・文理・商学部は2学年以上申込可。 ・政治経済学科は1学年以上申込可。 ・法律学科は2学年以上申込可。			
4 時限	AD36	現代教職論			L20200	経済学原論						
	AD41	哲 学 B	中澤 瞳	2	B10700	哲 学	×	1年				
	AD42	英語基礎 B	中村 則子	1	C10600	英語基礎	×	1年				
	AD43	TOEIC B	八木茂那子	1	C108S0	TOEIC	×	1年				
	AD44	東洋史概説 / 東洋史概論	高綱 博文	2	Q30300	東洋史概説	×	2年	・文理・経済・商学部のみ申込可。 ・法学部のみ申込可。			
					K32300	東洋史概論						
	AD45	西洋史特講 I	青山由美子	2	Q31200	西洋史特講 I	×	2年				
5 時限	AD46	経済史総論	飯島 正義	2	R20200	経済史総論	×	※	・経済学部は1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。 ・英文学専攻のみ申込可。			
	AD47	英語科教育法 I	小澤 賢司	2	T20900	英語科教育法 I	×	2年				
	AD51	英 語 J	八木茂那子	1	C10100	英 語 I	×	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II		2年				
					C10300	英 語 III						
					C10400	英 語 IV						
	AD52	哲学演習 I・II	中澤 瞳	1	P401S0	哲学演習 I	×	3年	・哲学専攻のみ申込可。 ・I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
	AD53	西洋史演習 I・II	藤井 信行	1	P402S0	哲学演習 II	×	3年				
	AD54	国際経済論	前野 高章	2	R31100	国際経済論	×	2年				
					S31000	商業政策	×	2年				
	AD55	教育原論 / 教育の思想	古賀 徹	2	T10200	教育原論	×	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。			
					T10300	教育の思想						

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

◆ 講座内容（シラバス）

◆ Oscar Wilde の童話を英語で読む

木曜日 1 時限

★★☆ [英語 F]

担当者：鈴木 ふさ子

◆学修到達目標 英文の正確な把握力を高めることを目標とします。作品の文化や時代背景について理解し、作者の意図を汲むことで作品を深く、多面的に解釈できるようになること、物語にふさわしい表現を翻訳する技法とセンスを身につけることを目標とします。

◆授業方法 イギリス 19 世紀末の Wilde の童話を主なテキストとし、音読と翻訳を通して英語の文章を正確に読み取っていきます。単語ひとつの解釈をめぐってディスカッションすることもあります。毎回進んだ範囲から部分訳や作品解釈を確認するテストを行います。

◆準備学修 毎回次に進む範囲を、音読し、ひとつひとつの単語を丁寧に調べて、情景をイメージしながら自分なりの翻訳を作ってきて下さい。また、自分なりに作品の解釈をしてまとめた上で授業に臨んで下さい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス（授業の内容・進め方など）	9回目	"The Young King" 精読・確認テスト
2回目	"The Young King" 精読・確認テスト	10回目	"The Young King" 精読・確認テスト
3回目	"The Young King" 精読・確認テスト	11回目	"The Young King" 精読・確認テスト
4回目	"The Young King" 精読・確認テスト	12回目	"The Young King" 精読・確認テスト
5回目	"The Young King" 精読・確認テスト	13回目	"The Young King" 精読・確認テスト
6回目	"The Young King" 精読・確認テスト	14回目	"The Young King" 精読・確認テスト
7回目	"The Young King" 精読・確認テスト	15回目	期末試験
8回目	"The Young King" 精読・確認テスト		

◆教科書 Oscar Wilde, The Complete Short Stories, Oxford World's Classic

〈上記の本は、丸沼書店では取り扱っていませんので、Amazon 等で購入してください。〉

◆参考書 丸沼 『オスカー・ワイルドの曖昧性』 鈴木ふさ子著 開文社 2,484 円（税込）（送料 350 円）

◆成績評価基準 每回出席することを前提として、平常点（授業への参加・貢献、予習）30%、確認テスト 30%、最終（期末）試験 40% で評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆憲民法総則(前半)

[民法 I]

木曜日 1 時限

担当者：根本 晋一

◆学修到達目標 民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、取引行為や家族にかかわる諸問題を、民法を通して考えられるようになる。

◆授業方法 受講者数が多いため、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。また、法改正や新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。

◆準備学修 前回授業時における板書事項を、しっかりと読み直していくこと。なお、この授業は、板書事項が多いことをお断りする。

◆履修条件 過年度昼間・土曜スクーリング（前期）「民法 I 」（根本担当）との積み重ね不可。なお、後半を先に受講しても構わない。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	GD、民法の意義	9回目	認定死亡、不在者財産管理と失踪宣告、同時死亡の推定など
2回目	民法の基本原理	10回目	意思能力の意義
3回目	私権の社会性	11回目	行為能力の意義
4回目	民法の法源	12回目	制限行為能力者制度
5回目	民法の沿革など	13回目	制限行為能力者の相手方の保護など
6回目	権利能力の意義、自然人と法人など	14回目	私権の客体、物の概念
7回目	権利能力の始期、出生の概念、胎児の例外など	15回目	不動産と動産、主物と従物、元物と果実
8回目	権利能力の終期、死亡の概念など		

◆教科書 指定しない。

◆参考書 通材 『民法 I K20200』通信教育教材（教材コード 000407） 2,600 円（送料込）

◆成績評価基準 全回出席を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%，授業態度や質疑応答 20%。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆行政の制度を中心に学びましょう

〔行政学〕

木曜日 1 時限

担当者：関根 二三夫

◆**学修到達目標** 20世紀に入り顕著になってきた行政の多様化や複雑化に伴う行政国家化は、議会政治との軌跡を生じさせることになりました。本来的に政策の執行を扱うとされた行政が、政策の立案や政策の決定に大きな影響を持つことになって、議会政治との関係が問題になっています。行政の制度面を中心に、行政が国家と如何なる関係にあるべきかを学びたいと思います。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、行政に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆**準備学修** 内閣や大統領を頂点とする行政部で、どのような事が行われているか、また内閣や大統領と議会との関係はどうになっているのかなどをメディアの情報を参考に考え、各单元、テキストを参考に2時間程度の予習と2時間程度の復習が必要になります。

◆授業計画（各90分）

1回目	講義全体の概要説明 ※講義の内容について項目ごとに説明します。	9回目	現代国家と行政 ※立法国家から行政国家への変遷を中心に説明します。
2回目	行政の概念 ※主要な概念を説明します。	10回目	行政機関 ※組織原則や部門化を説明します。
3回目	行政学の変遷 ※ドイツ官房学との関係を説明します。	11回目	行政機関 ※ラインとスタッフについて説明します。
4回目	ロレンツ・フォン・シュタインの行政学 ※歴史的背景や内容を説明します。	12回目	官僚制 ※概念が特徴を説明します。
5回目	科学的管理法と行政学 ※アメリカ行政学を中心に説明します。	13回目	官僚制 ※発達の根拠を説明します。
6回目	政治と行政の関係 ※二分論、連続論、関連論を説明します。	14回目	公務員制 ※スパイルズシステムとメリットシステムを説明します。
7回目	国家概念と国家機関 ※国家と機関との関係を説明します。	15回目	講義内容の総括
8回目	国家成立の要素 ※三要素を中心に説明します。		

◆**教科書** 通材 『行政学 L30100』通信教育教材（教材コード 000084）3,000円（送料込）

※行政学の沿革、現代国家と行政、行政組織、官僚制と公務員制、行政管理、議制度、情報公開や行政相談など行政全般に関して広範に解説しています。

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 試験 70%, 平常点 30% ※試験同様、質問や理解度テストへの解答等も重視しますので、受講に際しては、欠席しないように注意して下さい。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆文字情報処理技術の習得と自己表現演習

[情報概論 B]

木曜日 1 時限

担当者：中村 典裕

◆学修到達目標 情報機器の基本的な活用能力は Computer Literacy と呼ばれるが、本講義では文書処理の基本となる Microsoft Word の使いこなしを習得する。またプレゼンテーションの基本技術である PowerPoint について学び、成果のミニ発表会も実施する。これによって現代の知的素養として必須の文字表現と自己表現技術を習得する事が期待できる。

◆授業方法 本講義の中では、講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの歴史、構造、コンピュータセキュリティ、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し提出する。

◆準備学修 現在の学生はコンピュータやインターネットには日常的に接している事と思われる。しかし、その原理や歴史的背景を理解している人はわずかであろう。本講義に望むにあたっては、テレビや新聞などの情報関連報道に関心を持つと共に、所有している機器のマニュアルを一読するなどの学習が望まれる。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス・インターネットの基礎	9回目	Word 活用 2、表現力のある文書作成
2回目	コンピュータ発達の歴史	10回目	Word 活用 3、文章レイアウト
3回目	キーボード入力とタイピング演習	11回目	Word 活用 4、索引、脚注、目次
4回目	Microsoft Word の概要	12回目	PowerPoint 入門
5回目	Word 基礎 1、基本的な編集機能	13回目	PowerPoint 応用
6回目	Word 基礎 2、文書の書式	14回目	PowerPoint 実戦演習（ミニ発表会）
7回目	Word 基礎 3、表と図形の作成	15回目	最終課題
8回目	Word 活用 1、社内文書・社外文書		

◆教科書 [当日資料配布] 原則として、当日に配布。また、授業用ウェブページからダウンロード可能。

◆参考書 授業時に指示する。

◆成績評価基準 平常点(20%)、平常課題(30%)、最終課題レポート(50%)。毎回出席する事を前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆法学（前半）

木曜日2時限

〔法学 B〕

担当者：根本 晋一

◆学修到達目標 法（灘）や法律（法学や法律学）の意義、沿革、機能、主要な法令の種類や内容がわかるようになる。併せて、社会生活において必然的に生起する諸問題の解決策を、法律を通して考えられるようになる。

◆授業方法 受講者数が多いため、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。また、法改正や新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあります。

◆準備学修 前回授業時における板書事項を、しっかりと読み直すこと。なお、この授業は、板書事項が多いことをお断りする。

◆履修条件 過年度昼間・土曜スクーリング（前期）「法学」（根本担当）との積み重ね不可。なお、後半を先に受講しても構わない。

◆授業計画（各90分）

1回目	GD、法（灘）という文言、その意味や由来など	9回目	所管事項による区別、法形式の相違による区別など
2回目	ヨーロッパ大陸法圏、英米法圏、イスラム法圏、中国法圏、日本法の沿革など	10回目	同格の場合における相互関係、後法優位の原則、特別法優位の原則など
3回目	法と法則、法と道徳、法と正義、法と強制など	11回目	法の分類、抵触法と実質法、公法と私法、実体法と手続法
4回目	法と法則、法と道徳、法と正義、法と強制など	12回目	民事法と刑法、国内法と国際法など
5回目	法の存在形式（法源）、制定法、制定法の意義、制定法の種類（法形式の相違）	13回目	法律解釈の手法と法の適用（法的三段論法）など
6回目	憲法、法律、規則、命令、条例など	14回目	法律解釈の手法と法の適用（法的三段論法）など
7回目	憲法、法律、規則、命令、条例など	15回目	前半の補足とまとめなど
8回目			

◆教科書 指定しない。

◆参考書 **通材** 『法学 B11500』通信教育教材（教材コード 000515）3,400円（送料込）

◆成績評価基準 全回出席を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点80%、授業態度や質疑応答20%。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語的発想表現習得

★★☆ [英語 G]

木曜日 2 時限

担当者：岡田 善明

◆学修到達目標 対照言語学の理論から主観的な日本語と客観的な英語の表現構造の違いを学び、客観的な英語の表現能力を修得する。『和と輪』という国際関係の英語ニュースの入ったクラス通信により、時事的な英語の読解力も育成する。

◆授業方法 『英語教育の精神と実践』第11章「日本語と英語の表現構造の比較」をテキストに、主観的な日本語を客観的な英語に翻訳する練習を行い、英語の生きた表現能力を身に着ける。

◆準備学修 『英語教育の精神と実践』第11章「日本語と英語の表現構造の比較」を基に、初回の授業で渡す英訳練習問題を予習として行う。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	オリエンテーション	9回目	問題演習
2回目	1. 全体と個体	10回目	5. 受身表現と能動表現
3回目	問題演習	11回目	問題演習
4回目	2. 主観言語と客オリ観言語	12回目	6. 人間中心言語と個体中心言語
5回目	問題演習	13回目	問題演習
6回目	3. アナログ言語とデジタル言語	14回目	「日本語と英語の表現構造比較」まとめ
7回目	問題演習	15回目	試験
8回目	4. 自動詞表現と他動詞表現		

◆教科書 **当日資料配布** 英訳演習問題集

[丸沼] 『英語教育の精神と実践』岡田善明(春風社) 1,944円(税込)(送料300円)

◆参考書 スクーリングで紹介。

◆成績評価基準 試験を基本に、スクーリングの問題演習等も加味して評価する。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆宮沢賢治とメディア世界を学ぶ

(国文学演習 I ~ VI)

木曜日2時限

担当者：近藤 健史

◆**学修到達目標** 現在、文学を原作とする映画や演劇、アニメーション、マンガ、その他さまざまな手段によるテキストの再生が行われている。今回は宮沢賢治の作品を取りあげながら、メディアが文学作品に与えた影響と効果について考える。演習科目であることから、文学作品の読み方、テーマについての調査・方法・捉え方、口頭発表などができる基礎的な力を身につけることを目標とする。

◆**授業方法** 賢治とメディアとの関係についての基本的な講義の後、各自でテーマを設定し、調査・研究した成果を口頭発表するという方法である。全体討論で質疑応答することで、さらに理解を深める。

◆**準備学修** 宮沢賢治の生涯、作品の概略について学んでおくこと。

◆**授業計画（各 90 分）**

1回目	演習とは何か、授業の進め方、口頭発表の仕方、順番決定	9回目	口頭発表、全体討論
2回目	宮沢賢治の生涯と作品を学ぶ	10回目	口頭発表、全体討論
3回目	新聞ニュースの影響と賢治の作品の関係を学ぶ	11回目	口頭発表、全体討論
4回目	賢治の作品に影響を与えた文学作品を学ぶ	12回目	口頭発表、全体討論
5回目	メディア化された賢治の作品を調査する（テーマ選定の準備）	13回目	口頭発表、全体討論
6回目	テーマの設定、発表の準備する	14回目	口頭発表、全体討論
7回目	調査、研究の中間報告会	15回目	総まとめ、リポート提出
8回目	発表資料の作成と検討		

◆**教科書** 丸沼 『メディア活用能力とコミュニケーション』 柴岡信一郎編 大学図書出版 2016年
2,376円（税込）（送料 300円）

◆**参考書** 『年表 作家読本 宮沢賢治』 山内修、河出書房新社 1996年
〈上記の本は品切れのため、図書館等を利用して下さい。〉

丸沼 『宮沢賢治 新聞を読む 社会へのまなざしと、その文学』 対馬美香 築地書館 2001年
2,808円（税込）（送料 300円）

◆**成績評価基準** 口頭発表 60%，リポート 40%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆イギリス小説に親しむ

【英米文学概説】

木曜日2時限

担当者：鈴木 ふさ子

◆学修到達目標 イギリス小説はいつ頃に確立し、どのような変遷を遂げていったかを概観することを目標とします。小説ができるまでにはどのような作品があったのか、近代小説とはどのようなものなのか、18世紀に流行したゴシック小説とはどのようなジャンルなのか、リアリズム小説とはどのようなもののかなどを大まかに把握します。最終的にはそれぞれのジャンルの作家と作品の特徴を把握し、多面的に作品を解釈できる視点を持つことを目標とします。

◆授業方法 二回目以降のクラスでそれぞれのテーマについて説明をし、テキストで代表する作家と文学作品の基本情報学び、作品の重要な部分を原文で読む。作品によっては全体を映像などで把握する。大切な部分の説明の後や作品鑑賞の後にはアクションペーパーを書いていただくこともあります。

◆準備学修 テーマ別に作家、作品を扱う予定なので、テキストの該当部分を読み、その作家や作品や文学用語について不明な点は自分なりに『英米文学事典』などにあたり、調べておくこと。

◆授業計画（各90分）

1回目	ガイダンス（授業の内容・進め方など）	9回目	5. ゴシック小説からリアリズム小説へ Ann Radcliffe, Jane Austen
2回目	1. イギリス小説の胎動期 John Bunyan, Daniel Defoe, Jonathan Swift	10回目	6. イギリス小説の傑作 Jane Austen
3回目	2. イギリス小説の誕生 Samuel Richardson	11回目	Jane Austen
4回目	Henry Fielding, Laurence Sterne	12回目	Jane Austen
5回目	3. ゴシック小説の流行 「ピクチャレスクと崇高」について Horace Walpole	13回目	Jane Austen
6回目	William Beckford, Matthew Gregory Lewis, Charles Robert Maturin	14回目	前期の総まとめ
7回目	4. ゴシック小説からSF小説へ Mary Shelley	15回目	期末試験
8回目	Mary Shelley		

◆教科書 **丸沼** 『たのしく読めるイギリス文学——作品ガイド150』 ミネルヴァ書房 3,024円（税込）（送料350円）

◆参考書 **丸沼** 『英語文学事典』ミネルヴァ書房 4,860円（税込）（送料560円）

◆成績評価基準 無遅刻・無欠席を前提に、授業への取り組み、積極性（20%）、アクションペーパー（20%）、筆記試験（60%）で評価します。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆「国際都市」上海における日本人

〔東洋史特講Ⅰ〕

木曜日2時限

担当者：高綱 博文

◆学修到達目標 近代上海における日本人の活動と意識のあり方について明らかにし、その歴史的意義について考えます。

◆授業方法 教科書・配布資料等により講義を行い、また関係する映像資料を視聴しながら理解を深めます。

◆準備学修 下記の教科書における関係個所を予め学習しておくことが望ましい。

◆授業計画（各90分）

1回目	ガイダンス	9回目	第二次上海事変（1937年）
2回目	上海史研究への招待	10回目	上海内山書店の歴史
3回目	「租界都市」上海論	11回目	日本占領下の上海
4回目	近代上海における日本人	12回目	戦時上海の「日本文化」
5回目	上海共同租界（映像視聴）	13回目	最後の日本人居留民社会
6回目	上海日本人コミュニティの形成	14回目	上海日本人引揚者のノスタルジー
7回目	上海日本人コミュニティの組織	15回目	まとめ・試験
8回目	第一次上海事変（1932年）		

◆教科書 通材 『東洋史特講Ⅰ Q31000』 通信教育教材（教材コード 000507）2,300円（送料込）

通材 『歴史学 B11100』 通信教育教材（教材コード 000393）1,950円（送料込）

◆参考書 丸沼 『「国際都市」上海のなかの日本人』 高綱博文 研文出版 7,020円（税込）（送料450円）

◆成績評価基準 試験（50%）、リポート（50%）。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆経済学入門（ミクロ編）

木曜日2時限

〔経済学概論〕

担当者：前野 高章

◆学修到達目標 この講義は体系的な学問としての経済学を初めて学ぶことを前提に、入門編として位置付けして、ミクロ経済学の理論と方法、消費者行動、生産者行動ならびに市場の効率性の4つの部分から構築されている。この講義では、ミクロ経済学における必要な「基礎知識」、「経済学的な考え方」、「分析手法」を習得することが目標となる。

◆授業方法 本講義は教材の内容を中心に原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して講義関連資料および時事経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布し解説する。初步的な説明を重視し無味乾燥な解説を避けて、できるだけ具体例から導入して分かりやすく講義するように心がけている。

◆準備学修 授業計画にあるテーマに関連する教材内容を講義前に読み通し、講義終了後にノートを整理し演習問題を解き学習内容を復習すること。

◆履修条件 前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各90分）

1回目	経済学とは何か	9回目	消費者行動（その1）
2回目	経済の循環構造	10回目	消費者行動（その2）
3回目	経済体制と市場機構の仕組み	11回目	消費者行動（その3）
4回目	経済学の歴史	12回目	生産者行動（その1）
5回目	経済学の基本問題と経済学の課題	13回目	生産者行動（その2）
6回目	ミクロ経済学の理論と方法	14回目	競争市場均衡と効率性
7回目	市場機構と需要・供給（その1）	15回目	講義のまとめ
8回目	市場機構と需要・供給（その2）		

◆教科書 丸沼 『Next教科書シリーズ 経済学入門』 山口正春・楠谷清編 弘文堂 2015
2,160円（税込）（送料300円）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験80%、平常点20%。毎回出席することを前提として評価し、基礎理論を身に付けているかを判定する。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆地歴科教師として学習を形成する

〔社会科・地理歴史科教育法Ⅰ〕

木曜日2時限

担当者：古賀 徹

◆**学修到達目標** 社会科を構成する3分野（地理・歴史・公民）のうち、地理歴史科授業の目的・内容についての理解を深め、その実践的な授業方法を身につけられるようにする。今期の授業では歴史的分野（主に日本史）を主にとりあげるが、地理・政治経済・思想宗教など各分野間との総合的理的理解を高めることを意識しておきたい。これからの学習指導要領の志向する内容についても理解できるようつとめたい。

◆**授業方法** 教科内容及び授業法の講義を行うが、各自1回以上の模擬授業を実践する。学習指導案を作成しての模擬授業と、その批評検討を通して学びあう授業とする。

◆**準備学修** 中学校（社会科）・高等学校の地理・歴史科に関する教科書の記述内容について、事前に読んで理解しておくと、実際にとりくむ授業づくりにおいて「授業」（生徒の学習活動）がイメージしやすくなります。授業中にも紹介しますが、学習指導要領（文部科学省ホームページからも確認可能）の記述に目を通しておくことも大事になります。

◆授業計画（各90分）

1回目	社会科・地理歴史科教育のねらい	9回目	実際の教材づくり（方法論）
2回目	学習指導要領の理解・教育課程の構成方法	10回目	作成した教材を活用する
3回目	学習における言語活動の重視	11回目	学習指導案の作成方法
4回目	「日本史」「世界史」「地理」学習の特性	12回目	学習指導案の検討
5回目	「日本史」を学ぶ意味	13回目	模擬授業（1）、講評
6回目	古代の理解（「文字資料」の活用）	14回目	模擬授業（2）、相互評価
7回目	中世の理解（図絵資料、文書史料）	15回目	社会科教師に求められる力とは？
8回目	地勢図を使った学習		

◆**教科書** **当日資料配布** 資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** 学習指導要領（中学校・高等学校）

他は、授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 学習指導案を指定した分、作成して提出する。模擬授業を複数回行い、授業づくり（教材研究）への取り組み、グループワークへの参加度を加味して総合的に評価する。毎回出席を前提とする。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆スポーツトピックで学ぶ初級英語

★★★ [英語 H]

木曜日3時限

担当者：中村 則子

◆学修到達目標 2020年に開催される東京オリンピックに向けてスポーツへの関心が高まっている。この科目では易しい英文で書かれたスポーツのトピックを読解し、演習問題を解くことで楽しく英語を身につけていく。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆授業方法 テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、英語の4技能のうち主に reading のスキルを習得していく。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆準備学修 ガイダンスは初回のみ行うので受講希望者は初回から出席することが望ましい。テキストができるだけ早く入手し、最初の章に目を通して、判らない単語を辞書で調べて演習問題を解き、充分に予習しておくこと。また、日ごろから、英語の記事を視聴したりして、スポーツに限らず、メディアから英語で情報を入手する作業をしてほしい。

◆履修条件 英語力が初級レベルであること、平成 29 年度昼間・土曜スクーリング（前期）「英語」（中村担当）の合格者は受講不可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	Unit4 Competition
2回目	Unit1 The Long Wait	10回目	Unit5 A Glamorous?
3回目	Unit1 The Long Wait	11回目	Unit5 A Glamorous?
4回目	Unit2 Olympic Volunteers	12回目	Unit6 Energy Drinks
5回目	Unit2 Olympic Volunteers	13回目	Unit6 Energy Drinks
6回目	Unit3 Male Sports? Female Sports?	14回目	復習もしくは小テスト
7回目	Unit3 Male Sports? Female Sports?	15回目	期末試験
8回目	Unit4 Competition		

◆教科書 丸沼『Spotlight on Sports』 金星堂 2,052 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 参考書、辞書はガイダンスにて指示。

◆成績評価基準 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆債権各論（前半）

〔民法IV〕

木曜日 3時限

担当者：根本 晋一

◆学修到達目標 民法学における債権各論の位置づけ、債権各論の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、取引行為や家族にかかわる諸問題を、民法を通して考えられるようになる。

◆授業方法 受講者数が多いため、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用する。また、法改正や新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあります。

◆準備学修 前回授業時における板書事項を、しっかりと読み直していくこと。なお、この授業は、板書事項が多いことをお断りする。

◆履修条件 過年度履修・土曜スクーリング（前期）「民法I」（根本担当）との積み重ね不可。なお、後半を先に受講しても構わない。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	GD、債権各論の体系、契約総論、各論、法定債権の概説	9回目	第三者のためにする契約など
2回目	契約総論、契約の意義、契約自由の原則	10回目	契約の解除、解除の種類、法定解除と約定解除、合意解除
3回目	契約自由の原則、契約の種類、典型契約と非典型契約など	11回目	法定解除と約定解除、合意解除
4回目	申込と承諾、契約締結上の過失	12回目	解除の効果、その法的性格
5回目	契約締結上の過失など	13回目	直接効果説（判例・通説）、その他の学説
6回目	双務契約の特殊な効力、同時履行の抗弁権	14回目	解除と登記など
7回目	危険負担、債務不履行や担保責任との相違点	15回目	前半の補足やまとめなど
8回目	危険負担における債務者主義の原則と債権者主義の例外		

◆教科書 指定しない。

◆参考書 通材 『民法IV K30300』通信教育教材（教材コード 000355） 3,100 円（送料込）

◆成績評価基準 全回出席を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆英語の過去・現在そして未来は？

(英語史)

木曜日 3 時限

担当者：真野 一雄

◆学修到達目標 英文の読解力を高めるとともに、英語がどのような発達・変化を遂げて今日の姿になったか、歴史的な流れの基礎的な知識を修得する。過去の歴史を振り返り、英語の未来の姿を想像してみましょう。

◆授業方法 テキスト第Ⅰ章「英語の発達」を、『学習指導書』を併用しながら、読む予定です。テキストは私達にとって必要な箇所を重点的に読みます。

◆準備学修 毎回、テキスト(英文)の重要な部分を読み、『学習指導書』の問題の解答を用意しておいてください。

◆授業計画(各 90 分)

1回目	インド・ヨーロッパ語族(1)序	9回目	中英語(1)フランス語の影響
2回目	インド・ヨーロッパ語族(2)起源、時期	10回目	中英語(2)英語の復活
3回目	インド・ヨーロッパ語族(3)分類	11回目	中英語(3)特徴
4回目	ゲルマン語派(1)特徴	12回目	近代英語(1)印刷術、ルネサンス
5回目	ゲルマン語派(2)分類	13回目	近代英語(2)大母音推移、標準英語の成立
6回目	古英語(1)英語の始まり、時代区分	14回目	近代英語(3)近代の縮用語
7回目	古英語(2)実例	15回目	試験+その解説
8回目	古英語(3)特徴		

◆教科書 当日資料配布

通材 『英語史 N30300』通信教育部教材（教材コード 0001117）2,900円（送料込）

◆参考書 丸沼 『英語の歴史—過去から未来への物語』寺澤 盾著 中公新書 1971 842円（税込）（送料 215円）

丸沼 『英語の歴史』中尾俊夫著 講談社現代新書 958 799円（税込）（送料 215円）
（※自学用で、授業中に参照することはありません。）

◆成績評価基準 試験を中心に受講状況その他を加味して評価の予定。6回以上の欠席者は受験資格を失います。
(試験は途中退出なしです)

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆卒論を書くための基礎技術（史料編）

〔日本史演習Ⅰ・Ⅱ〕

木曜日3時限

担当者：鍋本 由徳

◆学修到達目標 史学専攻生に必要な技能に史料読解と論文作成があります。史料は、読んで訳すだけではなく、「読み解く」が必要です。本演習では、インターネットも使いながら、課題設定・作業・報告を通して、史料の読み解きに必要な知識・技術、卒論に向かう姿勢の修得をめざします。学修効果を高めるため、後期継続受講が望ましい。

◆授業方法 個人作業とグループワーク(G)の併用です。第14回にて最終報告(レジュメ作成と口頭報告)をおこないます。なお、課題史料の候補については初日に配布します。

◆準備学修 授業時間だけでは絶対的に学修時間が不足します。指定された事前学修を必ずおこない、シートに記入して準備を整えた上で授業に参加してください。また、PCやインターネットの使い方に慣れておく方が望ましい。

◆授業計画（各90分）

1回目	日本史演習の計画と到達目標	9回目	史料の取捨選択を実践する（G）
2回目	古文書読解入門（基本図書の紹介）	10回目	報告アウトラインを相互評価する（G）
3回目	古文書読解入門（読み下し基礎）	11回目	アウトラインを修正する（G）
4回目	インターネットでの史料検索法	12回目	報告資料（レジュメ）の検討（G）
5回目	課題史料からテーマを見つける（G）	13回目	報告資料（レジュメ）の再検討（G）
6回目	情報整理法を学び実践する（G）	14回目	課題発表と相互評価（G）
7回目	関連史料の検索と史料収集	15回目	発表の全体講評と振り返り
8回目	史料内容を別史料で確認する（G）		

◆教科書 **当日資料配布** 初日に課題史料を配布（隨時、参考プリントを追加します）

◆参考書 **丸沼**『日本史を学ぶための古文書・古記録の訓読法』 荻米一志著 吉川弘文館 1,836円(税込)(送料300円)
※購入義務はありません。

丸沼『ステップアップ古文書の読み解き方』 天野清文他著 吉川弘文館 2,592円(税込)(送料300円)
※購入義務はありません。

丸沼『最新版 角川新版日本史辞典』 角川書店 3,672円(税込)(送料450円)

◆成績評価基準 授業内グループワーク参加度(80%)、最終報告参加度(20%)の総合評価
※全回出席を前提とします。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ミクロ経済学の基礎

〔経済原論／経済学原論〕

木曜日3時限

担当者：前野 高章

◆**学修到達目標** ミクロ経済学において、完全競争市場の下では最も効率的な資源配分が達成されることを学び、「市場の失敗」を生む諸要因を中心に学んで、市場機構の限界を認識すると同時に、それをどのように克服していくかについての理解を深める。ミクロ経済学を通じ、経済学の「基礎知識」を身につけ、その中で「経済学的な考え方」と「分析手法」を養い、応用・展開科目を学ぶ土台を築くことを目標とする。

◆**授業方法** 本講義は教材の内容を中心に原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して講義関連資料および時事経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布し解説する。初步的な説明を重視し無味乾燥な解説を避けて、できるだけ具体例から導入して分かりやすく講義するように心がけている。

◆**準備学修** 経済学概論、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することをお勧めする。授業計画にあるテーマに関連する教材内容を講義前に読み通し、講義終了後にノートを整理し演習問題を解き学習内容を復習すること。

◆**履修条件** 前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆**授業計画（各 90 分）**

1回目	経済学の基本問題	9回目	最適生産の決定
2回目	世界や日本の経済循環と変動	10回目	完全競争市場の均衡と効率性（その1）
3回目	ミクロ経済学とマクロ経済学の分析視点	11回目	完全競争市場の均衡と効率性（その2）
4回目	いくつかの重要なコンセプト	12回目	不完全競争市場と独占
5回目	消費の理論	13回目	寡占と独占的競争
6回目	消費理論の応用と拡張	14回目	外部性、不確実性と不完全情報
7回目	企業行動と生産関数	15回目	講義のまとめ
8回目	企業行動と費用		

◆**教科書** 丸沼 『入門ミクロ経済学 第2版』新世社 井堀利宏 3,186円（税込）（送料350円）

◆**参考書** 丸沼 『ミクロ経済学 第3版』岩波書店 西村和雄 3,024円（税込）（送料300円）

◆**成績評価基準** 試験80%、平常点20%。毎回出席することを前提として評価し、基礎理論を身に付けているかを判定する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆教師としての考え方

〔現代教職論〕

木曜日 3 時限

担当者：古賀 徹

◆学修到達目標 教職の意義、教員の資質、及び教員の役割、教員の職務内容（服務）、等に関する理解を深めることをねらいとする。自らの教職者としての適性を問い合わせ、教員に必要なものとは何かを考え深める。チーム学校の考え方、教師の同僚性について理解する。

◆授業方法 講義形式を中心とするが、アクティブラーニング型の授業方式もとりいれる。活動・学習ごとにワークシート（ミニレポート）を書くこととそのフィードバックにより、さらに学習効果があがるよう試みる。

◆準備学修 この授業では、教員養成の段階で学んでおくべき事項や学校現場で直面する課題を《題材》としてとりあげ、諸々の課題に対して“教員としてどのように考えるのか”という意識・心得をつくりあげられるようにするのがねらいです。授業以外にも、様々な教育問題、教育に関する話題・情報について関心をもち、のぞんでください。4回目までに、各々過去に受けた教育から判断できる「教師に必要とされる能力」について考え、ノート等に記し、発言の準備をしておくこと。9回目までの内容では「教師としてどのように動くべきか」という判断力について考えていくので、事前に様々なケースを想定してシミュレーションしておくこと。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	教職を履修する意味（学習指導・生活指導）	9回目	最近の子ども事情に関する総括的ロールプレイ
2回目	教師の他者理解能力	10回目	教師観・教員養成の歴史的変遷（近代以降）
3回目	教師の一日・教師の成長	11回目	諸外国の教師養成のしくみ
4回目	理想の教師とは？（グループワーク）	12回目	法律上の教師（教員）
5回目	チーム学校（仮想・教職員会議）	13回目	教員の研修（向上するための現職教育）
6回目	最近の子ども事情（非行）	14回目	教育実習で求められる教員像
7回目	最近の子ども事情（いじめ）	15回目	現場で求められる力とは？
8回目	最近の子ども事情（不登校）		

◆教科書 **当日資料配布** 資料・レジュメを配布する。

◆参考書 **通材** 『現代教諭論 T10100』通信教育教材（教材コード 000541）3,100 円（送料込）
他は、授業中に指示する。

◆成績評価基準 この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。
課題未提出の場合は評価を行なわない。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆教養としての哲学

木曜日4時限

〔哲学 B〕

担当者：中澤 瞳

◆学修到達目標 本講義の目標は、古代から近代まで西洋の哲学の歴史を、代表的な哲学者の考え方を通して概観し、一般的な哲学の知識を修得することである。

◆授業方法 授業は講義形式で行う。資料プリントをもとに、解説を行う。資料プリントは、基本的には参加者に読んでいただく（挙手制）。また、複数回の小レポート（授業内で記述し、提出する簡単なレポート）を行う。なお、進行具合によっては、授業計画に記載した内容に若干の変更がある場合がある。その際は、隨時授業中に指示する。

◆準備学修 準備学修、復習ともに、西洋哲学の概説書や入門書を読むことは授業内容の理解を深めるのに役立つ。通信教材の『哲学』は、教科書としては使用しないが、参考書として役立つ。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス・哲学とはなにか	9回目	社会契約論
2回目	ソクラテス以前の哲学者たち	10回目	デカルトと近代哲学 1
3回目	ソクラテスの登場	11回目	デカルトと近代哲学 2
4回目	プラトンの思想	12回目	デカルト以降の合理主義者たち
5回目	アリストテレスの哲学と倫理学 1	13回目	経験論者の考え方
6回目	アリストテレスの哲学と倫理学 2	14回目	経験論者の考え方
7回目	中世期の哲学	15回目	まとめ・筆記試験
8回目	ベーコンの科学哲学		

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 通材 『哲学 B10700』(教材コード 000404) 3,650 円（送料込）※学修指導書付き。

◆成績評価基準 授業への参加、貢献 (20%)、小レポート (20%)、筆記試験 (60%) により総合的に評価する。なお、評価を行う際には、毎回出席していることを前提とする。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆基礎から始めるやさしい英語

★☆☆ [英語基礎 B]

木曜日 4 時限

担当者：中村 則子

◆学修到達目標 この科目では忘れかけている英語の基礎文法を詳しく丁寧に学び直すことで英文の読解力を身につけていく。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆授業方法 テキストに沿って、解説を読み、演習問題を行うことで、英語の文法の基礎を習得する。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容や演習問題の解答を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆準備学修 ガイダンスは初回のみ行うので受講希望者は初回から出席することが望ましい。テキストができるだけ早く入手し、最初の章に目を通して、判らない単語を辞書で調べて演習問題を解き、充分に予習しておくこと。また、日々から、英語の音楽を聴いたり、洋画を見たりして、英語の世界に親しんでほしい。

◆履修条件 平成 29 年度昼間・土曜スクーリング（前期）「英語基礎」（中村担当）との積み重ね不可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス	9回目	Unit4 進行形
2回目	Unit1 be 動詞	10回目	Unit5 未来形
3回目	Unit1 be 動詞	11回目	Unit5 未来形
4回目	Unit2 一般動詞（現在）	12回目	Unit6 助動詞
5回目	Unit2 一般動詞（現在）	13回目	Unit6 助動詞
6回目	Unit3 一般動詞（過去）	14回目	復習もしくは小テスト
7回目	Unit3 一般動詞（過去）	15回目	期末試験
8回目	Unit4 進行形		

◆教科書 丸沼 English Primer (Revised Edition) 南雲堂 2,052 円（税込）（送料 300 円）

◆参考書 参考書、辞書はガイダンスにて指示。

◆成績評価基準 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆目標 TOEIC test R&L500 点突破

(TOEIC B)

木曜日4時限

担当者：八木 茂那子

◆学修到達目標 本講座では Listening &Reading (R&L) test 500 点突破を目指します。初めてあるいは test を受けながらステップアップを目指そうとする人を対象に必要な基本的トレーニング方法を体得し、継続、習慣化することを目指します。

◆授業方法 授業では Listening section と Reading section の問題演習を中心とします。弱点強化のために self -training, pair work, group Activity など色々取り込みながら、楽しくトレーニングをしていく予定です。(クラスはレベル分けされていませんので受講者の理解度、進度などにより、授業内容を変更することがあります。)

◆準備学修 授業前の準備学習としては指定された unit を自宅にて 2 度解いて来て下さい。1 回目は時間を計り、参照物無しで答えをノートに書く。2 回目 1 回目と答えが違う場合はペンの色を変え、参照物（辞書、文法書、その他参考書等）を参照しながら、解いて来て下さい。授業中に 3 回目を解くことになります。(このように同じ問題を繰り返し解くことで学習内容の定着が図られます。)

◆履修条件 テキストは各自自分の物を購入すること。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	TOEIC® L & R テスト Part 1 ~ 7について	9回目	Unit 05 (1) 物の状態と位置
2回目	Unit 01 (1) 人物の動作と状態	10回目	Unit 05 (2) チャット
3回目	Unit 01 (2) 表・用紙	11回目	Unit 06 (1) (1) 基本構文(依頼・提案・勧誘・申し出)と応答の決まり文句
4回目	Unit 02 (1) 疑問詞を使った疑問文	12回目	Unit 06 (2) 手紙・Email
5回目	Unit 02 (2) 広告	13回目	Unit 07 (1) 電話での会話
6回目	Unit 03 (1) 日常場面での会話	14回目	Unit 07 (2) 代名詞・関係代名詞
7回目	Unit 03 (2) 品詞	15回目	期末試験・解答・解説
8回目	Review test 1 Unit 04		

◆教科書 **当日資料配布** 他プリント

丸沼 Mastery Drills for the TOEIC® L&R test All in One 1,836 円(税込)(送料 300 円)

◆参考書 **丸沼** 『公式 TOEIC® Listening& Reading 問題集 1』 Educational Testing Service (編)
3,024 円(税込)(送料 350 円)

丸沼 『公式 TOEIC® Listening& Reading 問題集 2』 Educational Testing Service (編)
3,024 円(税込)(送料 350 円)

◆成績評価基準 Quiz (5 回) (DataBase3000 より) 50%+ (中間試験+期末試験) 50%による総合評価
(クラスのレベルを考慮し一定の基準になるよう調整を加えることがあります。)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中華帝国の「遺産」と「伝統」を考える

〔東洋史概説／東洋史概論〕

木曜日 4時限

担当者：高綱 博文

◆学修到達目標 「東洋史」について中国4000年の歴史を中心に概説し、今なお残る中華帝国の「遺産」と「伝統」とは何かについて考える。

◆授業方法 中華帝国の歴史と社会を概観し、映像資料を視聴しながらビジュアルに中国史を物語る。

◆準備学修 下記の参考文献を予め学習しておくことが望ましい。

◆授業計画（各90分）

1回目	「東洋史」を考える視点	9回目	中華帝国の国際関係
2回目	東アジア概観（1）地理と風土	10回目	中華帝国の皇帝
3回目	東アジア概観（2）文明と民族	11回目	中華帝国の官僚（1）科挙制度
4回目	「東洋史」の歴史書	12回目	中華帝国の官僚（2）士大夫の実態
5回目	中華文明とは	13回目	中国の農民と反乱
6回目	中華帝国の誕生	14回目	中華帝国の解体と再生
7回目	中華帝国の政治システム（1）中央政府	15回目	まとめ・試験
8回目	中華帝国の政治システム（2）地方政府		

◆教科書 **当日資料配布** 授業時間中に適宜、資料を配布します。

◆参考書 **通材** 『東洋史概説 Q30300/K32300』 通信教育教材（教材コード 000523）2,100円（送料込）

◆成績評価基準 試験（50%）、リポート（50%）。毎回出席することを前提として評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆ヨーロッパ中世前半の歴史を史料と映像で学びましょう。【西洋史特講Ⅰ】

木曜日4時限

担当者：青山 由美子

◆学修到達目標 ヨーロッパ中世前半（西暦500年から1000年まで）の歴史について、重要なテーマに関する史料の日本語訳と関連する映像を通して学び、各テーマのポイントを理解し、自分の感想や意見をまとめられるようになる。

◆授業方法 授業の最初に各テーマに関する史料の日本語訳を読み、意味を理解し、次に関連映像を視聴し、最後に各自コメントをまとめます。

◆準備学修 指定したテキスト（ヨーロッパ中世史の概説書）の、関連箇所を事前に読み、専門用語などを調べて意味をよく理解すること。

◆授業計画（各90分）

1回目	ヨーロッパ中世前半の歴史について、ポイントと特質を学びます。	9回目	中世前期の農村、農業の様子について学びます。
2回目	ヨーロッパ中世社会のルーツとしてアイルランドのケルト文明を学びます。	10回目	中世前期の都市、商業の様子について学びます。
3回目	西ヨーロッパを統合したカール大帝（シャルルマニユ）について学びます。	11回目	中世前期の教会と修道院文化について学びます。
4回目	東ヨーロッパを統合したビザンツ帝国について学びます。	12回目	中世前期の特徴的な「いのり」の形式と意味を学びます。
5回目	北ヨーロッパについては、ヴァイキングの活動に関して学びます。	13回目	中世前期独特の「罪の告白」マニュアルを学びます。
6回目	南ヨーロッパにおける、イスラーム教徒に対するレコンキスタを学びます。	14回目	社会統合、宗教統一に対する反乱について学びます。
7回目	教会がリードした神の平和運動について学びます。	15回目	毎回学んできた史料と映像をふりかえり、まとめコメントを書きます。
8回目	中世社会は3つの身分から成っているとする世界観を学びます。		

◆教科書 **当日資料配布** 当日にプリント配布。また、次回の準備用プリントも配布する。

◆参考書 **丸沼** 『ヨーロッパの中世』 神崎忠昭 慶應大学出版会 2,916円（税込）（送料350円）

丸沼 『西洋中世史料集』 東京大学出版会 3,456円（税込）（送料350円）

『世界史史料 5』 岩波書店

〈上記の本は品切れのため、図書館等を利用して下さい。〉

◆成績評価基準 毎回授業のラストにまとめて書くコメントによって、評価します。

コメントは史料について（50%）、映像について（50%）とします。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中世ヨーロッパの社会と経済

〔経済史総論〕

木曜日 4 時限

担当者：飯島 正義

◆学修到達目標 近代資本主義に先立つ原始社会・貢納制社会・奴隸制社会・封建社会の特徴、封建制から資本制への移行期の経済を学ぶことによって、前近代社会と近代資本主義との違いや封建制から資本制への移行について説明できるようになることを目標とします。

◆授業方法 講義形式。当日配布するプリント資料を中心に進めていくが、理解を確認するために「確認プリント」を何回か実施する予定です。

◆準備学修 通信教材や参考書で授業に関係するところを事前に読んでおいて下さい。さらに、高校の世界史の参考書、地図等も必要に応じて利用して下さい。

◆履修条件 平成 29 年度夜間スクーリング（春期）「経済史総論」との積み重ね不可。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	経済史で何を学ぶのか	9回目	中世都市の成立とギルド
2回目	経済史分析の視角と方法	10回目	中世ヨーロッパ商業－地中海商業
3回目	貢納制社会の特徴	11回目	中世ヨーロッパ商業－バルト海商業
4回目	奴隸制社会の特徴	12回目	封建社会の動搖（1） －人口減少と領主制の危機
5回目	古ゲルマン社会と経済	13回目	封建社会の動搖（2） －領主＝農民関係の変化
6回目	西欧の封建制社会の成立と構造	14回目	封建社会の動搖（3） －農村工業の発展
7回目	莊園制	15回目	総まとめと筆記試験
8回目	中世都市の成立		

◆教科書 当日資料配布 授業時にプリント資料を配布します。

◆参考書 丸沼 『経済史をやさしく学ぶ』 石川治夫 中央経済社 2013年 2,808円（税込）（送料 300円）

丸沼 『エレメンタル欧米経済史』 馬場哲也著 晃洋書房 2012年 3,024円（税込）（送料 350円）

◆成績評価基準 平常点（取組み、確認プリント等）：40%，筆記試験：60%。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本の英語科教育について知り、そして考える

[英語科教育法Ⅰ]

木曜日 4 時限

担当者：小澤 賢司

◆学修到達目標 日本の中学校及び高等学校における英語科教育を扱う本授業において、以下の 4 つの学修目標を掲げます。

- ①学習指導要領及び教科用図書（教科書）について理解する。
- ②年間・単元・各回の指導計画（学習到達目標）について理解する。
- ③小・中・高における英語科教育の連携のあり方について理解する。
- ④その他、英語科教育において必須となる諸項目について理解する（授業計画参照）。

◆授業方法 授業は大きく「概論（講義）」と「グループ討議」に分かれます。概論パートでは各回の講義及び教科書では触れられていない内容について補足説明を行います。グループ討議パートでは各回のテーマについて受講生同士で話し合いを行ってもらい、小リポートないしは発表という形で自己研鑽に励んでいただきます。必要に応じてプリントも配布する予定です。

◆準備学修 授業計画の各回に示されている教科書の章を必ず読んできてください。それを元に小リポートの提出やグループ討議を求めることがありますので、未読状態だと授業に参加できないだけでなく、授業評価に大きく影響します。また、英語科教育に携わる者として、英語科教育に関する情報や動向に常に注意を向けることはとても重要です。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス 英語教育の目的（第 1 章）	9回目	学習指導案 (第 4 章)：概論
2回目	学習指導要領 (第 2 章)：概論、グループ討議	10回目	学習指導案 (第 4 章)：グループ討議
3回目	CEFR 及びコミュニケーション能力とは (第 2 章) 概論、グループ討議	11回目	学習指導案 (第 4 章)：発表
4回目	第二言語習得理論と外国語教授法 (第 6 章)：概論、グループ討議	12回目	小学校英語教育 (第 10 章) と中学校・高等学校英語教育の連携： 概論、グループ討議
5回目	指導計画 (第 3 章)：概論	13回目	異文化理解教育 (第 11 章)：概論、グループ討議
6回目	英語指導と教科用図書（教科書） (第 3 章)：概論	14回目	英語教師論 (第 9 章)：グループ討議
7回目	英語指導と教科用図書（教科書） (第 3 章)：グループ討議	15回目	最終リポート及びまとめ
8回目	英語指導と教科用図書（教科書） (第 3 章)：発表		

◆教科書 丸沼『統合的英語科教育法』 村野井仁・渡部良典・尾関直子・富田祐一 成美堂
2,808 円（税込）（送料 300 円）

中学校、高等学校学習指導要領（文部科学省）※現行、新ともに用意してください

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 授業参画度（40%）、小リポート及び発表（30%）、最終リポート（30%）

※特別な理由（教育実習・介護等体験・感染症など）なく欠席した場合は、大幅な減点となります。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆シャドウイング力とスピーキング力をアップさせましょう ★★★〔英語 J〕

木曜日5時限

担当者：八木 茂那子

◆学修到達目標 本校講座を受講することにより前期終了後の段階において英文を 120wpm(一分間に 120 語程度のスピード)で読むことができ、かつネイティブスピーカーに近い発音で音読できるようになる。シャドウイングの方法を身に着けリスニングとスピーキング、さらにリーディング、ライティングの英語 4 技能の運用能力向上を図ることができる。

◆授業方法 CD,OHC, 黒板を使った対面式による一斉授業と演習をセルフワーク、ペアワーク、グループワーク等を組み合わせて授業を行う。

◆準備学修 指定されたユニットを毎回① CD チェック②語彙チェック③時間を計って練習問題を解いてから授業に出ること。他に期間中 5 回のクイズと 2 回の review tests を行うのでそのための準備をすること。

◆履修条件 15 回の授業のうち 2/3 以上出席をすること。遅刻は 2 回で 1 回の欠席とする。前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために前期後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス（科目の目標、自己紹介、授業の進め方、テキストについて、成績評価の仕方について、他	9回目	Unit 7 Halloween
2回目	Unit 1 A Penguin Story	10回目	Unit 8 Neighbour's Talk Quiz 4
3回目	Unit 2 A Serial Killer	11回目	Unit 9 A Fish Tale
4回目	Unit 3 A Genius Dog Quiz 1	12回目	Unit 10 Hurling Quiz 5
5回目	Unit 4 Food Champ	13回目	Review test (2)
6回目	Review test (1) Quiz 2	14回目	Oral test
7回目	Unit 5 Different, but The Same	15回目	Final Examination Check & Answer
8回目	Unit 6 Comparison Letter Quiz 3		*上記はあくまで計画でありクラスの進度や理解度に応じ変更する場合があります。

◆教科書 丸沼『It's Time to Read !』八木 茂那子・町田 純子・S . Ryan 共著
(株) 南雲堂 1,404 円 (税込) (送料 215 円)

丸沼『DataBase 3000』第 5 版 桐原書店 1,026 円 (税込) (送料 350 円)

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 Quizzes(5回) 20%+ Review tests (2回) 20%+ 期末試験 50%+ Oral test 10%による総合評価。
(一定の評価基準となるようクラスのレベルにより調整することがあります。)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆卒業論文の制作のための演習

[哲学演習Ⅰ・Ⅱ]

木曜日 5時限

担当者：中澤 瞳

◆学修到達目標 本演習の目標は、卒業論文を執筆するために必要と考えられる基本的知識を、実践を通して、修得することである。

◆授業方法 講義と演習を組み合わせて行う。場合によっては、小グループを組んで作業を行う。口頭発表、および参加者同士による相互評価を行う。なお、参加者の状況、授業の進行具合によっては、授業計画に記載した内容に若干の変更がある場合がある。その際は、随時授業中に指示する。

◆準備学修 自分がなにを題材として卒業論文を執筆したいのか考えて授業に参加すること。2回目の授業時に、簡単に発表してもらう。また、授業の後半の回では、論文のアウトラインの発表を行ってもらう。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス・論文とはなにか	9回目	アウトラインについて2
2回目	各自の論文の題材についての発表 論文の特徴を理解する1	10回目	先行研究調査を行い、参考文献を集め、アウトラインを考える
3回目	論文の特徴を理解する2	11回目	先行研究調査を行い、参考文献を集め、アウトラインを考える
4回目	論文の構成、体裁を理解する	12回目	発表（アウトラインについて）
5回目	先行研究調査とはなにか、先行研究調査の方法	13回目	発表（アウトラインについて）
6回目	要約の作り方	14回目	発表（アウトラインについて）
7回目	各自の論文の問題、主張、論拠についての発表	15回目	まとめ
8回目	アウトラインについて1		

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 授業、グループワークへの参加度、発表（70%）、発表の講評（30%）により総合的に評価する。
なお、毎回出席することを前提として評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆歴史学の論文を書く－「事実」と「解釈」－

[西洋史演習Ⅰ・Ⅱ]

木曜日5時限

担当者：藤井 信行

◆学修到達目標 4年間の歴史学の勉強を卒業論文に集約させることが目的です。授業をとおして卒業論文のテーマ決定・文献目録の作成・研究史の整理・資料の収集・文献の読解などを学び、歴史学の論文を書くことへとつなげます。西洋史で卒業論文を予定している学生は、前・後期さらに3・4年次と継続して受講することが望ましい。

◆授業方法 歴史学の卒業論文を完成させるためのステップを1つずつゼミナール形式で進めます。3年次生は、これをモデルにして同じステップを各自の論文テーマで行ってください。4年次生は、こうしたことをいま1度自分の論文で確認しつつ、2度の報告をとおして論文の完成へとつなげる。

◆準備学修 授業の全体像（論文完成までのステップ）を念頭に置いて、各自の卒論テーマをつねにその中に位置づけて考えて（予習）、そして授業に臨んでください。また毎回の授業で配られるプリントを使って、各自家庭学習（復習）をして確実にそれを理解してください。

◆授業計画（各90分）

1回目	歴史学の論文を書く： 参考文献目録と研究史整理	9回目	同②
2回目	歴史学のキーワード： 事実と解釈	10回目	歴史学の論文を読む④：概説書を読む
3回目	歴史学の論文を読む①： 論証と章立て	11回目	同⑤： 年表を作成する
4回目	同②： 一般的な事実と歴史的事実	12回目	同⑥： 各自のテーマで年表作成
5回目	同③： 史料批判	13回目	3年次生のテーマ決定報告①
6回目	参考文献目録の作成①	14回目	同②
7回目	同②	15回目	4年次生の卒論中間報告（第2回）
8回目	4年次生の卒論中間報告①		

◆教科書 当日資料配布 当日プリントを配布する。

◆参考書 使用せず。

◆成績評価基準 レポート2回（各30%×2）、報告30%，平常点10%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆世界経済の発展と国際貿易

[国際経済論]

木曜日 5時限

担当者：前野 高章

◆学修到達目標 国際経済論において、国際経済の発展過程をたどり、戦後の世界経済発展の歴史、国際分業の基礎理論としての比較優位論、国際貿易に関するベーシックな理論を学び、グローバル経済の進展および国際経済問題を理解する土台を作り上げることを目標とする。

◆授業方法 本講義は教材の内容を中心にパワーポイントと板書を合わせて授業を進める。必要に応じて講義関連資料および国際経済関連の新聞・雑誌記事等を資料として配布し解説する。

◆準備学修 国際経済論は応用経済学分野の科目であることから、経済学概論、経済原論（経済学原論）、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することをお勧めする。事前に経済学の基礎理論を予習し、講義終了後に教材内容に付き合わせてノートを整理し復習すること。

◆履修条件 前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	国際経済の理論と方法、国際経済と統計データ	9回目	新古典派の貿易理論（その2）
2回目	世界経済の生成と発展	10回目	近代的貿易理論
3回目	両大戦間期の世界経済	11回目	現代国際貿易理論の展開
4回目	戦後の世界経済の発展とその特徴	12回目	関税分析と経済厚生
5回目	戦後の経済体質と経済構造の変質	13回目	輸出入政策と管理貿易
6回目	1990年代以降の世界経済の変貌	14回目	自由貿易と保護貿易
7回目	伝統的貿易理論	15回目	講義のまとめ
8回目	新古典派の貿易理論（その1）		

◆教科書 通材 『国際経済論 R31100』通信教育教材（教材コード 000281）2,300円（送料込）

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験 80%、平常点 20%。毎回出席することを前提として評価する。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆独占禁止法を中心とする競争政策の展開

【商業政策】

木曜日 5時限

担当者：新島 裕基

◆学修到達目標 この講義では、商業、流通、マーケティングに対する公共政策である商業政策について学びます。到達目標は、商業政策の根拠と目的を理解し、理論的かつ体系的に説明できるようになること、製造業者から消費者に至る垂直的取引（タテの関係）に注目しながら、競争政策について理解できるようになります。

◆授業方法 できるだけ教室全体で議論を作り上げることで、双方向型・参加型の形式をとります。

◆準備学修 講義の進捗に合わせて資料を配布します。事前に予習し、当日持参してください。また、毎回の講義内容を積み重ねていくスタイルのため、復習が重要です。紹介した事例をネットで調べてみると理解が深まるでしょう。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス：商業と流通の存在意義	9回目	競争政策（2）：独占禁止法の概要
2回目	商業者の垂直的分化と統合	10回目	競争政策（3）：独占禁止法の運用
3回目	商業政策の概要（1）：根拠と目的	11回目	競争政策（4）：独占禁止法と流通系列化
4回目	商業政策の概要（2）：政策体系	12回目	競争政策（5）：独占禁止法と再販制度
5回目	規制緩和（1）：1990年前後の国内外の情勢	13回目	競争政策（6）：独占禁止法と大規模小売企業のバイイングパワー行使問題
6回目	規制緩和（2）：代表事例（酒税法、薬事法）	14回目	競争政策（7）：大規模小売企業による優越的地位の濫用
7回目	前半のまとめ：中間テスト（マークシート）	15回目	後半のまとめ：最終テスト（記述）
8回目	競争政策（1）：独占		

◆教科書 **丸沼** 『流通政策入門〔第4版〕』 渡辺達朗 中央経済社 2016年 3,024円（税込）（送料300円）

当日資料配布 教科書とほぼ同じ内容のスライドを投影して講義を進めますので、教科書の購入は必須ではありません。また、適宜資料を配布します。

◆参考書 **丸沼** 『競争政策論〔第2版〕』 小田切宏之 日本評論社 2017年 2,700円（税込）（送料300円）

◆成績評価基準 平常点評価：100%

<内訳>授業内テスト：70%（中間：30%／最終：40%）、②授業内レポート等：30%

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆教育の Identity 形成過程を学ぶ

[教育原論／教育の思想]

木曜日 5 時限

担当者：古賀 徹

◆学修到達目標 「教育」とは何か？人間が社会の中で生きていく上で、なぜ教育が必要なのか？現在のように公教育が当たり前に実現されるようになってくるのには絶余曲折（歴史的な変遷）がありました。その実現のための強い光となつたのが本講義で学ぶ様々な「教育思想」です。教育の思想の歴史的変遷について学ぶということは、いわば「教育」の Identity 形成の過程を学ぶということでもあります。

◆授業方法 講義形式と「教育の思想」としてあらわされてきた様々な授業形式（グループワーク等）をとりいれる。前半は、テキストに記された思想家（人物）に関する講義を（教員が）行ないます。後半からは各自で担当箇所を決め、人物の思想上の特色について報告・質疑をすることで、互いに学びあえる授業としていきます。

◆準備学修 テキストに記載されている「教育の思想」を著した人物たちは、「教育」のみではなく、様々な「社会」的な思想に関する論述があります。その当時の「時代の精神」を理解することも重要です。テキストをよく読むこととあわせて、西洋の近代史（近代以降の歴史）に関する本を読むと、さらに理解が増すと思います。グループ単位で担当する思想家を決め、調査を行ない発表をすることになります。積極的に調査研究に取り組んでください。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	教育の歴史・思想とは？	9回目	公教育の実現（マン）
2回目	世界の教育思想の歴史的変遷	10回目	関係論・宗教哲学（ブーバー）
3回目	一斉教授の方式・起源（コメニウス）	11回目	自由教育の思想（ニイル）
4回目	子どもの発見（ロック、ルソー）	12回目	子どもの再発見（アリエス）
5回目	人間教育の実践－直観教授（ペスタロッチ）	13回目	脱学校論（イリイチ）
6回目	科学的教育学の思想（ヘルバルト）	14回目	新しい教育の思想
7回目	幼児教育の思想（フレーベル）	15回目	まとめ（「教育」を教養として考える）
8回目	児童中心主義・経験主義（デューイ）		

◆教科書 通材 『教育の思想 T10300/教育原論 T10200』通信教育教材(教材コード 000199) 1,550 円(送料込)

◆参考書 当日資料配布 適宜に資料・レジュメを配布する。授業中に指示する。

◆成績評価基準 この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

【金曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 一 ブ 講シ		
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配当 学 年	受 講 条 件			
1時限	AE11	英 語 K	大庭 香江	1	C10100	英 語 I	×	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III	×	2年				
					C10400	英 語 IV						
2時限	AE12	東洋思想史 I	本間 直人	2	P20300	東洋思想史 I	×	※	・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	×		
	AE13	日本史概説 / 日本史概論	鍋本 由徳	2	Q30200	日本史概説	×	2年	・文理・経済・商学部のみ申込可。			
					K32200	日本史概論			・法学部のみ申込可。			
	AE21	英 語 L	大庭 香江	1	C10100	英 語 I	×	1年	・I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
					C10200	英 語 II						
					C10300	英 語 III	×	2年				
					C10400	英 語 IV						
3時限	AE22	フランス語 I・II	大庭 克夫	1	E10100	フランス語 I	×	1年	・I・IIのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。			
	AE23	イギリス文学史 II	猪野 恵也	2	N30100	イギリス文学史 II	×	2年		×		
					E10200	フランス語 II	×	2年	・英文学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。			
	AE24	西洋思想史 I	関谷 雄磨	2	P20200	西洋思想史 I			・政治経済学科のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。			
4時限	AE31	政治学原論	吉野 篤	2	L20100	政治学原論	×	※	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。			
	AE32	英作文 II	大庭 香江	2	N30500	英作文 II	×	2年				
	AE33	哲学基礎講読	石井 友人	2	P20100	哲学基礎講読	×	※	・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。			
	AE34	市場調査論	最上 健児	2	S317SO	市場調査論	×	2年				
5時限	AE41	国文学概論	山崎 泉	2	M20200	国文学概論	×	※	・国文学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。			
	AE42	宗教学概論	合田 秀行	2	P30400	宗教学概論	×	2年				
	AE43	商業史	竹内 真人	2	S32100	商業史	×	2年		×		
AE51	AE52	社会学	服部 慶亘	2	B11600	社会学	×	1年				
		日本政治史	石川 徳幸	2	L30400	日本政治史	×	2年		×		

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

◆ 講座内容（シラバス）

◆ 映画の歴史を読む

★★★☆ [英語 K]

金曜日 1 時限

担当者：大庭 香江

◆ 学修到達目標 本授業では、映画の歴史やエピソードについて書かれた英文を読み、米国の映像文化について学びます。また、映像作品で、英語音声と英語字幕を組み合わせて見ることで、英文を読む力を伸ばします。

◆ 授業方法 映画の歴史やエピソードについて書かれたパッセージを読み、実際に作品を視聴して、レビューを簡潔にまとめます。

◆ 準備学修 パッセージを読み、語彙を調べておきます。

◆ 授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス Unit 1 映画の発明 文法：疑問文	9回目	Unit 11 映画監督 1 文法：未来形 2
2回目	Unit 2 映画館 文法：現在形	10回目	Unit 12 映画監督 2 文法：未来形 3
3回目	Unit 3 & 4 サイレント映画、有声映画 文法：過去形	11回目	Unit 13 日本映画 2
4回目	Unit 5 & 6 カラー映画、ドキュメンタリー映画 文法：未来形 1	12回目	Unit 14 3D
5回目	Unit 7 日本映画 1 文法：名詞	13回目	Unit 15 映画レビューを書く 1
6回目	Unit 8 ハリウッド映画 文法：形容詞 1	14回目	Unit 16 映画レビューを書く 2
7回目	Unit 9 映画音楽 文法：形容詞 2	15回目	試験
8回目	Unit 10 ビデオと DVD 文法：形容詞 3		

◆ 教科書 丸沼『Movie Time!』 Eric Bray 著 南雲堂 2,052 円（税込）（送料 300 円）

◆ 参考書 授業時に、単元ごとに、関連する参考書や資料について御紹介致します。

◆ 成績評価基準 試験、及びテキストの評価。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※ 授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆中国古代の哲学思想

〔東洋思想史Ⅰ〕

金曜日 1時限

オープン受講：不可 担当者：本間 直人

◆学修到達目標 中国古代の哲学思想を概観します。前期は孔子、孟子、墨子の思想を中心に理解を深めます。中国古代の哲学者・思想家たちの言葉は国を超えて、時代を超え、現代に生きる我々に、生きる上でのヒントを与えてくれることでしょう。さらに、研究の意義、必要性などについても学びます。(前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましい)

◆授業方法 中国古代の哲学者・思想家たち、それぞれの哲学思想の特質をつかむことに留意しながら、発表形式で授業を行います。又、レポートのまとめ方についても指導します。授業は漢文の講読を含みますが、漢文に慣れ親しんでいない場合をも考慮し、無理のないように進めていきます。したがって、東洋思想に興味を持ちながら、漢文に対する抵抗感から、今まで本格的な学習を思いとどまっていた方の受講も歓迎します。

◆準備学修 授業で取り上げる哲学者・思想家についての参考書は、数多く出版されています。図書館、又は書店で実際に手に取り、気に入った本を読んでみて下さい。すんなりと頭に入る事柄があれば、すぐには理解できない事柄もあることでしょう。しかしながら、そのことについて、じっくりと時間をかけ、自分の頭で考えることは、これから学習に特に重要なことなのです。

◆履修条件 平成29年度昼間・土曜スクーリング(前期)「東洋思想史Ⅰ」との積み重ね不可。

◆授業計画(各90分)

1回目	ガイダンス(研究の意義、必要性) 東洋思想史とは何か	9回目	孟子の思想について(人物・生涯)
2回目	孔子の思想について(人物・生涯)	10回目	孟子の思想について(人性論)
3回目	孔子の思想について(『論語』)	11回目	孟子の思想について(運命論)
4回目	孔子の思想について(宗教観、殷周革命)	12回目	墨子の思想について(人物・年代)
5回目	孔子の思想について(宗教観、『論語』)	13回目	墨子の思想について(非命説)
6回目	孔子の思想について(儒教)	14回目	墨子の思想について(<天>と<命>)
7回目	孔子の思想について(『詩経』)	15回目	学習内容のまとめ
8回目	孔子の思想について(運命觀)		

◆教科書 **当日資料配布** 当日プリント配布。

通材 『東洋思想史Ⅰ P 20300』通信教育教材(教材コード 000392) 2,250円(送料込)
漢和辞典を用意してください。

◆参考書 指定しない。

◆成績評価基準 授業への取り組み(発表など)・レポート・テストにより総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆日本史を通観してみよう

〔日本史概説／日本史概論〕

金曜日 1時限

担当者：鍋本 由徳

◆学修到達目標 本科目では、①「日本史」とは何か、②原始・古代～現代までの歴史的変遷、③「歴史事実」の多様性への理解などを、世界のなかでの日本を意識しながら学び、「日本史」全体を考える技術と態度の修得をめざします。政治や経済の内容を中心に据えながら、社会や文化の背景への理解を深めます。

◆授業方法 原則として教科書記述を参考にしながら進めます。教科書記述と異なる解釈や事例に触れることが多いため、プリントやスクリーンを併用しながら講義します。

◆準備学修 事前学修のシートを用いて、教科書内容の概要を把握していることが前提ですので、教科書を読んでおくことが必要です。シートへの記述は自分の理解できるレベルでかまいません（提出不要）

◆授業計画（各 90 分）

1回目	日本史概説の特性と学びの意味	9回目	天下一統と徳川政権
2回目	先史時代の特徴	10回目	幕末維新の混乱
3回目	ヤマト王権	11回目	条約改正問題と帝国議会
4回目	奈良時代	12回目	大正政変
5回目	摂関政治	13回目	太平洋戦争と国際関係
6回目	東国王権と西国王権	14回目	戦後日本のあゆみ
7回目	室町幕府の特徴	15回目	日本史概説の振り返りと今後の課題
8回目	戦国時代の様相		

◆教科書 **当日資料配布** 当日参考プリントを必要に応じて配布。

通材 『日本史概論 K32200／日本史概説 Q30200』 通信教育教材（教材コード 000382）
2,850 円（送料込）

◆参考書 **丸沼** 『最新版 角川新版日本史辞典』 角川書店 3,672 円（税込）（送料 450 円）
配布プリントにて適宜紹介する。

◆成績評価基準 授業内提出レポート（70%）、授業内小テスト（30%）の総合評価
※ 15回全出席を前提とした評価です。

注意 E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆名作映画の背景を読む

★★☆〔英語 L〕

金曜日2時限

担当者：大庭 香江

◆学修到達目標 本授業では、米国の名作映画について書かれた英文を読み、映像作品で、英語音声と英語字幕を組み合わせて見ることで、英文を読む力を伸ばします。また、英語が使用されている国や地域の文化について学びます。

◆授業方法 米国の名作映画について書かれたパッセージを読み、実際に作品を視聴してレビューを書きます。

◆準備学修 パッセージを読み、語彙を調べておきます。

◆授業計画（各90分）

1回目	Titanic	9回目	Jaws
2回目	The Lion King	10回目	Shane
3回目	Jurassic Park	11回目	Roman Holiday
4回目	E. T.	12回目	Gone with the Wind
5回目	Back to the Future	13回目	作品の視聴とレビュー1
6回目	Anne of Green Gables	14回目	作品の視聴とレビュー2
7回目	Star Wars	15回目	試験
8回目	Rocky		

◆教科書 丸沼 『Active English 米国のヒット映画12』 染谷正一他著 英宝社 1,728円（税抜）（送料300円）

◆参考書 授業時に、単元ごとに、関連する参考書や資料について御紹介致します。

◆成績評価基準 試験、及びレポート。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆覚える=分かる、覚えるための努力が全てです

[フランス語 I・II]

金曜日2時限

担当者：大庭 克夫

◆学修到達目標 英語にすれば中1レベルの内容が、仏語でも言えて・書けて・聴き取れるようにするのが目標です。前期はまず仏語の発音の規則 (=綴り字と発音との関係) をしっかり習得することから始まり、その後基本的な名詞、冠詞の使い分け、提示の仕方、3種類の動詞の活用 (=人称変化) 等を身に付けて、簡単な文章が作れるようにします。

◆授業方法 中学英語をベースに、基本的な単語、提示の仕方、動詞の人称変化などを学習します。授業自体は<講義形式>ではなく<ゼミ形式>で進めていきます(1回の授業で最低4~5回は当てて答えてもらいます)。なお授業は仏語の仕組みを説明することしかできません。仏語習得には授業の場以外での覚える努力が不可欠です。

◆準備学修 上述のように、授業に出席すること自体は「履修」でも何でもなく、フランス語を習得するための最低限の必要条件にすぎません。授業で習った事柄を、時間と労力を割いてしっかりとインプットして翌週の授業に臨むこと、この努力なしに仏語の習得も単位の取得も不可能です。外国語では「覚える」と「分かる」は完璧にイコールです。

◆履修条件 初回から即実質的な授業に入ります。履修する可能性のある学生は必ず初回から出席してください。

◆授業計画 (各 90 分)

1回目	アルファベ、綴り字と発音との関係1	9回目	動詞<être> (=be 動詞) の活用と用例
2回目	綴り字と発音との関係2	10回目	動詞<avoir> (=have) の活用と用例
3回目	綴り字と発音との関係3	11回目	第1群規則動詞の活用と用例1
4回目	不定冠詞と基本的な名詞	12回目	第1群規則動詞の用例2
5回目	部分冠詞と基本的な名詞	13回目	まとめとヒヤリング演習
6回目	定冠詞と提示の仕方	14回目	前期期末試験
7回目	数詞(1~10)、指示形容詞	15回目	前期期末試験の返却と解説、後期展望
8回目	まとめと前期中間試験		

◆教科書 [当日資料配布] 授業で使用するプリントとCDはこれらで配布します。ともに市販の教科書よりはるかに分かりやすく丁寧にできているという自信はあります。

◆参考書 [丸沼] 『フランス語基本500語』仏語教育振興協会編、朝日出版社 2,052円(税込)(送料300円)
履修が確定したら(=5月以降)仏和辞典を必ず一冊用意してください。初回授業時に手ごろな辞書を何冊か紹介します。

◆成績評価基準 試験は中間と期末の2回行い、成績はこの試験の結果(努力の結果)で判定します。なお試験は全問<和文仮訳>と<書き取り>(=CDの原文を書き取ったのち和訳)で出題: 安直な和訳・穴埋め等は一切出題しません。

注意

E-mailを送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例:「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆口マン派からヴィクリア朝時代まで

[イギリス文学史Ⅱ]

金曜日 2 時限

オーブン受講：不可 担当者：猪野 恵也

◆学修到達目標 イギリス文学において様々な作家と作品を知り、それをきっかけとして具体的に各作品を各自能動的に読み、鑑賞できるようにする。

◆授業方法 プリントを用い、参考書の助けも借りて、それらを基にすすめていく。

◆準備学修 授業計画を見て、翻訳でもいいので、各作品を実際に読むとよい。

◆履修条件 前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	18世紀の英文学概観	9回目	George Eliot Middlemarch
2回目	Wordsworth と Coleridge	10回目	George Meredith The Egoist
3回目	John Keats について	11回目	Thomas Hardy Tess
4回目	Jane Austen Pride and Prejudice	12回目	Henry James The Portrait of a Lady
5回目	Charlotte Bronte Jane Eyre	13回目	Joseph Conrad Heart of Darkness
6回目	Emily Bronte Wuthering Heights	14回目	Oscar Wilde The Picture of Dorian Gray
7回目	Charles Dickens Oliver Twist	15回目	試験
8回目	Thackeray Vanity Fair		

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 試験(70%) 平常点(30%) 皆出席を前提にして評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆古代ギリシアの思想(古典期まで)

[西洋思想史Ⅰ]

金曜日2時限

担当者：関谷 雄磨

◆学修到達目標 西洋の学問の原点ともいえる古代ギリシアの思想を、「存在」の問題を軸に歴史的展開に沿って学びます。なお、単に思想史の知識を情報として得るだけでなく、受講生のみなさんが、過去の思想家が抱いた問題意識を共有できるように努めます。それによって、ますます価値観が多様化する時代を生きる上で知っておくべき、西洋の基礎的な古典的教養を身につけることを目標とします。

◆授業方法 授業は講義形式で行います。本講座では、いわゆる古典期までのさまざまな思想家（さらには神々や英雄たち）が登場しますが、理論としての思想だけでなく、彼らのエピソードや人物像をできるかぎり紹介し、なるべくリアリティのある授業を行いたいと思います。

◆準備学修 毎回、指定テキスト『哲学 B10700』の該当箇所を読んでから臨むとよいでしょう。

◆履修条件 過去三年間の東京スクーリング（5月期・6月期）「西洋思想史Ⅰ」（関谷担当）との積み重ね不可。

◆授業計画（各90分）

1回目	ガイダンスおよび古代ギリシアについての一般的説明	9回目	多元論者とデモクリトス<古代原子論へ>
2回目	古代ギリシア神話<宇宙生成の物語（ヘシオドス『神統記』）、神々のプロフィール>	10回目	ソフィストたち<「○○であると思われる」と「○○である」>
3回目	英雄物語<トロイア戦争の物語（ホメロス『イーリアス』など）>	11回目	ソクラテス<無知の自覚と主知主義>
4回目	英雄物語に見られる人生観・倫理観など	12回目	プラトン<永遠に変わらず、なくならない世界>
5回目	ミレトス学派<万物の「アルケー」は何か>	13回目	アリストテレス<四原因説と目的論的世界観>
6回目	ピュタゴラスおよびピュタゴラス学団<数と数の比例による世界>	14回目	総まとめ（質問コーナー）
7回目	ヘラクレイオス<「万物は流れる」>	15回目	試験
8回目	エレア学派<生成消滅・運動はあり得ない>		

◆教科書 **当日資料配布** 授業の概要プリント

通材 『哲学 B10700』通信教育教材（教材コード 000404）3,650円（送料込）※学修指導書付き。
〈この教材は『西洋思想の要諦周覧』嘉吉純夫 斎藤隆編著 北樹出版と同一です。〉

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 最終回に実施する試験によって評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆政治を見る眼を養う

〔政治学原論〕

金曜日 3 時限

担当者：吉野 篤

◆学修到達目標 政治概念の歴史的変容を古典古代から 20 世紀にいたるまで跡付け、政治の機能・意義を把握すること。そのことによって、現在の政治問題を考えるうえで、歴史的視野が必要であることを理解してもらうこと。

◆授業方法 基本的に講義形式で行う。ほぼ毎回、現代政治の課題を考えるための資料を主として新聞報道を材料として配布し、今、政治の世界に何が起きていて、どのような対応を迫られているかを考えたい。

◆準備学修 事前にテキストによって学習内容のアウトラインを把握し、何が問題であるのかをよく整理すること。普段からメディアの政治報道に関心を持ち、現実の政治の動きに注意すること。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	イントロダクション（テーマ設定）	9回目	市民革命の政治過程2
2回目	古典古代の政治概念1	10回目	市民革命期の政治概念
3回目	古典古代の政治概念2	11回目	保守主義の生成と展開
4回目	中世ヨーロッパの政治像	12回目	社会主義の政治理論
5回目	マキャベリの政治概念	13回目	丸山真男による政治の概念化
6回目	社会契約説の考え方1 J. ロック	14回目	20世紀の政治状況
7回目	社会契約説の考え方2 議員内閣制との親和性	15回目	大衆民主主義の政治理論
8回目	市民革命の政治過程1		

◆教科書 吉野篤編 『Next 教科書シリーズ 政治学』第2版 弘文堂 2,160円（税別）（送料 300円）

◆参考書 授業のときにその都度指示する。

◆成績評価基準 基本的には定期試験で評価する。平常点として出席を加味する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆プレゼンテーションの原稿を書く

〔英作文Ⅱ〕

金曜日3時限

担当者：大庭 香江

- ◆学修到達目標 コミュニケーションのツールとしてのプレゼンテーションの基本を理解し、原稿を作成します。
- ◆授業方法 プrezentationの構造について学び、8つのプレゼンテーションの型に合わせた原稿を書きます。
- ◆準備学修 テキストの、プレゼンテーションの模様を映した動画を視聴しておくこと。
- ◆授業計画（各90分）

1回目	ガイダンス プレゼンテーションの構造	9回目	報告型プレゼンテーション
2回目	プレゼンテーションのスキル	10回目	説得型プレゼンテーション
3回目	情報収集と情報倫理	11回目	問題解決型プレゼンテーション
4回目	プレゼンテーション環境の準備	12回目	原因・結果型プレゼンテーション
5回目	列挙型プレゼンテーション	13回目	比較対照型プレゼンテーション
6回目	分類型プレゼンテーション	14回目	説得型・提案型プレゼンテーション
7回目	プロセス型プレゼンテーション	15回目	試験
8回目	調査型プレゼンテーション		

◆教科書 丸沼『Winning Presentations』 Bill Benfield 他著 成美堂 2,700円(税込)(送料300円)

◆参考書 授業時に、単元ごとに、関連する参考書や資料について御紹介致します。

◆成績評価基準 試験

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆『論理学、別名思考の技法』を読む

[哲学基礎講読]

金曜日3時限

担当者：石井 友人

◆**学修到達目標** 17世紀西洋思想の古典アルノー、ニコル共著『論理学、別名思考の技法』及び同時代の諸テクストを読んでいきます。デカルトとの関係が明らかである『論理学』第一部を中心に読解し、当時の哲学の基本概念と問題意識、歴史的背景を確認し、古典を読むために必要な知識を身につけていくことを目的とします。

◆**授業方法** 教科書と配布プリントを用いて講義形式で行いますが、質疑応答を取り入れ、受講者からの積極的な参加を期待します。最初は、専門的な知識を必要とする部分は避け、内容を大づかみにしていくことから始めます。理解を深めるために、教科書以外の同時代のテクストも読んでいく予定です（講読の進度により、授業計画を変更することもある）。

◆**準備学修** 教科書所収『論理学、別名思考の技法』第一部第一章でアルノーたちが、観念という言葉をどのように定義しているのかを確認しておいて下さい。同書全体の理解を得たい人には、訳者による解説が参考となるでしょう。ただし、観念という言葉は、解説ではなく、必ず『論理学』本文で確認しておいて下さい。

◆授業計画（各90分）

1回目	論理学とは何か	9回目	名前の定義の諸規則
2回目	観念とは何か	10回目	第10章には何が書いてあるのか
3回目	同上	11回目	・権力と真理 ラ・フォンテーヌ「狼と子羊」を読む
4回目	観念の明晰性と判明性	12回目	・権力と真理 パスカル『パンセ』を読む
5回目	誤謬はなぜ生じるのか	13回目	身心問題
6回目	同上	14回目	動物機械論
7回目	誤謬をいかにして取り除くのか	15回目	試験
8回目	事物の定義と名前の定義		

◆**教科書 通材** 『哲学基礎講読 P20100』通信教育教材（教材コード 00042）4,000円（送料込）

◆**参考書** 講義の中で紹介します。

◆**成績評価基準** 試験（リポートに変更の場合あり）と授業への参加度により総合的に評価。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆市場の情報を客観的に表現する

[市場調査論]

金曜日 3 時限

担当者：最上 健児

◆学修到達目標 市場調査とマーケティングの関係を理解する。

平均、分散、標準偏差、相関係数、を算出できるようになるとともにそれらの値の意味を理解する。
回帰直線を求めることができる。

◆授業方法 授業の前半でその日の講義に必要な知識を説明し、それに基づき授業を進めていく。一回ごとに話題を区切って説明しているが、全体を通して大きな話題を取り扱っていく。資料はネットで配信するので、書き写す必要はないが内容を理解するためにノートをとることを強く進める。

◆準備学修 特に必要な科目はないが、説明に計算を多用するため数学的な知識があるに越したことはない。またマーケティングに関連した内容となるためマーケティングの知識も知っているに越したことはない。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	マーケティングと市場調査	9回目	直線のあてはめ
2回目	市場調査の基礎概念	10回目	一次導関数
3回目	市場調査のプロセス	11回目	最小二乗法
4回目	集計と分析	12回目	決定係数
5回目	平均と分散	13回目	重回帰分析
6回目	共分散と相関係数	14回目	統計的検定
7回目	相関係数の範囲	15回目	数値例を使った演習
8回目	直線上の値の相関係数		

◆教科書 当日資料配布

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 レポートで評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆近世の小説に親しむ

〔国文学概論〕

金曜日 4時限

担当者：山崎 泉

◆学修到達目標 近世小説を代表する作品の一つである上田秋成の『雨月物語』の中から「吉備津の釜」を講読します。一つの章にじっくりと取り組むことにより、古典作品の読み解き力向上及び大学で国文学を学ぶ上での基本的なスキル習得を目指します。

◆授業方法 主に講義形式で行います。まず、近世小説のジャンルとそのおおまかな歴史、さらに上田秋成の伝記と『雨月物語』について概説し、その後、「吉備津の釜」の本文を読み進めていきます。

◆準備学修 テキストに一通り目を通しておいて下さい。授業においては原文を中心に読み進めています。講読に際しては、原文の音読を受講生の皆さんにそれぞれ分担して担当して頂く予定ですので、きちんと読めるように事前に準備をして置いて下さい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	ガイダンス・国文学とは何か	9回目	「吉備津の釜」講読⑥
2回目	近世小説 その歴史とジャンル	10回目	「吉備津の釜」講読⑦
3回目	上田秋成 その生涯と作品	11回目	「吉備津の釜」講読⑧
4回目	「吉備津の釜」講読①	12回目	「吉備津の釜」講読⑨
5回目	「吉備津の釜」講読②	13回目	「吉備津の釜」と「牡丹灯記」
6回目	「吉備津の釜」講読③	14回目	まとめ
7回目	「吉備津の釜」講読④	15回目	試験
8回目	「吉備津の釜」講読⑤		

◆教科書 **当日資料配布** 当日、プリントを配布します。

丸沼 『改訂版 雨月物語 現代語訳付き』 上田秋成著 鵜月洋訳注 角川学芸出版（角川ソフィア文庫）
864円（税込）（送料 215円）

◆参考書 授業時に紹介します。

◆成績評価基準 平常点（20%）、試験（80%）。毎回出席することを前提として採点します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆世界の多様な宗教を理解する 1

[宗教学概論]

金曜日 4 時限

担当者：合田 秀行

◆学修到達目標 世界の諸宗教に関する幅広い知識の習得を目的とします。前期は、宗教学という学問の特徴や歴史について学んだ後、世界三大宗教でもあり、特に日本人とも関係の深い仏教について幅広い知見を身につけます。さらに東洋の宗教であるヒンドゥー教（インドの民族宗教の総称）に関する教義と神々の特徴を理解します。

◆授業方法 指定した市販のテキストに基づいて、講義形式で進めます。最初にテキストの第7章「宗教学」を取り上げ、宗教学という学問において取り上げる主な概念などについて解説します。続いて、テキストの冒頭に戻って、第1章「仏教」と第2章「ヒンドゥー教」を取り上げます。適時、関連する映像資料も活用してより理解を深めます。

◆準備学修 予め指定した教科書の範囲に目を通して講義に臨んで下さい。目安としては、一回の講義でテキスト10ページ（そのうち半分は図解ページ）程度のペースで進めていく予定です。学期末には、講義で触れた内容から各自でテーマを設定してレポートを作成してもらいますので、その点も念頭において受講してください。

◆授業計画（各90分）

1回目	宗教学という学問の歴史と特徴	9回目	仏教5 大乗仏典を読む
2回目	宗教学における主要な概念	10回目	仏教6 日本仏教の歴史
3回目	宗教学が扱う諸問題	11回目	仏教7 日本仏教諸宗派の特徴
4回目	宗教学における専門用語	12回目	ヒンドゥー教1 概観と歴史
5回目	仏教1 インドにおける仏教の歴史的展開	13回目	ヒンドゥー教2 主要な教義
6回目	仏教2 初期仏教の教義	14回目	ヒンドゥー教3 神々と叙事詩
7回目	仏教3 大乗仏教の教義	15回目	まとめ
8回目	仏教4 パーリ語初期仏典を読む		

◆教科書 丸沼『図説 世界5大宗教全史』中村圭志 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2,376円(税込)(送料350円)

◆参考書 なし。

◆成績評価基準 小テスト(30%)、レポート(70%) 半期に3回程度、講義内で実施する簡単な小テストと学期末に各自でテーマを設定してもらい作成したレポートとで総合的に評価します。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆商業の世界的展開過程を学びましょう。

〔商業史〕

金曜日 4 時限

オープン受講：不可 担当者：竹内 真人

◆学修到達目標 商業史（前期）では、西洋商業史の発展について学修するが、特にイギリスで最初に確立し、その後周辺諸国に拡大した近代資本主義の世界的展開過程について考察する。グローバルな観点から、近現代の政治・経済・文化現象を総合的に把握できるようになることを目的とする。

◆授業方法 プリント（資料）や映像資料（DVD、パワーポイント）を活用して授業を行う。

◆準備学修 指定した参考書を予習・復習時に熟読し、授業範囲の専門用語を調べて意味をよく理解しておくこと。

◆履修条件 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるために、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	「商業史（前期）」の課題と方法	9回目	鉄道ネットワークの世界的拡大
2回目	大塚史学と近代世界システム論	10回目	アジア人移民労働者の世界的展開
3回目	産業革命と工業化（1）資本の本源的蓄積	11回目	福音主義と奴隸貿易規制の展開
4回目	産業革命と工業化（2）産業資本の循環	12回目	武器＝労働力交易規制と帝国主義
5回目	産業革命と工業化（3）欧米諸国の産業革命	13回目	インド大反乱と電信ネットワークの世界的拡大
6回目	「大西洋三角貿易」の構造と展開	14回目	日本の近代化、帝国主義、戦後経済
7回目	「アヘン三角貿易」の構造と展開	15回目	まとめ及び試験
8回目	汽船ネットワークの世界的拡大		

◆教科書 **当日資料配布** 特に教科書は指定せず、当日にプリント（資料）を配布する。

◆参考書 **通材** 『商業史 S32100』 通信教育教材（教材コード 000555） 1,750 円（送料込）

〈この教材は市販の『イギリス帝国の歴史—アジアから考える—』 秋田茂著（中央公論新社）と同一です。〉

丸沼 『世界流通史』 谷澤毅著 昭和堂 2,916 円（税込）（送料 300 円）

◆成績評価基準 試験の結果（80%）、授業への取り組み（授業内レポート等、20%）をもって総合的に評価する。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆「人間」はどのように評価（誤解）されるのか？

[社会学]

金曜日5時限

担当者：服部 慶亘

◆学修到達目標 この講義は、社会を「二人以上の人間による生活共同体」という視点で展開される。二人以上の「人間」について語られるのであって、二人以上の「ヒト」ではない。このように、我々の生活環境の中には一見すると同じように見えて実は性格（性質）が異なるものが少くない。それらを「違い」としてキチンと説明できるような「社会科学的発想の修得」を目指すのが、本講義の目的である。

◆授業方法 教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（CD, DVD, マンガ、その他）を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。よって、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が好成績につながるものと思われる。また、後期の講義内容への橋渡しも隨時行う。

◆準備学修 特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）した上で、次の講義にのぞんでほしいと思う。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく、日常の（あるいは自分自身の）あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。

◆履修条件 後期も続けて受講することが望ましい（昨年後期からの受講学生や再受講学生は除く）

◆授業計画（各 90 分）

1回目	講義目標・目的の確認	9回目	地位と役割① 「人間」とは何か？①
2回目	基礎的視点① 疑似環境	10回目	地位と役割② 「人間」とは何か？②
3回目	基礎的視点② 知識と技術	11回目	地位と役割③ 地位
4回目	基礎的視点③ 絶対と相対	12回目	地位と役割④ 役割
5回目	基礎的視点 行為と行動	13回目	地位と役割⑤ 役割演技
6回目	社会的動物としての人間① 社会の定義	14回目	講義内容の再考
7回目	社会的動物としての人間② 生理的早産	15回目	まとめ
8回目	社会的動物としての人間③ 社会的自我		

◆教科書 丸沼 『人間生活の理論と構造』 夏刈康男（ほか） 学文社 2,700円（税込）（送料 350円）

丸沼 『補強版ストレス・スパイラル』 服部慶亘 人間の科学社 1,296円（税込）（送料 300円）

◆参考書 当日資料配布 プリント配布

◆成績評価基準 終講試験（70%）、受講態度（20%）、レポート類（10%）で評価する。なお、全講義回数の3分の2以上の出席が原則（公欠などは申し出ること）。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆幕末・明治期の日本政治

〔日本政治史〕

金曜日5時限

オープン受講：不可 担当者：石川 徳幸

◆学修到達目標 本講義では、近代日本において展開された政治を通史の形で学んでいく。歴史の流れを正しく把握するためには、時代ごとに区切って学ぶことは得策ではないが、便宜上、本講義では幕末から明治前期を対象とする。日本の近代国家形成の過程を理解するとともに、歴史的事象の見方や考え方を身につけてもらいたい。

◆授業方法 基本的には、教科書の章立てに沿った形で講述する。授業内容は、あくまでも初学者を対象とした内容で構成しているが、高校までの歴史科目で扱われている基本的な出来事や人物に関しては、おおむね理解していることを前提に話を進める。受講にあたっては、各自、ノートを必ず持参すること。

◆準備学修 予習として、事前に教科書の該当範囲に目を通しておくこと（毎時、授業の終わりに次回に扱う範囲を告知する）。復習として、受講中にとったメモを整理し、ノートをまとめておくこと。

◆授業計画（各 90 分）

1回目	イントロダクション	9回目	集権化政策
2回目	幕藩体制の動搖	10回目	近代化政策
3回目	開国と「安政の五力国条約」	11回目	反政府運動
4回目	尊王倒幕運動	12回目	立憲政治への胎動
5回目	幕府勢力の衰退	13回目	内閣制度の創設
6回目	薩長同盟と第2次長征	14回目	条約改正運動
7回目	幕府の終焉	15回目	総括
8回目	新政権の骨格		

◆教科書 **通材** 『日本政治史 L30400』通信教育教材（教材コード 000452）3,400 円（送料込）

◆参考書 ※参考書は、必要に応じて授業の中で紹介する。

◆成績評価基準 筆記試験の結果をもとに成績評価を行う。なお、全体の3分の1を超える欠席がある場合、評価の対象としない。

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

MEMO

講座の選定

時間割

(火曜日)
開講講座
シラバス
便用教材(水曜日)
開講講座
シラバス
便用教材(木曜日)
開講講座
シラバス
便用教材(金曜日)
開講講座
シラバス
便用教材(土曜日)
開講講座
シラバス
便用教材

受講及び試験

受講手続

許可と不許可
申込講座の

受講料の納入

受講準備

保健体育講義
等義の講義について

オープン受講

胸部X線検査

各種用紙

付
録

【土曜日】

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位 数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 ト ブ 講ン
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	配当 学 年	受 講 条 件	
1 ・ 2 時 限	AF11	総合科目 I ~ VI	古賀 徹	2	B101SO	総合科目 I	×	1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ I ~ VIのいずれに該当されるのか充当科目コードを必ず記入してください。 ・ スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。 	
					B102SO	総合科目 II				
					B103SO	総合科目 III				
					B104SO	総合科目 IV				
					B105SO	総合科目 V				
					B106SO	総合科目 VI				

注意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

◆ 講座内容 (シラバス)

◆自主創造の基礎 1

土曜日 1・2 時限

[総合科目 I ~ VI]

担当者：古賀 徹

◆学修到達目標 「自主創造の基礎 1」では、大学生としての基本的な資質を育成することをねらいとしています。この授業科目は、いわゆる専門教育の前段となる基礎教育を担うためではなく、社会人として学修することの意義やその在り方について理解できるようになること、「学び続けていく力」をつけるためにあります。日本大学では、それを「自主創造型パーソン」と呼称しています。具体的には、①学ぶ意味に気づくことができる、②主体的に学ぶ喜びを意識することができる、③積極的に参加する姿勢をもつことができる、④自分が学ぶ大学について説明することができる、の4つを目標とするものです。

◆授業方法 この授業では、講義形式のほか、アクティブ・ラーニングの授業形態をとります。そのため、双方向かつ対話型で行う「学生参加型」の授業を実践します。基本的には、「個人ワーク」、「グループワーク」、「発表・共有」の繰り返しにより授業を展開します。

「グループワーク」で課題解決にあたるため、チームワークが重要になります。欠席のないように注意してください。

◆準備学修 知識のインプットよりも集団で考えアウトプットすることに重点を置くため、課題を課すことがあります。その際は必ず予習を行い、授業に臨むようにしてください。

◆履修条件 授業初日から出席すること。

◆授業計画 (各 170 分)

1日目	①スタートアップ (この授業のねらい、展開、到達点) ②コミュニケーションの基本要素
2日目	①大学で学ぶ (学修で必要なこと) ②大学で学ぶ (通信教育部での学修方法)
3日目	①日本大学の歴史 (メディア教材を使った反転授業) ②日本大学通信教育部の歴史 (70年史)
4日目	①学修方法 (情報の収集、整理、図書館の利用) ②情報の収集、整理、編集の実践
5日目	①論理的文章を書く ②レポートの作成
6日目	①プレゼンテーションの方法 ②グループでのプレゼンテーション (練習)
7日目	①グループワーク (テーマの決定) ②グループワーク (討論・準備)
8日目	①成果の発表 ②さらなる能力向上をめざして (評価)

◆教科書 **当日資料配布** 資料は適宜配布します。

◆参考書 授業内において紹介します。

◆成績評価基準 課題設定、問題探究、グループ内における議論、成果のまとめなどを総合的に判断して評価を行います。各回における課題やプロダクト、レポートなどを成績評価の対象とします。(※全回出席を前提とする)

注意

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24171999 日大通子」
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

V 受講及び試験

1 講座受講時の注意点

① ポータルサイト及び 掲示板で最新情報の 確認	登校の際は、通信教育部1号館1階学生ホールにある掲示版で最新情報を確認してから講義に出席してください。 また、「講堂変更」・「休講」等、日々の授業に関する情報についても随時、ポータルサイトや掲示板でお知らせします。
--------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

② 受講上の注意 (出席・欠席・遅刻等)	<p>【出席について】 スクーリングは、毎回出席することを原則としています。 交通機関の遅れや特別な事情がある場合以外での遅刻はしないよう心掛けてください。 ※授業を途中から受講することは、担当教員や周りの受講者に対して迷惑な行為です。時間に余裕を持って行動してください。</p> <p>【欠席について】 止むを得ぬ事情によりスクーリングを欠席した場合は、次回の出席時に直接、担当教員へ欠席した旨を伝えてください。事務局及び講師室では、欠席の連絡は受け付けません。</p>
-------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

③ 受講上の注意 (休講・補講)	<p>【休講について】 スクーリング期間中、担当教員の都合や天候により授業を休講する場合があります。</p> <p>① 事前に情報を得ている場合は、ポータルサイト及び掲示板にてお知らせします。</p> <p>② 当日、急きょ、担当教員の体調不良等の理由により休講する場合は、職員より通知があります。</p> <p>③ その他、天候により急きょ、休講となる場合はホームページ、ポータルサイトにてお知らせします。</p> <p>【補講について】 スクーリング期間中に休講した場合、必ず補講を実施します。補講は、下記の①もしくは②の日程で実施します。</p> <p>① 补講日程に実施 7月14日(土), 7月23日(月)</p> <p>② スクーリング期間中のその他日程</p>
---------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

「スクーリング試験」受験上の注意

- ① 「学生証」及び「領収書（銀行領収印の押印されているもの）」を机上通路側の監督者が見やすいところに置くこと。受講手続及び受講料納入がない場合、受験できない。
- ② 「学生証」を忘れた場合又は未更新の場合は、事前に教務課（講師室）に申し出て指示を受けること。
- ③ 携帯電話等は、電源を切り、鞄等に収納し身体から離しておくこと。時計・電卓としての使用も禁止する。
- ④ 持ち込みを許可されたもの以外は机上に置かないこと。
- ⑤ 解答用紙は、1人1枚とし、再交付はしない。
- ⑥ 解答用紙の下段、太線枠内※印の事項については、必ずペン又はボールペンで記入すること。当該事項について記載がない場合又は誤記等は採点の対象にならない場合がある。
- ⑦ 試験開始後20分以上遅刻した者は受験することができない。
- ⑧ 途中退場は、試験監督者の指示がある場合に限り、試験開始30分後から認める。解答用紙を試験監督者に提出して退場すること。なお、用紙の持ち帰りは一切認めない。
- ⑨ 試験場では、試験監督者の指示に従うこと。
- ⑩ 不正行為（不正とみなされる行為含む）は絶対行わないこと。不正行為を行った場合は、学則により処分（停学・退学等）される。

※試験中の参考物等の貸し借りは不正行為とみなす。

2 スクーリング結果の確認

スクーリングの結果は、平成30年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に対し、ポータルサイトでお知らせします。ただし、スクーリングの申込を「受講届」にて行った場合には、教務課から、結果通知を郵送します。ポータルサイトから申込みを行った場合には送付されませんので、あらかじめご了承ください。掲載の開始はポータルサイトの「お知らせ」に掲載します。

電話・郵便による問い合わせには一切応じることができません。また、スクーリング結果通知の再発行はいたしません。天災による郵便の遅延・未着や、その他の事故に対していかなる配慮も行いませんので、スクーリング結果通知を紛失した場合などはポータルサイトで確認、又は「単位照合票」の交付を受け、確認してください。

結果内容に疑義がある場合は、結果通知日から3ヶ月以内に教務課まで問い合わせてください。なお、それ以降の疑義に関しては対応いたしません。

結果発表時期	平成30年9月上旬
--------	-----------

① 結果の表示

結果は、「合格」、「不合格」、「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし、単位は修得できません。

② 単位数

結果が「合格」の場合、開講講座表に記載されている開講単位数を修得したことになり、また同時にスクーリング単位も修得したことになります。

1 履修登録をする

履修登録上の注意事項

「ポータルサイト」と「履修届」の両方で申込みがあった場合は、「ポータルサイト」の内容を有効とします。

① 「ポータルサイト」による申込み

●履修登録の前に

- | | |
|---|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 履修登録には、IDとパスワードが必要です。
ID = 学生番号
初期パスワード = 自分の西暦生年月日（半角数字8桁） |
| 2 | 履修登録の受付メールを受信するには、メールアドレスの登録が必要です。
「学生メニュー」の「学生情報照会・修正」より、送付先アドレスを事前に登録してください。 |

●履修登録方法

1	通信教育部公式ホームページ（URL: http://www.dld.nihon-u.ac.jp ）の「在学生ログイン」をクリックしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し、「履修登録」をクリックしてください。	
3	履修登録科目の一覧から登録したい科目のチェックボックスを選択し、[登録確認] ボタンをクリックしてください。 ※一覧には学修が開始できる科目が表示されます。	

4	履修登録する科目を確認し、[登録実行] ボタンをクリックしてください。	<p>履修登録確認</p> <p>* 履修登録確認</p> <table border="1"> <tr> <td>学生番号</td> <td>2015</td> <td>学生氏名</td> <td>登録学期</td> </tr> <tr> <td>登録年度</td> <td>2015</td> <td>登録学年</td> <td>秋期</td> </tr> <tr> <td colspan="2">登録年度の登録合計単位数</td><td colspan="2">31</td></tr> </table> <p>* 追加科目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業コード</th> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BT01S00</td> <td>総合科目Ⅰ</td> <td>2(2)</td> </tr> </tbody> </table> <p>まだ登録が完了していません。完了するには登録実行ボタンを押下してください。</p> <p>[登録実行] [戻る]</p>	学生番号	2015	学生氏名	登録学期	登録年度	2015	登録学年	秋期	登録年度の登録合計単位数		31		授業コード	科目名	単位	BT01S00	総合科目Ⅰ	2(2)
学生番号	2015	学生氏名	登録学期																	
登録年度	2015	登録学年	秋期																	
登録年度の登録合計単位数		31																		
授業コード	科目名	単位																		
BT01S00	総合科目Ⅰ	2(2)																		
5	履修登録が完了すると、登録されているメールアドレスに受付通知メールが配信されます。	<p>履修登録完了</p> <p>履修登録受付通知メールを指定のメールアドレスに送信しましたので、ご確認ください。</p> <p>登録が正常に完了しました。 登録画面に戻る場合は、[履修登録画面へ戻る]ボタンを押してください。</p> <p>[履修登録画面へ戻る]</p>																		

●履修登録確認

1	履修登録方法の1の手順で、ログインしてください。	<p>履修登録確認表照会</p> <p>* 履修登録確認表照会</p> <table border="1"> <tr> <td>学生番号</td> <td>2015</td> <td>学生氏名</td> </tr> <tr> <td>登録年度</td> <td>2015</td> <td></td> </tr> </table> <p>* 総合教育科目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>履修年度</th> <th>授業コード</th> <th>科目名</th> <th>担当者</th> <th>単位数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合教育科目</td> <td>2014</td> <td>BT11000</td> <td>歴史学</td> <td>高橋 博文 他</td> <td>4</td> <td>継続中</td> </tr> <tr> <td>総合教育科目</td> <td>2014</td> <td>BT17000</td> <td>政治学</td> <td>開拓 二三夫 他</td> <td>4(2)</td> <td>継続中</td> </tr> <tr> <td>総合教育科目</td> <td>2015</td> <td>BT21000</td> <td>心理学</td> <td>猪俣 康典 他</td> <td>4</td> <td>修得済</td> </tr> </tbody> </table>	学生番号	2015	学生氏名	登録年度	2015		区分	履修年度	授業コード	科目名	担当者	単位数	備考	総合教育科目	2014	BT11000	歴史学	高橋 博文 他	4	継続中	総合教育科目	2014	BT17000	政治学	開拓 二三夫 他	4(2)	継続中	総合教育科目	2015	BT21000	心理学	猪俣 康典 他	4	修得済
学生番号	2015	学生氏名																																		
登録年度	2015																																			
区分	履修年度	授業コード	科目名	担当者	単位数	備考																														
総合教育科目	2014	BT11000	歴史学	高橋 博文 他	4	継続中																														
総合教育科目	2014	BT17000	政治学	開拓 二三夫 他	4(2)	継続中																														
総合教育科目	2015	BT21000	心理学	猪俣 康典 他	4	修得済																														

●履修登録の変更・取りやめ

同一履修年度かつまだ、学修を開始していない科目に限り、「ポータルサイト」で変更・取りやめをすることができます。

1	履修登録方法の1・2の手順で、履修登録の画面まで進んでください。	<p>履修登録</p> <p>* 履修登録</p> <table border="1"> <tr> <td>学生番号</td> <td>2015</td> <td>学生氏名</td> <td>登録学期</td> </tr> <tr> <td>登録年度</td> <td>2015</td> <td>登録学年</td> <td>秋期</td> </tr> <tr> <td colspan="2">登録年度の登録合計単位数</td><td colspan="2">33</td></tr> </table> <p>【凡例】 <input checked="" type="checkbox"/> 取消 <input checked="" type="checkbox"/> 変更不可 <input checked="" type="checkbox"/> クリア</p> <p>* 総合教育科目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>授業コード</th> <th>科目名</th> <th>単位</th> <th>学年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>BT01S00</td> <td>総合科目Ⅰ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>BT02S00</td> <td>総合科目Ⅱ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>BT03S00</td> <td>総合科目Ⅲ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>BT04S00</td> <td>総合科目Ⅳ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>BT05S00</td> <td>総合科目Ⅴ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>BT06S00</td> <td>総合科目Ⅵ</td> <td>2(2)</td> <td>1, 2, 3, 4</td> </tr> </tbody> </table>	学生番号	2015	学生氏名	登録学期	登録年度	2015	登録学年	秋期	登録年度の登録合計単位数		33		選択	授業コード	科目名	単位	学年	<input checked="" type="checkbox"/>	BT01S00	総合科目Ⅰ	2(2)	1, 2, 3, 4	<input type="checkbox"/>	BT02S00	総合科目Ⅱ	2(2)	1, 2, 3, 4	<input type="checkbox"/>	BT03S00	総合科目Ⅲ	2(2)	1, 2, 3, 4	<input type="checkbox"/>	BT04S00	総合科目Ⅳ	2(2)	1, 2, 3, 4	<input type="checkbox"/>	BT05S00	総合科目Ⅴ	2(2)	1, 2, 3, 4	<input type="checkbox"/>	BT06S00	総合科目Ⅵ	2(2)	1, 2, 3, 4
学生番号	2015	学生氏名	登録学期																																														
登録年度	2015	登録学年	秋期																																														
登録年度の登録合計単位数		33																																															
選択	授業コード	科目名	単位	学年																																													
<input checked="" type="checkbox"/>	BT01S00	総合科目Ⅰ	2(2)	1, 2, 3, 4																																													
<input type="checkbox"/>	BT02S00	総合科目Ⅱ	2(2)	1, 2, 3, 4																																													
<input type="checkbox"/>	BT03S00	総合科目Ⅲ	2(2)	1, 2, 3, 4																																													
<input type="checkbox"/>	BT04S00	総合科目Ⅳ	2(2)	1, 2, 3, 4																																													
<input type="checkbox"/>	BT05S00	総合科目Ⅴ	2(2)	1, 2, 3, 4																																													
<input type="checkbox"/>	BT06S00	総合科目Ⅵ	2(2)	1, 2, 3, 4																																													

② 「履修届」による申込み

「履修届」による申込みは、以下の要領で本誌巻末の「履修届」を作成し、教務課に提出してください。

履修登録年度	平成 30 年度		提出年月日	平成 30 年 4 月 1 日	
履修届					
学生番号	12171000	姓 氏名	ニチダイ 日大 花子	電話番号	090-0000-0000 <small>(必ず連絡のとれる電話番号を記入すること)</small>
科目コード		科目名		単位	
1	B10700	哲学	4	14	<input type="checkbox"/>
2	C10100	英語 I	2	15	<input type="checkbox"/>
3	C10200	英語 II	2	16	<input type="checkbox"/>
4	H10100	保健体育講義 I	1	17	<input type="checkbox"/>
5	L30100	行政学	4	18	<input type="checkbox"/>
6	K20100	憲法	4	19	<input type="checkbox"/>
7	K20200	民法 I	4	20	<input type="checkbox"/>
8	K20300	刑法 I	4	21	<input type="checkbox"/>
9	J101S0	体育実技 I	1	22	<input type="checkbox"/>
10	B11700	政治学	4	23	<input type="checkbox"/>
11	T10100	現代教職論	2	24	<input checked="" type="checkbox"/>
12	<input type="checkbox"/>			25	<input type="checkbox"/>
13	<input type="checkbox"/>				
記入例 0123456789 合計 28 単位 ← 年間 48 単位まで登録できます。 教職生および 2 学年以上の教職コース登録者は年間 60 単位まで登録できます。					
(3) (4) (5)					
日本大学通信教育部					

書き損じた場合は、修正テープ又は修正液で訂正してください。

訂正線で訂正する場合は、訂正印は不要です。

(1) 登録年度

本履修届にて履修登録する場合は、前期生は「平成 30 年度」、後期生は「平成 29 年度」と記入してください。

(2) 学生番号・氏名・提出年月日・電話番号

電話番号は、記載事項を確認する場合に使用します。確実に連絡のとれる電話番号を記載してください。

(3) 科目コード・科目名

科目コード及び科目名は、『学修要覧』又は『コース履修の手引』を確認し、科目コード（6ヶタ）を記入してください。不備がある場合は受理できませんので注意してください。

(4) 単位

各科目の所定単位を記入してください。

(5) 合計単位

必ず合計単位数を記入してください。

【よくある不備】

- ・科目コード及び科目名の記入漏れ
- ・科目コードと科目名の不一致
- ・不配当科目的記入（例：3 学年から履修登録できる科目を 2 学年で「履修届」に記入する。）
学部や入学年度によって名称が異なる科目や登録できない科目があります。
特に教職コースの科目は注意が必要です。
- ・「卒業論文」、「博物館実習Ⅱ」及び「博物館実習Ⅲ」、「教育実習」及び「教育実践指導」及び「教育実習事前・事後指導」、「教職実践演習」は履修登録する必要はありません。従って履修届には記載しないでください。
- ・「履修届」とは別の手続きとなります。『学修要覧』及び『コース履修の手引』を確認してください。
- ・履修登録済みの科目的記入
一度履修登録した科目は在学中有効ですので、再度履修登録することはできません。
もし記入された場合は、『履修登録エラーライブ』に『すでに履修登録済みの科目です。』と表記されます。
- ・スクーリング等で所定単位が 4 単位の科目で、2 单位分修得している科目は登録できません。履修登録済と同様扱いとなります。
- ・単位修得済み科目的記入
単位修得済み科目的登録はできません。
もし記入された場合は、『履修登録エラーライブ』に『修得済みのため再履修できません。』と表記されます。
- ・年間登録単位を超過
年間 48 単位（教職生及び 2 学年以上の教職コース履修生は 60 単位）まで履修できます。
もし超過して記入された場合は、『履修登録エラーライブ』に『履修制限単位を超えた履修登録はできません。』と表記されます。

③ 履修登録上の注意

- 「履修届」の不備内容によっては、受理せず返却する場合があります（不受理）。したがって、科目修得試験やスクーリング併用試験方式等の履修登録締切日以前に「履修届」が大学に到着していても、不受理の場合は履修登録にならず、試験の申し込みができません。
- 履修登録を行っただけでは、教科書の配本はありません。配本申請を別途行う必要があります。
- 履修登録済みの科目の変更、取消しは同一履修年度かつ学修を行っていない（リポート未提出、スクーリング申込みなし等）場合のみ可能です。追加は上限に達していない場合、Web 履修登録や巻末の「履修届」をコピーして使用してください。
- 履修登録を行っただけでは、スクーリングの申込みとはなりません。後述の『2 講座を申し込む』を必ず行ってください。申込みが完了しておらず、受講料を納入していない場合、受講は認めません。

2 講座を申し込む

申し込み上の注意事項

「ポータルサイト」と「受講届」の両方で申込みがあった場合は、「ポータルサイト」の内容を有効とします。

① 「ポータルサイト」による申込み

●申込みの前に

1	申込みには、ID とパスワードが必要です。 ID = 学生番号 初期パスワード = 自分の西暦生年月日（半角数字8桁）
2	申込みには、パソコンのメールアドレスの登録が必要です。 登録していない場合は、「ポータルサイト」にある「NU-AppsG（在学生専用メールアカウント）」を参照して登録してください。
3	事前に履修登録が必要です。履修登録を行っていない科目は表示されません。 ●ページ参照

●申込方法

1	通信教育部公式ホームページ (URL: http://www.dld.nihon-u.ac.jp) の「在学生ログイン」をクリックしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し、「スクーリング申請・取消」をクリックしてください。	

<p>3 「未申請スクーリング一覧」から申請したいスクーリングのチェックボックスを選択し、申請ボタンをクリックしてください。</p> <p>※履修登録を行った科目のみ表示されます。 必ず事前に履修登録を行ってください。</p>	
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

●受付完了

申請受付が完了すると、登録されているパソコンのメールアドレスに申請受付メールが配信されます。配信されない場合は、「スクーリング・メディア授業申請・取消」内の「申請済みスクーリング一覧」に該当講座があることを確認してください。

●申込確認

隨時、「ポータルサイト」で確認することができます。

<p>1 申込方法の1の手順で、ログインしてください。</p> <p>2 「学生メニュー」を選択し、「スクーリング・メディア授業情報一覧」をクリックしてください。</p>	
<p>3 申込みをしたスクーリング・メディア授業の一覧が表示されますので、内容を確認してください。</p>	

●申込内容の変更・取りやめ

申込期間内に限り、「ポータルサイト」で変更・取りやめをすることができます。

<p>1 申込方法の1～2の手順で、申請中のスクーリングの画面まで進んでください。</p> <p>2 「申請済みスクーリング一覧」より取消したいスクーリングのチェックボタンを選択し、取消ボタンをクリックしてください。申込内容を変更する場合は、いったん取消後、再度申請してください。</p>	
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

※申込期限後に、スクーリング申込はできません。

- ② 「受講届」による申込み（ポータルサイトで申込みを行った場合は不要です）
「受講届」による申込みは、以下の要領で本誌巻末の「受講届」を作成し、教務課に提出してください。

(1) 記入上の注意

(ア) 講座コード

開講講座のコード番号です。記入にあたっては、「開講講座表」の「講座コード」欄を参照してください。

(イ) 講座名

開講される講座の名称です。この講座名を「開講講座表」を参照の上、記入してください。間違えて「充当科目名」を記入しないよう注意してください。

(ウ) 充当科目コード

開講講座の単位修得により充当できる科目のコード番号です。記入にあたっては、「開講講座表」の「科目コード」欄、及び後掲の「(2) 注意事項」を参照してください。

(エ) 学生番号・氏名

(2) 注意事項（「総合科目」、「英語」などの外国語科目及び「各演習科目」など）

例えば、「英語」の講座は、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」及び「英語Ⅳ」という科目を含んで開講されます。今回のスクリーリングで「英語Ⅰ～Ⅳ」のどの科目に充当させるかは、各自の履修状況・履修計画によって異なります。したがって、英語をスクリーリングで受講する際には、「受講届」に記載する充当科目コードによって「英語Ⅰ～Ⅳ」のうちどの科目で受講するのか、各自が大学に申告しなければなりません。

「受講届」では4桁の講座コードと6桁の充当科目コードの計10桁のコードによって、受講講座（科目）を登録します。コードは「開講講座表」の「講座コード」欄、「科目コード」欄に記載されています。

「英語」の場合、「開講講座表」の「科目コード」欄に4つのコードが記載されていますが、各自の履修計画に合致する科目（「英語Ⅰ～Ⅳ」のいずれか）のコードを、1つ選択してください。

(エ) 内をすべて記入してください。				提出年月日 平成 年 月 日
昼間・土曜スクリーリング（前期）受講届				
学生番号	フリガナ	姓 名		
種別コード A1	(イ)			(ウ)
曜日 時限	講座コード	講 座 名	充当科目コード	
1 火	1 A B 1 1	政治学	B 1 1 7 0 0	
2 水				
3 木				
4 金				
5 土				
6 日				
7 月				
8 金				
9 土				
10 日				
11 月				
12 金				
13 土				
14 日				
合計 講座（14講座まで登録できます。）				
<記入例>				
曜日 時限	講座コード	講 座 名	充当科目コード	
1 火 1 A B 1 1	政治学	B 1 1 7 0 0		
※書き間違った場合は修正マークで正直で訂正してください。 ※本欄で他のスクリーリングの受講申込はできません。				
提出締切日：[窓口] 4月19日（火）教務取扱時間内厳守 [郵送] 4月19日（火）必着				
事務局使用欄				

《記入例》（講座「英語 C」において「英語Ⅲ」を選択した場合）

講 座 コ ー ド	開講講座名	担当講師名	充 当 科 目	
			科 目 コ ー ド	科 目 名
●●●●	英語 B	○○ ○○	C10100	英語 I
			C10200	英語 II
			C10300	英語 III
			C10400	英語 IV
▲▲▲▲	英語 C	○○ ○○	C10100	英語 I
			C10200	英語 II
			C10300	英語 III
			C10400	英語 IV

(イ)

(ア)

(工)

(ウ)

- (ア) 希望する講座として「英語 C」を選択。
 - (イ) 「英語 C」を選択したことによって講座コードは「▲▲▲▲」となる。
 - (ウ) その講座で充当する科目として「英語Ⅲ」を選択。
 - (工) 「英語Ⅲ」を選択したことによって充当科目コードは「C10300」となる。
 - (オ) 「受講届」の記入は、講座コードに「▲▲▲▲」、充当科目コードに「C10300」と記入します。また講座名に「英語 C」と記入します。
- ※「・・・演習」という講座も同様で、例えば「英語学演習」の場合、「英語学演習 I」、「英語学演習 II」及び「英語学演習 III」という科目を含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語学演習 I～III」のどの科目に充当させるかを「受講届」に記入する充当科目コードによって各自が大学に申告してください。

記入上の注意事項

- (1) 黒のボールペンを使用し、楷書で正確に記入してください。
- (2) 「受講届」提出締切後の追加、変更はできません。
- (3) 記入誤り、記入漏れによる追加変更は一切いたしません。
- (4) 次の場合、大学の判断により事務的な処理にて講座の決定を行いますので、希望講座を受講できない可能性があります。
 - ・乱雑な記入
 - ・記入誤り、記入漏れ
 - ・記入した講座コード、講座名、充当科目コードの不一致

(3) 「受講届」を提出する（提出締切日は表紙を参照）

「受講届」の記入が終わったら、申込内容の控えをとり、「受講届」を教務課に提出してください。提出方法は以下の2通りです。

ア 教務課窓口に直接提出

教務課前に設置のポスト（白色）に投函してください。【提出期限は事務取扱時間内】

イ 郵送で提出する

「受講届」を封筒に入れ、切手貼付の上、郵送してください。【提出締切日必着】

郵送提出においての注意事項

天災や郵便の遅延・未着そのほかの事故については、いかなる配慮も行いません。

「受講届」が教務課に届かなかった場合、受講ができなくなりますので、特定記録郵便・簡易書留・書留を強くお勧めします。

特定記録郵便の場合、大学での受領記録が残りませんので、「スクーリング受講資格審査結果通知書」が届くまで、郵送した際の受領証を必ず保管してください。紛失の場合、郵便追跡確認ができなくなります。

また、リポート等、他の書類と一緒に送付するとその間にはさまってしまい、事故の原因になります。「受講届」は単体で送付してください。

3 受講講座の変更・追加

① 受講講座変更届の作成

用紙で受講講座の変更・追加をする場合は、本誌巻末の「受講講座変更届」を使用し、以下の記入例を参考に作成してください。なお、ポータルサイトを利用することで、変更届を出さずに受講講座の変更・追加が可能です。

※変更・追加のために、複数の「受講届」用紙を使用した場合や他のスクーリングの「受講届」を使用した場合は、正しい申込みが判別不能となり、申込みが「無効」となりますので、決して使用しないでください。

また、変更届はスクーリング毎に用紙を分けてください。

② 記入事項

変更・追加する事項の記入を行うほかに変更前の申込講座の「スクーリング開催期」「講座コード」「講座名」及び「充当科目コード」を明記してください。また、学生番号・氏名も忘れずに記入してください。

※記入する講座が2講座以上の場合にはコピーして使用してください。

③ 提出先・提出方法

「受講届」提出と同様です。

④ 提出締切

「受講届」提出の締切日と同一（4月19日（木））です。別途の日程はありません。

※郵送の場合は受講届の提出と同様に提出締切日までの必着です。

《記入例》

平成 30 年 4 月 19 日								
日本大学通信教育部 御中								
平成 30 年度スクーリング受講講座変更届								
標記のことについて、既に「受講届」にて申し込んだ受講講座を下記のとおり変更いたしました。 本書面をもってお願ひいたします。								
記								
(当初の受講講座)								
スクーリング 開講期	講 座 コ ード	講 座 名	充 当 科 目 コ ー ド					
火曜 1 時限	AB11	政治学	B11700					
火曜 2 時限	AB21	心理学 B	B12100					
火曜 3 時限	AB31	英語 A	C10100					
(変更後の受講講座)								
スクーリング 開講期	講 座 コ ード	講 座 名	充 当 科 目 コ ー ド					
火曜 1 時限	AB11	政治学	B11700					
火曜 4 時限	AB41	哲学 A	B10700					
火曜 5 時限	AB51	英語 B	C10100					
上記のとおり相違ありません。								
学 生 番 号	2	2	1	7	3	9	9	9
フ リ ガ ナ	ニ	チ	ダ	イ	タ	ロ	ウ	
氏 名	日	大	太	郎				
自 宅 電 話 番 号	03-5275-8911							
緊 急 時 電 話 番 号								
				教務課受付印				
提出締切日：〔窓口〕4月19日（木）事務取扱時間内厳守 〔郵送〕4月19日（木）必着								

VII 申込講座の許可と不許可

1 受講許可を確認する

申込内容に基づき大学が受講資格審査を行い、その結果を受講資格審査結果通知により通知します。ポータルサイトでの申請者には送付されません。ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて同様の通知を PDF ファイルで閲覧できますので、確認してください。

《受講資格審査結果通知書例》

スクーリング受講資格審査結果							
受講が許可された場合は、「○」 が表示されます。				2018年 5月 11日 スクーリング種別： 昼間・土曜（前期） 開催地： 東京			
講座コード	講座名	担当講師	受講許可	併用	充当科目	充当科目名	単位
AB25	日本史入門	鍋本 由徳	○	-	Q20100	日本史入門	2
<p>①</p> <p>②</p> <p>昼間・土曜スクーリングは、 スクーリング併用試験方式に よる受講ができないため、 「-」が表示されます。</p> <p>申込みに不備があった場合 に表示されます。【主な不 備理由一覧】を参照ください。</p>							
<p>〒102-8005 東京都千代田区九段南 4-8-28</p> <p>日大 太郎 様 22173999</p> <p>(スクーリング受講資格審査結果通知)</p> <p>日本大学通信教育部 東京都千代田区九段南4-8-28 電話：03-5275-8911</p> <p>なお、異議のある場合は、教務課（試験係）まで問い合わせてください。 ポータルサイトと受講届（はがき）の両方から申込みがあった場合、「希望日程重複」のメッセージが表示されますが、 一方で受講許可が「○」になっていれば問題ありません。</p>							

① 充当科目コードの確認

必ず充当科目コード・単位を確認してください。

「充当科目コード」及び「開講単位数」欄に記載された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。

「英語」や「演習」などのように「I, II, III…」の区別のあるものや、科目の名称が類似している科目がありますので、十分注意してください。

スクーリング併用試験方式で申込みをした科目であっても、単位数はスクーリング開講単位が記載されています。

② 講座コード・講座名・時間割の確認

必ず講座コード・講座名・時間割を確認してください。

「講座コード」欄に記載された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。受講申込者数により講座が分割されている場合があります。

【主な不備理由一覧】

○履修なし

受講届のみ提出している場合に表示されます。スクーリングの受講はできません。

○希望日程重複

ポータルサイトと受講届の両方で申込みを行った場合に表示されます。スクーリングの受講は可能です。

○科目修得試験方式確定

科目修得試験にすでに合格している場合に表示されます。スクーリングの受講はできません。

(ポータルサイトから申込む場合、修得済の科目は表示されません)

2 講座振り分け及び受講不許可について

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者が定員を超えた場合、以下の①から③のいずれかで対応させていただきます。

① 超過した人数分の学生を他講師担当の同一科目講座へ振り分ける

② 新たに他講師担当の同一科目講座を増設し、超過した人数分の学生をその講座へ振り分ける
※①及び②の場合、振り分けられた講座を受講することになります。担当講師、授業内容は振り分けられた講座の内容に変更されますのでご注意ください。

③ 超過した人数分の学生を受講不許可にする

※希望した講座が受講できることになります。また、新たに代わりの講座を申し込むこともできません。あらかじめご了承ください。

振り分けられた講座の受講を辞退する場合には、「3 許可講座を辞退する」を参照し、辞退手続を行ってください。なお、①及び②についても受講辞退後、新たに代わりの講座を申し込むことはできません。あらかじめご了承ください。

3 許可講座を辞退する

この手続は、振込用紙を受け取った後、やむを得ない理由等により受講許可講座の全部又は一部の受講ができなくなった場合、その講座の辞退を行う手続です。

ただし、この辞退手続はスクーリング受講料等納入前であることが条件となります。スクーリング受講料等納入後に受講辞退の意思表示があったとしても受講料等は一切返還しません。

また、一部辞退を行わないまま、希望する講座を受講しようとした場合、受講申込講座全ての受講料をお支払いいただくことになります。

講座の辞退を行う場合には以下により手続を行ってください。

① 手続書類

以下の(1)及び(2)を教務課試験係まで提出してください。

- (1) 「受講申込辞退願」【各種用紙】
- (2) 振込用紙
- (3) 362円分郵便切手（大学からの再送付時の速達郵便料）を貼付した、長形3号（A4判三つ折の用紙が入る大きさ）の返信用封筒（自己の郵便番号、住所及び氏名を明記）

※(3)は、一部の講座を辞退する場合のみ必要です。

② 手続期限 いかなる場合でも期限後は手続できません。

5月18日（金）《事務取扱時間内必着》

③ 提出先 教務課試験係

事務取扱時間内であれば窓口での提出もできます。

※この手続は他の講座への変更・追加申込みではありませんので注意してください。

受講許可の下りた講座に対し、振込用紙を送付します。

申込講座の辞退がない場合、受講料を期限までに納入してください。

納入がない場合、いかなる理由があっても受講はできず、成績も反映されません。

1 受講料：1講座 10,000 円×受講講座数

「情報概論」のみ 13,000 円（コンピュータ等実習料を含むため）

2 振込用紙発送予定日：5月 11 日（金）

3 納入期限：5月 25 日（金） 銀行窓口 ※当日取扱時間まで

4 納入方法

必ず、大学から送付される振込用紙により銀行窓口から振り込んでください。

注 意 事 項

① 納入に際しての注意事項

- (1) 銀行（ゆうちょ銀行を除く）窓口のみの取扱いとなります。会計課窓口及び郵送での納入はできません。
- (2) 自動振込機（ATM）及びネットバンキングからの納入は受付けません。
銀行係員が勧めても使用しないでください。
- (3) 振込用紙に記載された事項を訂正したものは受け付けできません。

② その他の注意事項

- (1) 発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は、至急会計課に連絡してください。
また、期日までに納入できない事情が発生した場合は、至急教務課に連絡してください。
- (2) 領収書（銀行領収印の押印されているもの）は、受講時及び試験時に提出を求められる場合があります。
受講期間中は、学生証と共に常に携帯してください。
- (3) 受講料等を納入したのちに受講申込辞退の意思表示があったとしても、受講料等の返還は行いません。

1 使用教材の入手

スクーリングは集中講義形式の授業ですので予習なしでの受講は学修効果が期待できません。受講許可後、本誌のシラバス（教科書、参考書）で使用教材が、『通信教育教材』か『市販教材（市販本）』かを確認の上、以下の要領で教材を入手してください（教科書等の価格・送料はシラバスに記載されています）。

教材入手方法の見分け方は、後掲の「③教材入手方法の見分け方」を参照してください。

注 意 事 項

すでに所持している『通信教育教材』であっても、教材改訂によりシラバスに記載されている「教科書」や「参考書」と異なる場合がありますので、科目名のみによらず、シラバスに掲載されている「教材コード」と所持する『通信教育教材』の教材コードとを照合し、不一致の場合は、教材を入手してください。

なお、教材購入後の変更・取消及び費用の返還はできませんので注意してください。

① 使用教材が『通信教育教材』の場合

通材 印が付されている教材は、本誌「各種用紙」の「教材配本申請書」を使用し配本申請または「教材購入願」を使用し購入してください。既に今回の使用教材を入手している場合は、改めて「教材配本申請書」によって配本申請または「教材購入願」によって購入する必要はありません。教材の送付先は、すべて大学に登録されている各自の住所への発送となります。教材が手元に届くまでは手続完了後、約1週間を要しますので、受講許可を確認した後、速やかに手続きを行ってください。

※本手引掲載の教材価格は平成30年度の教材価格です。

なお、『通信教育教材』について不明な点は、研究事務課（電話 03-5275-8890）にお問い合わせください。

② 使用教材が『市販教材（市販本）』の場合

『市販教材（市販本）』は、一般書店で購入してください。住居地周辺の書店で購入できない場合、**丸沼**印のついている本については、丸沼書店で購入できます。

(書店名) (株) 丸沼書店

(所在地) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-8-12

(電 話) 03-3261-4540

(F A X) 03-3261-0118

(営業時間) 9:00 ~ 20:00 (日曜日: 10:00 ~ 19:00)

(購入方法) 直接店頭(143ページを参照)で購入のほか以下(1)~(3)の方法で通信販売も可能です。

(1) 代金引換払 (手数料260円が別途かかります)

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、上記あてに郵送又はFAXをしてください。

(2) 為替（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額分の定額小為替又は普通為替を同封して上記あてに郵送してください。

(3) 現金書留（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格+送料の合計金額を同封して上記あてに郵送してください。

不明な点は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

『市販教材（市販本）』の価格・送料は『手引』作成時の金額です。改訂等により金額が変わることもあります。あらかじめご了承ください。

③ 教材入手方法の見分け方

※事前資料送付・当日資料配布については、教務課（電話 03-5275-8911）にお問い合わせください。

④ スクーリング受講に伴う六法の携行及び指定の六法

法律系の科目を受講する場合、特にシラバスに記載がなくとも『六法』は必携となりますので、各自用意の上、授業に臨んでください。

通信教育部指定の六法について

スクリーニング試験時に参考が許可される『六法』は、次の9種類に限ります。ただし、担当講師から別途指示がある場合は、この限りではありません。

《試験時に参照が許可される六法》

岩波書店『コンパクト六法』、『セレクト六法』、『基本六法』

吉次曾著『エントハ・シトハ六法』、『コレント
有斐閣『六法全書』、『ポケット六法』

第一法規『司法試驗用六法』、『旧司法試驗用六法』、『新司法試驗用六法』

二 省堂『デイリー六法』

注意事項：

- (1) 上記指定の『六法』に、書き込み等がある物は、参照物として認められません。したがって、『六法』は学修時に使用するものと試験時に使用するものとで別に用意してください。

(2) 判例・解説つきのもの（『六法』付録の小冊子等を含む）は参照物としては認められません。

2 通学定期券の購入手続

通学定期券は、正科生がスクーリング受講を目的として通学する場合に限り購入できます。通学定期券購入の手続き等は、以下のとおりです。

学生証裏面シールへの記入	① 「学生番号」、「氏名」、「現住所」を黒のボールペンで記入してください。 ② 「通学区間」欄に対象区間及び経由（乗り換え駅）を記入してください。また、定期券が2枚に分かれる場合は2行に分けて記入してください。
学生課窓口で記入する所定用紙について	① 通学定期乗車券発行控（全員必要）[本誌巻末 141 ページ参照] ② 通学証明書（都営地下鉄、都電、各路線バス等を利用する場合及び三崎町キャンパスに通学する場合に必要） ③ 滞在先届（スクーリング期間中に現住所以外から通学する場合に限り必要）
対象区間	自宅（又は滞在先）の最寄駅から「通信教育部最寄の駅」までの最短経路
購入手続き	① 上記「通学定期乗車券発行控」を記入の上、学生証持参で事務取扱時間内に学生課窓口にて「経路確認」印の押印を受けてください。 ② 通学定期券取扱駅の窓口にて定期券購入用紙に必要事項を記入し、押印済の学生証を提示することで通学定期券が購入できます。
その他注意事項	① 通学区間が変更となった場合は、学生課に届け出してください。 ② 年度内に学生証裏面シールの「通学定期乗車券発行控」欄が不足となった場合は、学生課へ届け出してください。 ③ 「経路確認」印は、スクーリング期間内に限り有効です。 ④ 科目履修生は対象外です。

【通信教育部最寄り駅】

鉄道会社	最寄駅（市ヶ谷キャンパス）
JR東日本	総武線 市ヶ谷駅
都営地下鉄	新宿線 市ヶ谷駅
東京メトロ	有楽町・南北線 市ヶ谷駅

※最短経路とは所要の時間が最短、交通費が最安、乗換が最少である等の合理的な経路のことといいます。

※途中経路や迂回経路は一切認められません。

注意事項

通学定期券を不正に使用してはいけません。不正使用したことが発覚すると、鉄道会社等の営業規則に基づき定期運賃の数倍の罰則金等が科せられます。また、大学自体も通学定期券発行の指定から外され、他の学生に多大な迷惑をかけることになります。不正使用は絶対に行わないでください。

【不正使用の例】

① 通学以外の目的で使用すること。	③ 記名人以外が使用すること。
② 現住所及び通学区間を偽ること。	④ 他人に譲渡・貸与すること。

MEMO

X 保健体育講義Ⅰ，体育実技の受講について

保健体育講義Ⅰ及び体育実技は他の講座と異なり、日本大学文理学部にて実施されます。申込締切日程、授業時間等も異なりますので、以下の事項をよく確認してください。

1 受講申込から受講料納入までの流れ

①受講手続説明会	『昼間・土曜スクーリング（前期）の手引』を読み、受講手續方法から試験までの流れを確認。受講制限・時間割を確認し、受講講座を選択する。
----------	--------------------------------------------------------------------



②授業開始までの準備	授業期間は2日間もしくは3日間にわたります。シラバスや時間割をよく読み、受講講座を選択してください。特に下記の項目を事前に確認すること。 ①開講日程及び時間割 ②使用教材（教科書）の有無 ③準備学修 ④成績評価基準 【要確認】授業期間に出席可能なこと。
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



③履修登録・受講申込締切	申込締切：7月11日（水） (窓口提出) 18時00分（事務取扱時間）まで (ポータルサイト) 締切日 24時00分まで 提出先：(郵送) 提出締切日 必着 (窓口) 教務課窓口提出 事務取扱時間内厳守 ※1 受講届で申し込んだ講座がわかるように必ず申込内容の控えを取り各自で保管してください。 ※2 提出期限を過ぎてからの追加・変更はできません。7月11日(水)までに受講予定の全ての講座を決定した上で提出してください。
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



④受講許可の確認	ポータルサイト上の「スクーリング・メディア授業情報一覧」にて申し込んだ講座が「申請許可」になっているか確認してください。 ※受講届提出者には、「スクーリング受講資格審査結果通知書」を送付しますので、そちらで確認してください。 必ず以下の内容を確認してください。 ※1 申込講座・時間割の確認及び担当講師 ※2 充当科目コード
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



次ページにつづく

⑤受講料の振込用紙発送	<p>受講許可者には、スクーリング受講料の振込用紙を郵送します。</p> <p>発送予定日：7月25日（水）</p> <p>発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は会計課へ連絡してください。</p>
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



↓	許可講座の辞退	<p>手續期限：8月2日（木）</p> <p>提出書類：①受講申込辞退願 ②振込用紙 ③返信用封筒（362円分の切手貼付） ※③は一部講座辞退手続き者のみ</p>
---	---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------



⑥受講料の納入	<p>ポータルサイト（又はスクーリング受講資格審査結果）及び「振込用紙」に記載された事項を確認の上、受講料を下記の納入期限までに納入してください。</p> <p>受講料納入期限：8月13日（月）</p> <p>銀行窓口のみ ※当日取扱時間まで</p> <p>※ 受講料（1講座 10,000円）</p>
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



⑦手続完了	保健体育講義・体育実技の手続は完了です。 領収書は、スクーリング受講中は必ず携行してください。
-------	----------------------------------------------------

時限	講座コード	開講講座名	担当講師	単開位数講	充 当 科 目		制 限・注 意			受才 一 講
					科 目 コ ー ド	科 目 名	併用	配当学年	受 講 条 件	
別 日 程	AT11	保健体育講義 I	高橋 正則	1	H10100	保健体育講義 I	×	1年	・スクーリング 1回の合格で単位完成する科目です。	
	AT12	体育実技 I・II	高橋 正則	1	J101S0	体育実技 I	×	1年	・スクーリング 1回の合格で単位完成する科目です。 ・I・IIのどちらに該当させるか充当科目コードを必ず記入してください。	
					J102S0	体育実技 II				

◆健康・体力の維持増進について考える

〔保健体育講義 I〕

担当者：高橋 正則

◆学修到達目標 生涯を通じて最も大切な健康とは何か、また、健康・体力の維持増進のために何が必要かについて、基本的な知識を身につけます。この授業では、それらの知識が実際に自らの生活習慣に結びつくための基礎づくりをねらいとしています。

◆授業方法 講義形式の授業ですが、資料はパワーポイントによってスクリーンに示しながら、それに沿って授業を進めます。また、必要な場合には、配布資料を準備する予定です。授業の最後に、講義内容からレポートや課題を出す場合があります。

◆準備学修 新聞やテレビなどのマスコミを通して、健康・体力に関する情報に日頃から注目するよう心がけてください。

◆授業計画（各 120 分）

1日目	午前：ガイダンス（スケジュール、受講時の注意等） コミュニケーションスキル、体力の定義を理解する 午後：体力トレーニングとトレーナビリティー、効果的な運動学習とは (講義の順番等は変更する場合があります)
2日目	午前：メンタルヘルスをチェックする、オリンピズムとは何か？ 午後：現代社会と健康、まとめおよび試験 (講義の順番等は変更する場合があります)

◆教科書 **【当日資料配布】** 使用しない。（授業時、必要に応じて資料を配布します）

◆参考書 使用しない。

◆成績評価基準 授業への取り組みおよびレポート・試験結果によって総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：連絡先および方法は初回の授業時に伝えます。

◆運動・スポーツに親しむ

〔体育実技 I・II〕

担当者：高橋 正則

◆学修到達目標 高齢社会を迎え、健康・体力の維持増進の必要性はますます重要になってきています。この授業では、運動・スポーツの実践を通して、その楽しさや重要性を認識し、適度な運動習慣を日常生活習慣に取り込んでいくための基礎づくりをねらいとしています。

◆授業方法 原則として天候に左右されない体育館での授業とし、小グループで色々な運動やスポーツ（卓球やバドミントンなどのネット型競技を中心）を体験しますが、年齢相応、体力相応の参加の仕方を理解します。また、体力測定を通して、体力の現状を自覚し、その維持増進についての認識を高めます。

◆準備学修 1日 20 分以上の連続歩行と、軽い柔軟運動の実施を心がけてください。

◆授業計画（1日目：480 分／2日目：510 分／3日目：360 分）

1日目	ガイダンス（施設の使用方法および注意事項等）、グループ分け、準備運動、レクリエーション、体力測定（握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳び等）、自己評価、体力の維持増進についての解説 班別スポーツ種目の展開（1）卓球・バドミントン・ミニテニス・バレーボール等 (施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります)
2日目	班別スポーツ種目の展開（2）卓球・バドミントン・ミニテニス・バレーボール等 班別スポーツ種目の展開（3）卓球・バドミントン・ミニテニス・バレーボール等 (施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります)
3日目	班別スポーツ種目の展開（4）卓球・バドミントン・ミニテニス・バレーボール等 班別対抗ソフトバレー大会（施設等の事情により、スポーツ競技が変更となる場合があります）

◆教科書 使用しない。

◆参考書 使用しない。

◆成績評価基準 授業への取り組みおよび自己の体力に合った運動への理解と遂行の程度によって総合的に評価します。

◆授業相談（連絡先）：連絡先および方法は初回の授業時に伝えます。

3 日程・会場等

① 日程

【雨天決行】

講座名	日 程	授業時間
保健体育講義 I	9月5日・9月6日	10:00～16:30
体育実技 I・II	9月2日～9月4日	9:00～17:30

※上記すべての日程に出席すること。

② 実施会場

保健体育講義 I：日本大学文理学部 3号館

体育実技：日本大学文理学部総合体育館及び百周年記念館

住 所 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

交通案内 京王線下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約 10 分

…次頁案内図参照

③ 持参物

- ・運動のできる服装（トレーニングウェア等）
 - ・室内用運動靴
 - ・健康保険証
 - ・学生証
 - ・筆記用具
 - ・スクーリングの手引
 - ・領収書（初回出席時は必携のこと）
- 「保健体育講義 I」のみの受講生は不要

④ 体育実技の集合場所・集合時間

日本大学文理学部総合体育館入口 8:45 から受付開始

※毎回、総合体育館入口に集合し、遅くとも授業開始5分前までに出席確認を受け、更衣後、実施会場に移動してください。

⑤ 受講について

体育実技は必修科目となっていますが、疾病及び身体等の障害により実技を行うことが困難であると思われる方は、受講申込前に教務課までお問い合わせください。

⑥ 注意事項

- (1) 保健体育講義、体育実技の単位は9月卒業の単位には算入できません。
- (2) 体育実技はジーンズや普段着での受講はできません。
- (3) 文理学部周辺は住宅地で付近に食事をする場所が少なく、また、当日、文理学部内の食堂は利用できない可能性があるため、食事は事前に済ませるか、持参することをお勧めいたします。
- (4) 体育実技の更衣室は文理学部総合体育館及び百周年記念館内にあります。ただし、更衣室内のロッカーは使用できないため、更衣後、荷物は受講会場へ持参してください。
- (5) 貴重品は各自で管理してください。
- (6) 体育実技は授業開始 15 分前から出席をとります。受付及び更衣の時間を考慮の上、必ず遅ることのないようにしてください。
- (7) このスクーリングに関するお問い合わせは、必ず通信教育部にしてください。
文理学部はあくまで校舎の貸出をしているだけなので、授業講堂等のお問い合わせには回答できかねます。あらかじめご了承ください。

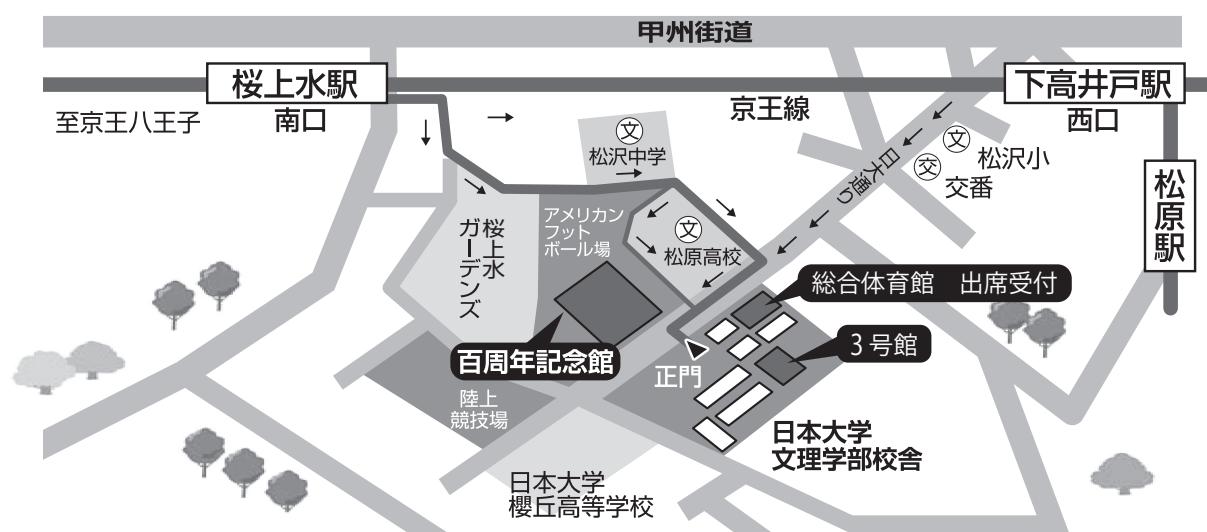
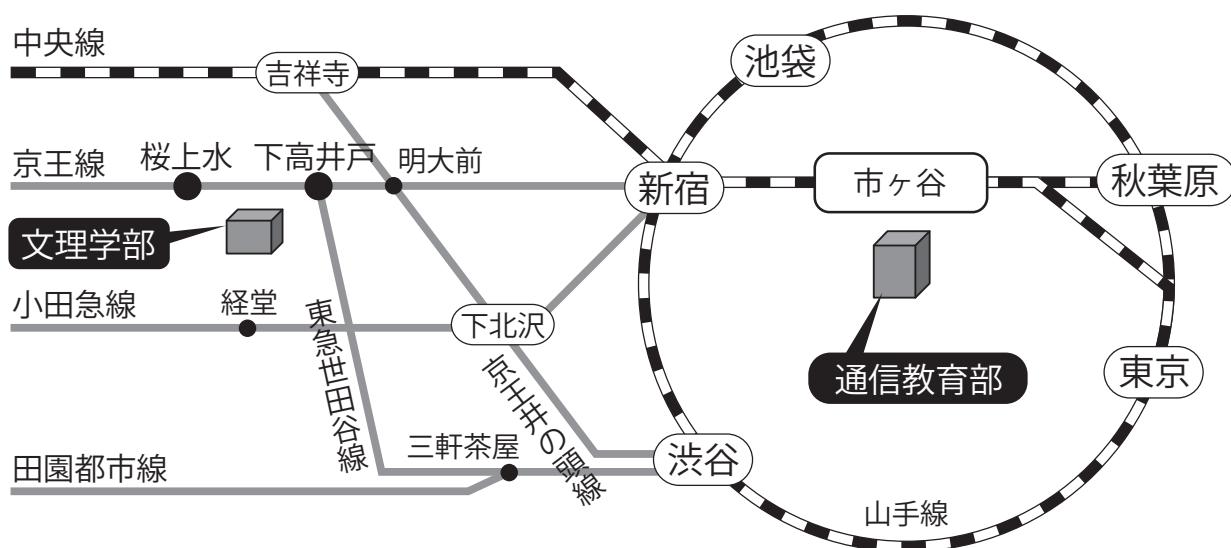
文理学部までの交通

○ JR 市ヶ谷駅から

JR 総武線・中央線各駅停車（新宿・中野方面）で新宿駅下車。京王線各駅停車、快速及び急行のいずれかに乗り換え、下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約 10 分。通信教育部から約 45 分。

○ 都営地下鉄新宿線市ヶ谷駅から

新宿・笹塚方面、笹塚駅下車。京王線各駅停車、快速及び急行のいずれかに乗り換え、下高井戸駅及び桜上水駅下車徒歩約 10 分。通信教育部から約 40 分。



4 スクーリング結果の確認

スクーリングの結果は、教務課から平成30年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に対し、ポータルサイトでお知らせします。ただし、スクーリングの申込みを「受講届」で行った場合のみ、教務課から結果通知を郵送します。ポータルサイトから申込みを行った場合には送付されませんので、あらかじめご了承ください。掲載の開始はポータルサイトの「お知らせ」に掲載します。

電話・郵便による問合せには一切応じることができません。また、「スクーリング結果通知書」の再発行はいたしません。天災による郵便の遅延・未着や、その他の事故に対していかなる配慮も行えませんので、「スクーリング結果通知書」を紛失した場合などはポータルサイトで確認、又は「単位照合票」の交付を受け、確認してください。

結果内容に疑義がある場合は、結果通知日から3ヶ月以内に問い合わせください。なお、それ以降の疑義に関しては対応いたしません。

結果発表時期	平成30年10月上旬
--------	------------

※9月卒業の単位には算入できません。

① 結果の表示

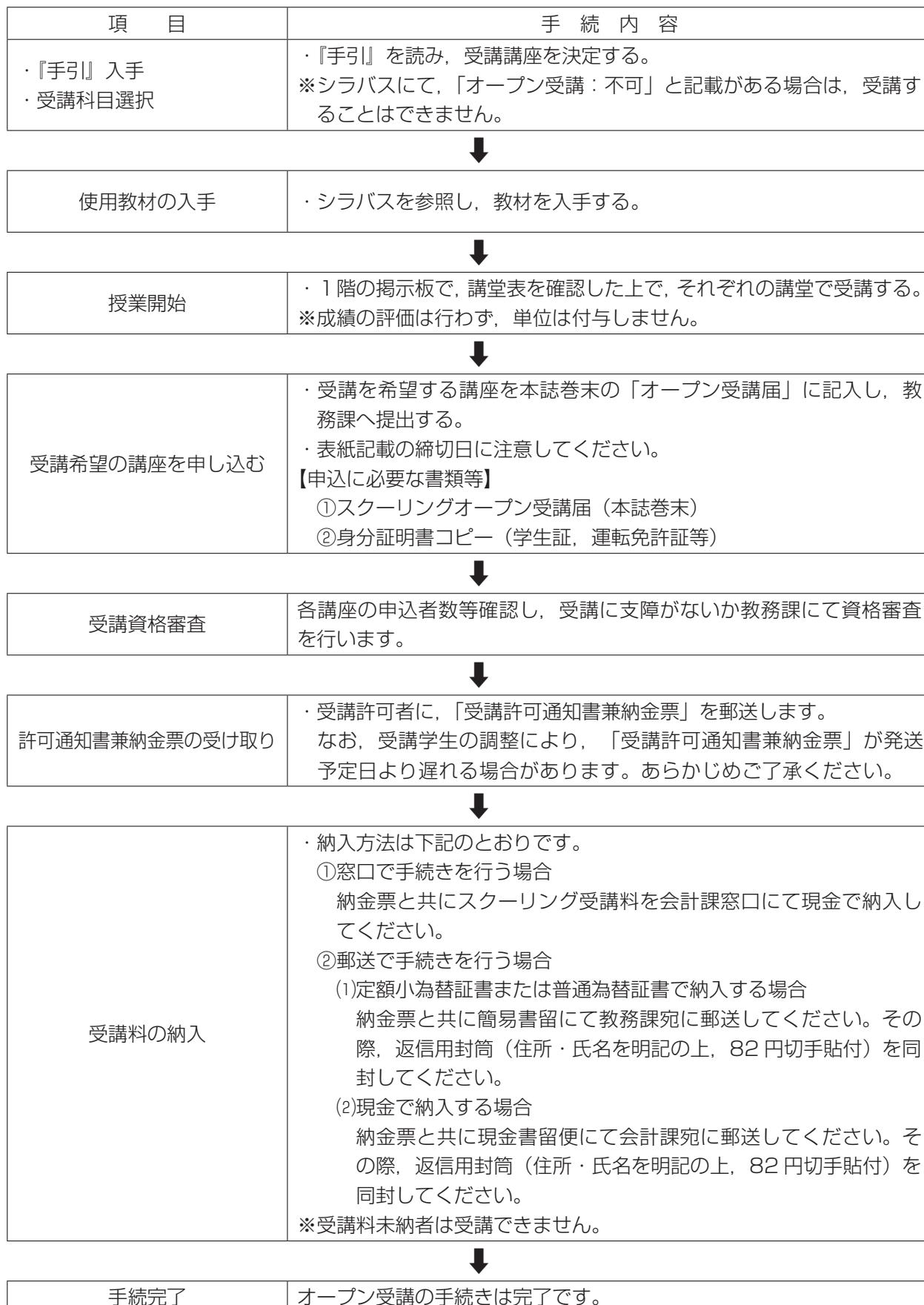
結果は、「合格」、「不合格」、「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし、単位は修得できません。

② 単位数

結果が「合格」の場合、開講講座表に記載されている開講単位数を修得したことになり、また同時にスクーリング単位も修得したことになります。「講座内容（シラバス）」に記載されている単位数が、それぞれの科目（講座）のスクーリング単位数です。

通信教育部の在学生で既に修得した科目的受講を希望する場合もしくは社会人等（卒業生を含む）で受講を希望する場合、オープン受講の申込をすることで受講することができます。下記、流れに従い、手続きを行ってください。



肺結核等の感染症予防を目的として、「胸部X線間接撮影」を実施しています。大学では集団感染を防止する義務があるので、必ず受診してください。また、毎年受診が必要です。

1 対象者

対象者	①昼間・土曜スクーリング受講者 ②夜間スクーリング受講者
受診対象から除く者	上記①②対象者であっても、次に該当する場合は受診対象から除く。 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に教育実習又は介護等体験を受講する場合。 ・検査実施日の6か月以内に医療機関において検査を受けている場合。該当する場合は、検査の結果を証明できる診断書（コピー可）を提出する。 ・妊娠等の理由により検査を受けることができない場合。該当する場合は任意の理由書を提出する。 ・就職活動用の健康診断を受診予定の場合。

2 受診日及び時間

平成30年5月22日（火）～5月25日（金）4日間（予定）
 10時00分～18時30分（13時00分～14時00分を除く）
 ※男女別に受診時間を分けて実施いたします。

3 場所及び受診方法

1階学生ホールに受付を設置します。事前申込は不要。各自都合の良い日・時間に受診してください。

4 受診料

無料（大学負担）

5 受診結果

全員に通知します。なお、受診・健康診断証明書は一切発行しません。

6 その他注意事項

女性は下着の金属類が写ってしまうため、白無地のTシャツ等を用意してください（検診車内で着替え可）。その他、相談は学生課（03-5275-8921）までお問い合わせください。

MEMO

- ・履修届
- ・昼間・土曜スクーリング（前期）受講届
- ・昼間・土曜スクーリング（前期）保健体育講義Ⅰ・体育実技受講届
- ・オープン受講届（在学生用）
- ・オープン受講届（社会人等（卒業生用））
- ・スクーリング受講講座変更届
- ・受講申込辞退願
- ・保健体育講義Ⅰ・体育実技受講申込辞退願
- ・教材配本申請書
- ・教材購入用紙（丸沼書店用）
- ・教材購入願（通信教育教材用）
- ・通学定期乗車券発行控

講座の選定

時間割

（火曜日）シラバズ開講講座表

（水曜日）シラバズ開講講座表

（木曜日）シラバズ開講講座表

（金曜日）シラバズ開講講座表

（土曜日）シラバズ開講講座表

受講及び試験

受講手続

許可と不許可

受講料の納入

受講準備

保健体育講義Ⅰ

オープン受講

胸部X線検査

各種用紙

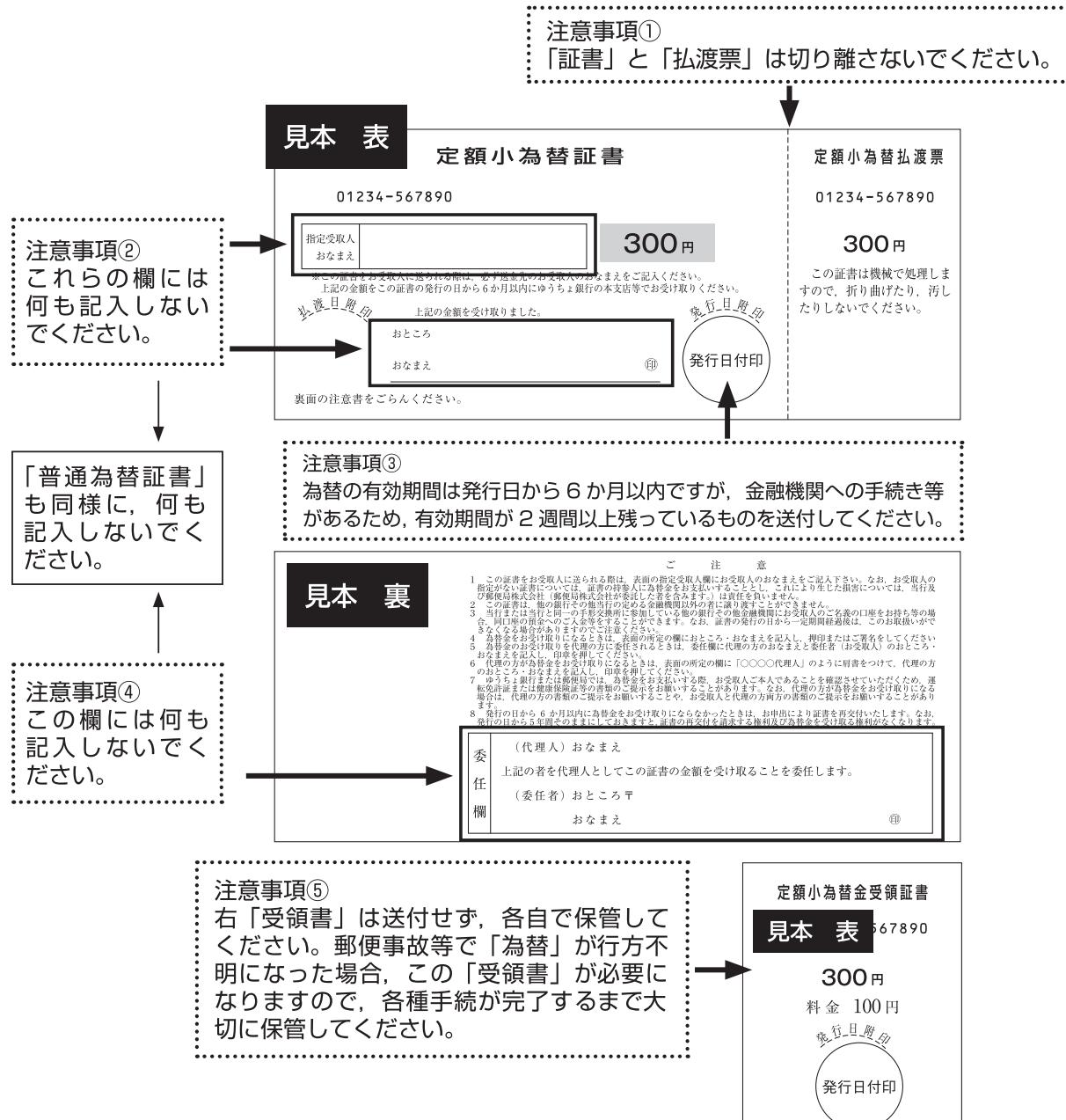
付

録

「為替」送付時の注意事項

「証明書交付願」「教材購入願」等の各種手続において、手数料等を郵送にて「定額小為替証書」又は「普通為替証書」で納入する場合には、以下のことに注意してください。

なお、「定額小為替証書」又は「普通為替証書」をゆうちょ銀行又は郵便局窓口で購入する際は、手数料がかかります（詳細は郵便局窓口でご確認ください）。





履修登録年度 平成 年度

履修届

提出年月日 平成 年 月 日

学生番号	氏名	フリガナ	電話番号 (必ず連絡のとれる電話番号を記入すること)
------	----	------	-------------------------------

科目コード	科目名	単位	科目コード	科目名	単位
1		14	15		
2		16	17		
3		18	19		
4		20	21		
5		22	23		
6		24	25		
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					

記入例 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

合計 単位 ←

年間 48 単位まで登録できます。
教職生および 2 学年以上の教職コース登録者は
年間 60 単位まで登録できます。

内をすべて記入してください。

提出年月日

平成 年 月 日

昼間・土曜スクーリング（前期）受講届

学生番号									フリガナ	
									氏名	

種別コード	A1
-------	----

	曜日	時限	講座コード	講 座 名	充当科目コード
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
合計		講座（14講座まで登録できます。）			

<記入例>

	曜日	時限	講座コード	講 座 名	充当科目コード
1	火	1	A B 1 1	政治学	B 1 1 7 0 0

※ 書き損じた場合は修正テープ、修正液で訂正してください。

※ 本票で他のスクーリングの受講申込はできません。

※ 履修登録を行っていない科目は、本用紙のみでは申込が完了しません。

必ず、履修登録を行ってください。

提出締切日：【窓口】4月19日（木）事務取扱時間内厳守

【郵送】4月19日（木）必着

事務局使用欄

保健体育講義 I

体育実技

□ 内をすべて記入してください。

平成 年 月 日

平成 30年度昼間・土曜スクーリング（前期） (保健体育講義 I ・ 体育実技) 受講届

受講希望欄 (○をつけてください)	講座名 (講座コード)	充当科目名 (充当科目コード)	
	保健体育講義 I (AT11)	保健体育講義 I (H10100)	
	体育実技 (AT12)		体育実技 I (J101S0)
			体育実技 II (J102S0)



体育実技を受講希望する場合は、
充当科目をどちらか選択し、○を
つけてください。

- 提出締切日 〔7月 11日（水）必着〕
- 郵送又は窓口にて、提出してください。
- **これは、昼間・土曜スクーリング（保健体育講義 I ・ 体育実技）の受講届です。それ以外のスクーリングをこの受講届で申し込んだ場合、無効となります。**
- 平成 30年9月卒業の単位には算入できません。
- 本受講届は、上記スクーリングの受講に関する事項について使用します。
- 履修登録を行っていない科目は、本用紙のみでは申込が完了しません。必ず、履修登録を行ってください。

学 生 番 号							
フ リ ガ ナ							
氏 名							
自 宅 電 話 番 号							
緊 急 時 電 話 番 号							

平成 年 月 日

スクーリングオープン受講届

下記のとおり、スクーリングのオープン受講を希望します。

学部・学科	学部	学科 専攻 ()
学年	年	学生番号
フリガナ		
氏名		

【希望スクーリング】

スクーリング 種別		開催地	
講座名	講座コード	講座名	
	講座コード	講座名	
受講希望由 理			

学生証コピー貼付欄

【提出書類】

- スクーリングオープン受講届
- 学生証コピー

事務局使用欄

スクーリングオープン受講届

下記のとおり、スクーリングのオープン受講を希望します。

卒業時 学部・学科	学部	学科 専攻（　　）	学外
住所等	〒 -	Tel: - -	
フリガナ			
氏名			

【希望スクーリング】

スクーリング 種別		開催地	
講 座 名	講座コード	講座名	
	講座コード	講座名	
受講希望由			

身分証明書コピー貼付欄

【提出書類】

- スクーリングオープン受講届
- 身分証明書コピー

事務局使用欄

* 身分証明書として「マイナンバーカード」は、原則として使用できません。不明な点は、確認してください。

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中

平成30年度スクーリング受講講座変更届

標記のことについて、既に「受講届」にて申し込んだ受講講座を下記のとおり変更いたしました。本書面をもってお願ひいたします。

記

(当初の受講講座)

スクーリング 開講期	講 座 コード	講座名	充当科目 コード

(変更後の受講講座)

スクーリング 開講期	講 座 コード	講座名	充当科目 コード

上記のとおり相違ありません。

学 生 番 号								
フ リ ガ ナ								
氏 名								
自 宅 電 話 番 号								
緊 急 時 電 話 番 号								

教務課受付印

提出締切日： [窓口] 4月19日（木）事務取扱時間内厳守
[郵送] 4月19日（木）必着

併せて提出するもの

全講座辞退→振込用紙

一部講座辞退→振込用紙

返信用封筒（長形3号、362円切手貼付）

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中

平成30年度昼間・土曜スクーリング（前期）受講申込辞退願

1 学生番号 _____

2 氏名（フリガナ）_____

3 連絡先電話番号 _____ - _____ - _____

4 辞退内容 全講座辞退

（□にチェック） ⇒ 振込用紙記載講座すべてを辞退する場合

一部講座辞退

⇒ 振込用紙記載講座の一部を辞退する場合、「**辞退講座のみ**」を以下へ記入

講座コード	講座名	講座コード	講座名

5 辞退理由（詳述）

※ 提出期限【教務課必着】5／18（金） ※提出期限以降の辞退手続きはできません。

※ 振込用紙と一緒に送付すること。

※ この「辞退願」は「平成30年度昼間・土曜スクーリング（前期）」専用です。他のスクーリングの辞退手続には使用できませんので、各スクーリング専用の「辞退願」を使用してください。

※ 一部講座辞退の場合、362円分の郵便切手（大学からの再送付時の速達郵便料を貼付した長形3号（A4判三つ折の用紙が入る大きさ）の返信用封筒（自分の郵便番号・住所・氏名を明記）を同封すること。

※ 辞退手続は1回しかできません。

教務課受付印	会計課受付印

併せて提出するもの

全講座辞退→振込用紙

一部講座辞退→振込用紙

返信用封筒（長形3号、362円切手貼付）

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中

平成30年度昼間・土曜スクーリング（前期）
(保健体育講義I・体育実技)受講申込辞退願

1 学生番号 _____

2 氏名(フリガナ) _____

3 連絡先電話番号 _____ - _____

- 4 辞退内容 全講座辞退
(□にチェック) ⇒ 振込用紙記載講座すべてを辞退する場合
 一部講座辞退
⇒ 振込用紙記載講座の一部を辞退する場合、**「辞退講座のみ」**を
以下へ記入

講座コード	講座名

5 辞退理由(詳述)

- ※ 提出期限【教務課必着】8／2(木)
※ 提出期限以降の辞退手続きはできません。
※ 振込用紙と一緒に送付すること。
※ この「辞退願」は「平成30年度昼間・土曜スクーリング（前期）保健体育講義I・体育実技」専用です。他のスクーリングの辞退手続には使用できませんので、各スクーリング専用の「辞退願」を使用してください。
※ 一部講座辞退の場合、362円分の郵便切手（大学からの再送付時の速達郵便料を貼付した長形3号(A4判三つ折の用紙が入る大きさ)の返信用封筒(自分の郵便番号・住所・氏名を明記)）を同封すること。
※ 辞退手続は1回しかできません。

教務課受付印	会計課受付印

配本申請（無料）

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先：研究事務課)

教 材 配 本 申 請 書

学 生 番 号						氏 名	
連絡先電話番号						- - -	

(太線枠内にボールペンで記入してください)

No	教材コード (科目コードではありません)				教 材 名	配 本 単位数
1	0	0				単位
2	0	0				単位
3	0	0				単位
4	0	0				単位
5	0	0				単位
6	0	0				単位
7	0	0				単位
8	0	0				単位
9	0	0				単位
10	0	0				単位
合 計						単位

ポータルサイト「教材発送照会」の「配本申請」から申請できます。
ポータルサイトから申請できない方は、この用紙を使用してください。
※年度内2回まで、計32単位分まで教材の申請ができます。
※科目履修生は申請できません。「教材購入願」にて購入してください。
※消えないボールペンを使用し、記入してください。
※書ききれない場合には、用紙をコピーして2枚用いてください。
※「教材コード」は『教材要綱』『各種スクーリング手引』で確認し、記入してください。「教材コード」と「科目コード」は異なりますので注意してください。
※2冊組教材はセットコードを記入してください。
※スクーリング等で指定する[内添]表記の教材は、対象外です。

事務局使用欄

—「教材配本申請書」、「教材購入願」—

研究事務課

通信教育部教材を入手する場合は、以下のとおり、手続きしてください。

1 教材の入手方法について

通信教育部で扱う教材は、「通信授業」（在宅学修）を目的とした教材です。

一部のスクーリング等で、通信教育教材（**通材**と表記）を使う場合も、対象となります。

通信教育部で扱う教材の入手方法は、2通りあります。

なお、教材コード・販売価格等は『ポータルサイト』・『スクーリングの手引』に掲載されます。

① 「教材配本申請書」による配本（無料）

正科生のみ対象となります。年度内2回まで合計32単位分まで申請できます。

所定の「教材配本申請書」で申請してください。

一度提出した書類の追加・変更はできません。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「配本申請」からも申請できます。

② 「教材購入願」による購入（有料）

教材を有料で購入することができます。

科目履修生の教材入手や、「教材配本申請書」の回数・単位数の上限を超えた場合、他の理由で教材を入手したい場合には、有料で購入することができます。

教材を購入する場合、「教材購入願」に必要事項を記入し、次の手続により購入してください。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「教材購入」からも用紙を作成・出力できます。

(1) 窓口の場合

会計課窓口にある「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口で手続をしてください。

(2) 郵送の場合

『スクーリングの手引』巻末の「教材購入願」に必要事項を記入し、費用と併せて会計課に郵送してください（「教材購入願」裏面の注意事項を確認してください）。

ポータルサイトの「教材発送照会」画面の「教材購入」からも用紙を作成・出力できます。

2 注意事項

- ① 教材は「通信教育教材」に限り購入できます。スクーリング等で指定する市販教材（**丸沼**表記の教材）は、対象外です。
- ② 手続後の変更・取消し、納入金額の返還はできません。
- ③ 印刷教材は、大学登録住所あてに送付します。教材が手元に届くまで約1週間を要しますので、余裕をもって手続をしてください。
- ④ 窓口での教材配本はできません。

教材購入用紙(丸沼書店用)

市販教材(市販本) 購入用

※[丸沼]印の教材を郵送にて購入の際は、この用紙で申し込んでください。
詳細は、「使用教材の購入」のページを参照してください。

(送付先) 丸沼書店

平成30年度 昼間・土曜スクーリング			
申込日	平成30年 月 日		
科目名	書名	教材費(税込)	送料
小計		円	円
合計		円	
購入方法 (いざれかに○)	①代金引換 ②定額小為替・普通為替 ③現金書留		

※下記の住所、氏名の欄は返信用に使用しますのではっきり書いてください。

送り先	住 所	〒 -
	氏 名	
	電 話 番 号	()

※この用紙で『通信教育教材』は購入できません。
※不足する場合は複写の上、使用してください。

購入方法は裏面を参照してください。

【購入方法】

(1) ~ (3) の方法で通信販売も可能です。

(1) 代金引換払（手数料 250 円が別途かかります）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、下記宛てに郵送又はFAXをしてください。

(2) 為替（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格 + 送料の合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を同封して下記へ郵送してください。

(3) 現金書留（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格 + 送料の合計金額を同封して下記へ郵送してください。

不明な場合は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

※送料について

送料は書籍の総重量で変わります。それぞれの書籍の組み合わせにより送料が異なりますので、郵便為替・現金書留の場合、ご注文各書籍の送料の合計をお送りください。余った送料については、返金いたします。また、代金引換払の場合、書籍代 + 送料（実費）+ 手数料（250 円）を受取時にお支払いください。

(書 店 名) (株) 丸沼書店
(所 在 地) 〒 101-0061
東京都千代田区三崎町 2-8-12
(電 話) 03-3261-4540
(F A X) 03-3261-0118
(営 業 時 間) 9:00 ~ 20:00
(日曜日 : 10:00 ~ 19:00)

通材

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中
(提出先:会計課)

教材購入願 (通信教育教材用)

学生番号						氏名	フリガナ
連絡先電話番号						- - -	

教材コード	科目名	金額	スクーリング種別
			講座名
1 0 0 0			
2 0 0 0			
3 0 0 0			
4 0 0 0			
5 0 0 0			
6 0 0 0			
合計科目数		合計金額	
		科目	円

※ボールペンで記入してください。

※「教材コード・科目名・金額」は『ポータルサイト』『スクーリングの手引』で確認し、必ず記入してください。

「教材コード(6桁)」と「科目コード」は異なりますので、注意してください。

※「スクーリング種別・講座名」にはスクーリング・メディア授業において『通信教育教材』を使用する場合にのみ記入してください。

※『スクーリングの手引』における各講座の教科書(参考書)欄で指定されているもの、例えば、「**通材**『政治学 B11700』通信教育教材(教材コード 000279)」と記載されている教材を購入する場合は「政治学」を科目名として記入してください(受講科目ではなく指定された教材の科目名を記入)。

会計課領収印

(太線枠内にボールペンで記入してください)

「通信教育教材」の購入について

『通信教育教材』は「配本申請」または「教材購入」で入手できます。

「教材購入」をする場合、「教材購入願」を使用し、以下の手続きにしたがって教材を入手してください。また「教材購入願」で購入できる教材は、『通信教育教材』のみです。

スクーリング等で教科書・参考書に指定された『市販教材（市販本）』は丸沼書店又はお近くの書店で購入してください。

1 購入手続

① 窓口手続

「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口へ提出してください
(なるべく釣り銭のないようにしてください)。

② 郵送手続

現金書留又は為替が利用できます。

(1) 現金書留での購入

「教材購入願」と合計金額分の「現金」を現金書留封筒にて会計課あてに送付してください。**その際、必ず釣り銭のないようにしてください。**

注意：普通郵便の中に現金を封入することは、郵便法によって禁止されています。

また、郵便事故による補償もありませんので、必ず現金書留を利用してください。

(2) 為替での購入

「教材購入願」と合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を会計課あてに送付してください。

注意：郵便事故防止のため、なるべく簡易書留や特定記録郵便を利用してください。**為替には何も記入せず送付してください。**

2 注意事項

① 手続後の変更・取り消しはできません。また、返金もいたしませんので注意してください。

② 教材は大学に登録されている住所へ発送し、**窓口ではお渡ししません。**

教材が手元に届くまでに**約1週間**要しますので、特にスクーリング、メディア授業で使用する場合は「受講資格審査結果通知」を確認した後、速やかに購入手続きをしてください。

通学定期乗車券発行控

平成	年	月
学 科	学 年	学 生 番 号
大 学 院		

フリガナ	性 別	年 齡
氏 名	男・女	才

現 住 所	（ ）
電 話	

会社線名：	駅～駅
通学区間	会社線名：
	駅～駅

経由
経由

※記入後、学生課に提出すること。

日本大学通信教育部長 殿

平成 30 年度スクーリング受講に係る通学定期券の使用について

私は、平成 30 年度 以下のスクーリングを受講する予定です。
つきましては、当該スクーリングを受講しなくなつた場合には、学生課に申し出た上、通学定期券の使用を中止いたします。
なお、万一、不正使用した場合は、学則に基づく処分を受けることを誓約いたします。
また、本件について、大学から呼び出しされた場合は、その指示に従うこととを併せて誓約いたします。

受講スクーリング：

学 生 番 号
姓 名

以 上



※現住所・通学区間等に変更が生じた場合は学生課に届けること。
※現住所・通学区間等に偽りがあった場合には、学則により懲戒を行う。

校舎案内

市ヶ谷キャンパス

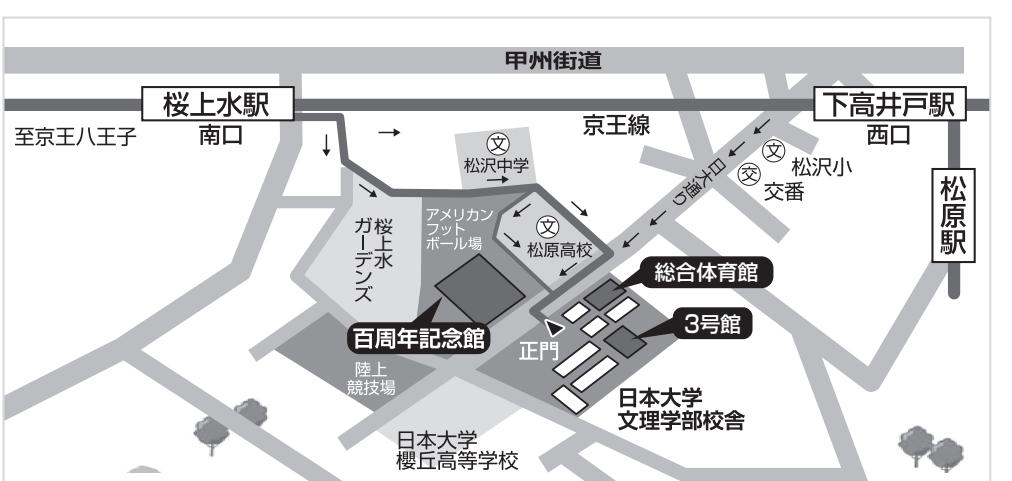
【所在地】〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28



JR 中央・総武線（各駅停車）市ヶ谷駅下車 徒歩3分
都営地下鉄新宿線、東京メトロ有楽町線・南北線
市ヶ谷駅 A2 出口から 徒歩2分

世田谷キャンパス

【所在地】〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40



京王線下高井戸駅 又は、桜上水駅から 徒歩約10分

丸沼書店案内図



JR 中央・総武線（各駅停車）、都営地下鉄三田線 水道橋駅東口から 徒歩2分
都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線 神保町駅 A4 出口から 徒歩5分

講座の選定
時間割
（火曜日） 開講講座 シラバズ便覧表
（水曜日） 開講講座 シラバズ便覧表
（木曜日） 開講講座 シラバズ便覧表
（金曜日） 開講講座 シラバズ便覧表
（土曜日） 開講講座 シラバズ便覧表
受講及び試験
受講手続
許可入と不許可
受講料の納入
受講準備
保健体育講義
オープン受講
胸部X線検査
各種用紙
付 録

MEMO

スクーリング手続 チェックシート

このシートは、受講届の記入からスクーリングを受講するまでの確認用です。

チ エ ッ ク 項 目	参 照
◆受講届の記入	
<input type="checkbox"/> 希望する科目的履修登録は済んでいますか	VII-1 履修登録をする表紙 (③履修登録締切日)
<input type="checkbox"/> 申し込む「受講届」用紙の選択に間違いはありませんか	巻末「受講届」
<input type="checkbox"/> [] 内の必要事項の記入漏れはありませんか (講座コード・講座名・充当科目コード・学生番号・氏名・電話番号)	VII-2 講座を申し込む ◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 講座コード・講座名・充当科目コードは一致していますか	◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 希望科目の受講条件は満たしていますか (配当学年・適用カリキュラム・その他受講条件)	IV-1 「開講講座表」の見方 ◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 申し込む開講曜日、開講时限は間違って記入していませんか	◆各スクーリングの開講講座表
<input type="checkbox"/> 修得済科目を申し込んでいませんか	・単位照合票 ・単位修得状況確認(ポータルサイト)
◆受講届の提出	
<input type="checkbox"/> 提出締切日に間に合いますか (郵送の場合は締切日必着)	表紙 (③受講届申込締切日) VI-2 講座を申し込む
<input type="checkbox"/> <推奨> 申込内容の控えはありますか(受講届のコピー)	
<input type="checkbox"/> 申込完了のメールは届いていますか(ポータルサイトからの申込の場合のみ)	
<input type="checkbox"/> <推奨> 特定記録郵便で発送しましたか	VI-2 講座を申し込む
◆受講料の納入	
<input type="checkbox"/> ポータルサイト「スクーリング・メディア情報一覧」又は、受講資格審査結果通知の内容と振込用紙の内容に間違いはありませんか	VII-1 受講許可を確認する
<input type="checkbox"/> 受講料の納入期限は厳守していますか	VIII 受講料等の納入



各種連絡先

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------------|
| ○スクーリングの手続等に関する事項
教務課 03-5275-8911 | ○各種学修相談に関する事項
学修支援センター 03-5275-8857 |
| ○受講料の振込に関する事項
会計課 03-5275-8925 | ○通学定期・学割・滞在先届に関する事項
学生課 03-5275-8921 |
| ○教材（教科書）に関する事項
研究事務課 03-5275-8890 | |

DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY

編集兼発行人 関 正晴 〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 日本大学通信教育部